

2-2 水道水の水質

(1) 飲み水としての水質の満足度

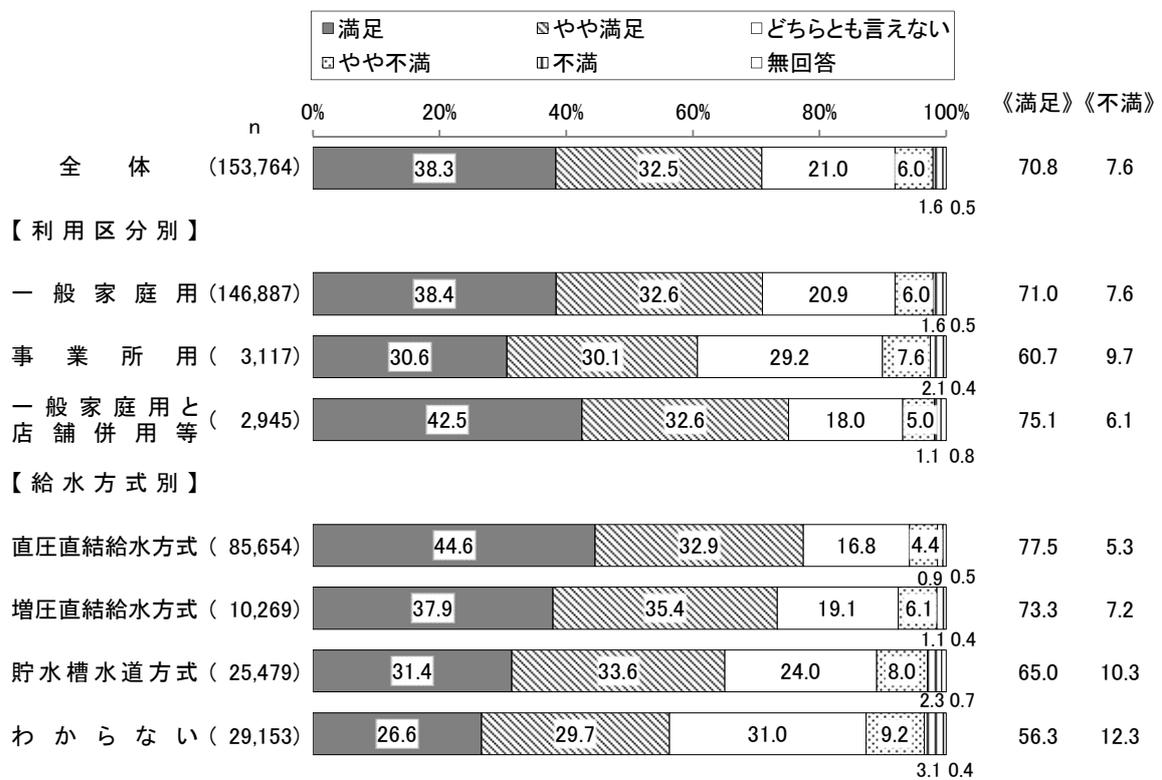
問 東京の水道水の飲み水としての水質を、どのように感じますか。

- 1) 満足 2) やや満足 3) どちらとも言えない 4) やや不満 5) 不満

[A : 問7、B : 問6、C : 問6、D : 問7]

[調査結果]

① 飲み水としての水質の満足度（利用区分別、給水方式別）〈図表2-2-1〉



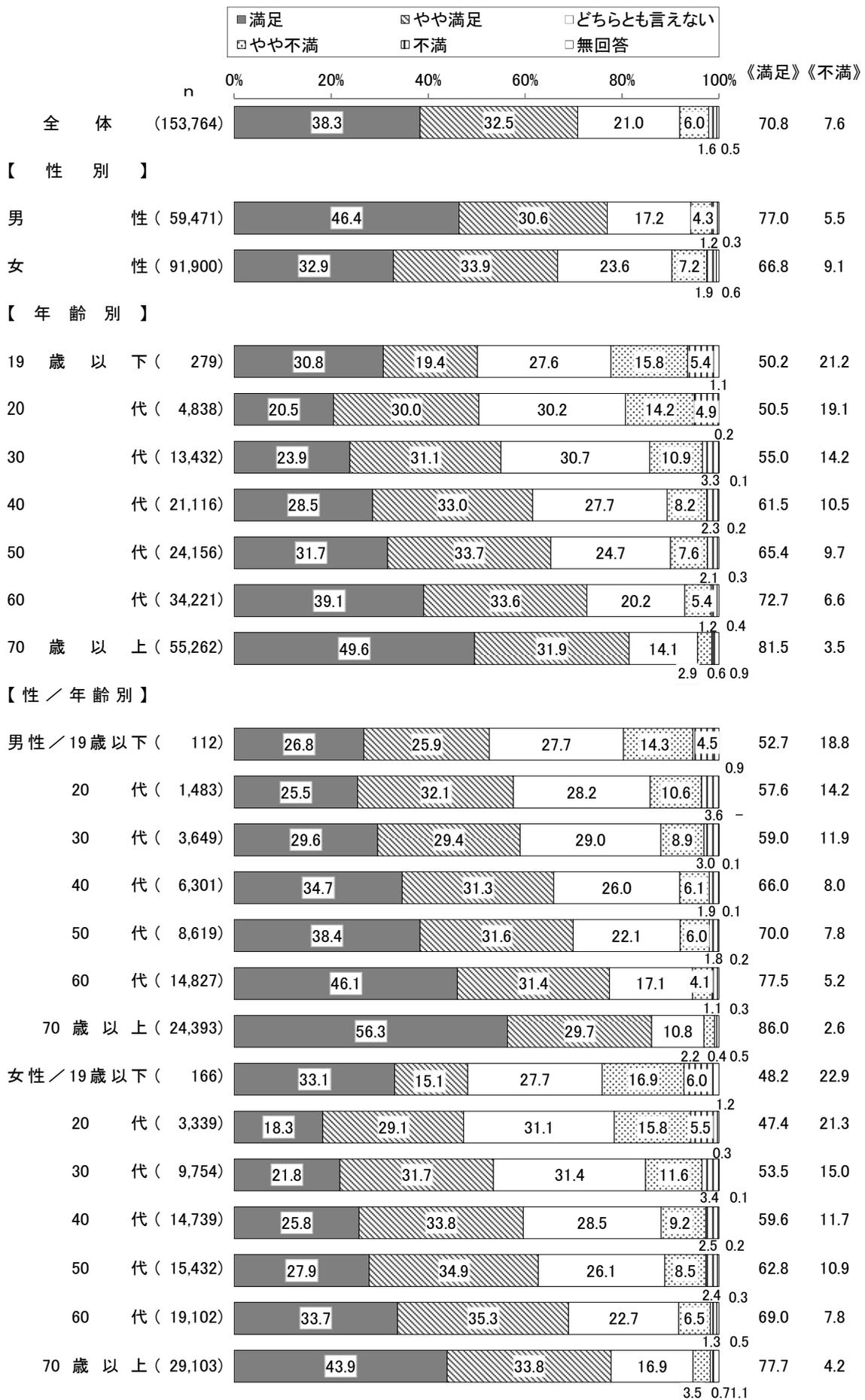
<特徴>

○全体で見ると、「満足」が38.3%と最も高く、「やや満足」(32.5%)を合わせた《満足》は70.8%となっている。一方、《不満》は7.6%となっている。

○利用区分別では、《満足》は、一般家庭用と店舗併用等で75.1%と最も高くなっている。

○給水方式別では、《満足》は、直圧直結給水方式で77.5%と最も高くなっている。

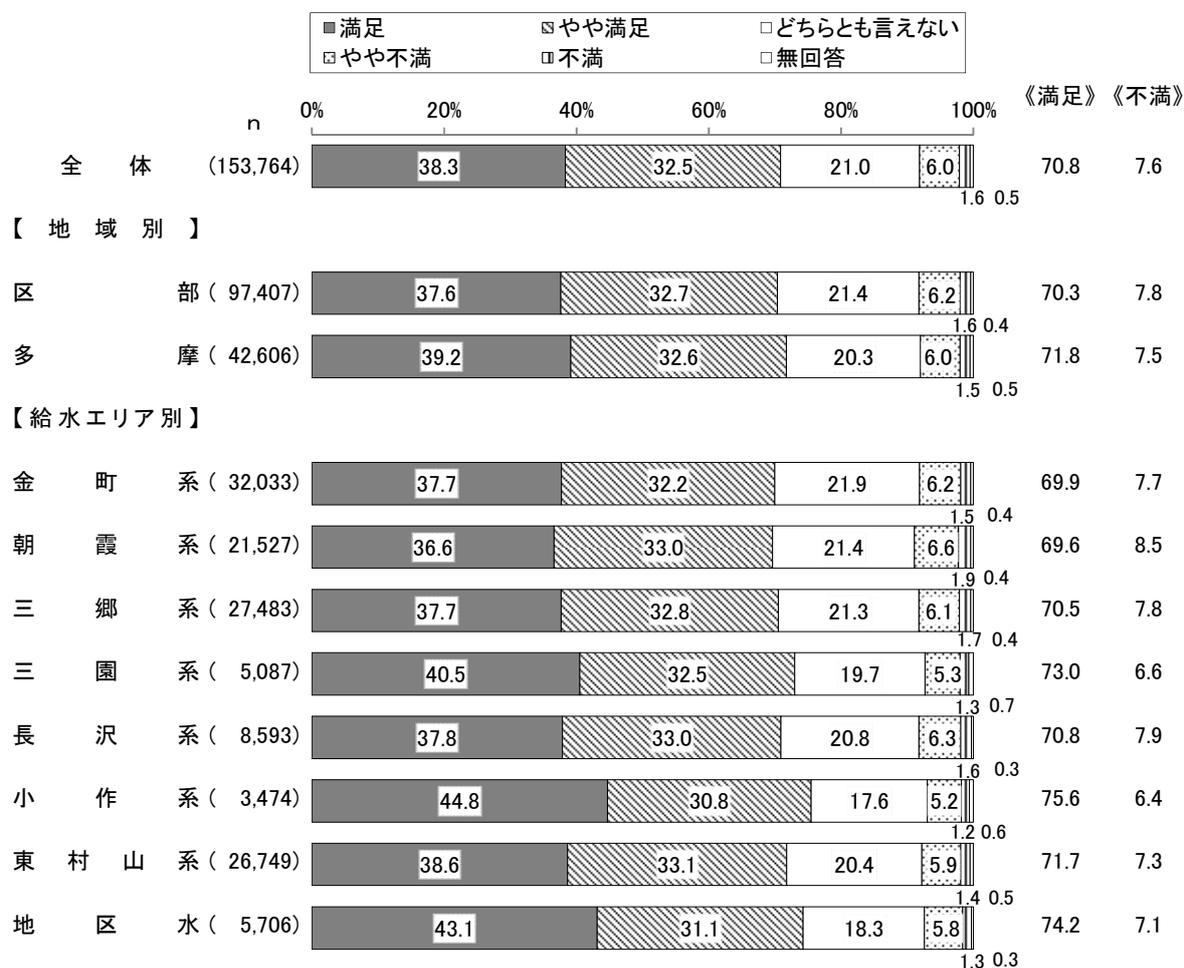
② 飲み水としての水質の満足度（属性別）〈図表 2-2-2〉



<特徴>

- 性別では、《満足》は、男性（77.0%）の方が女性（66.8%）より10.2ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《満足》は、19歳以下（50.2%）から年齢が上がるにつれ割合が高くなり、70歳以上（81.5%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《満足》は、男女とも70歳以上（男性：86.0% 女性：77.7%）で高く、女性の20代（47.4%）と19歳以下（48.2%）で5割を下回っている。

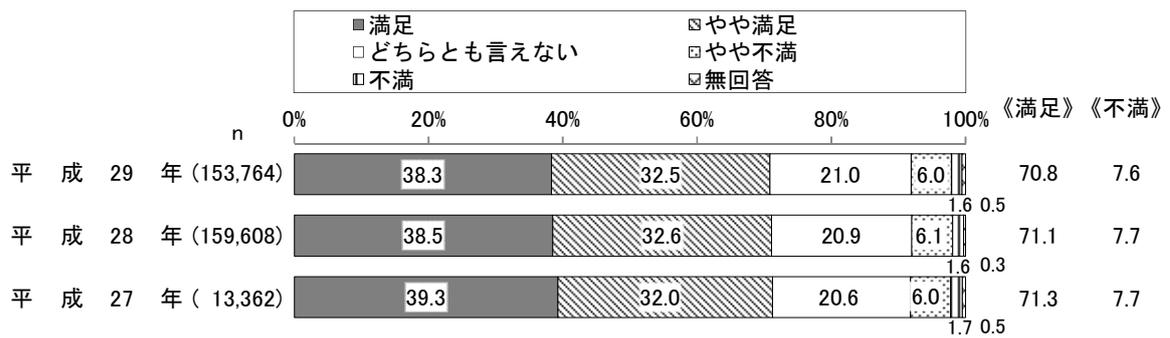
③ 飲み水としての水質の満足度（地域別、給水エリア別）〈図表2-2-3〉



<特徴>

- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、《満足》は、小作系（75.6%）で最も高く、次いで、地区水（74.2%）となっている。

③-1 飲み水としての水質の満足度（時系列：全体）〈図表2-2-4〉

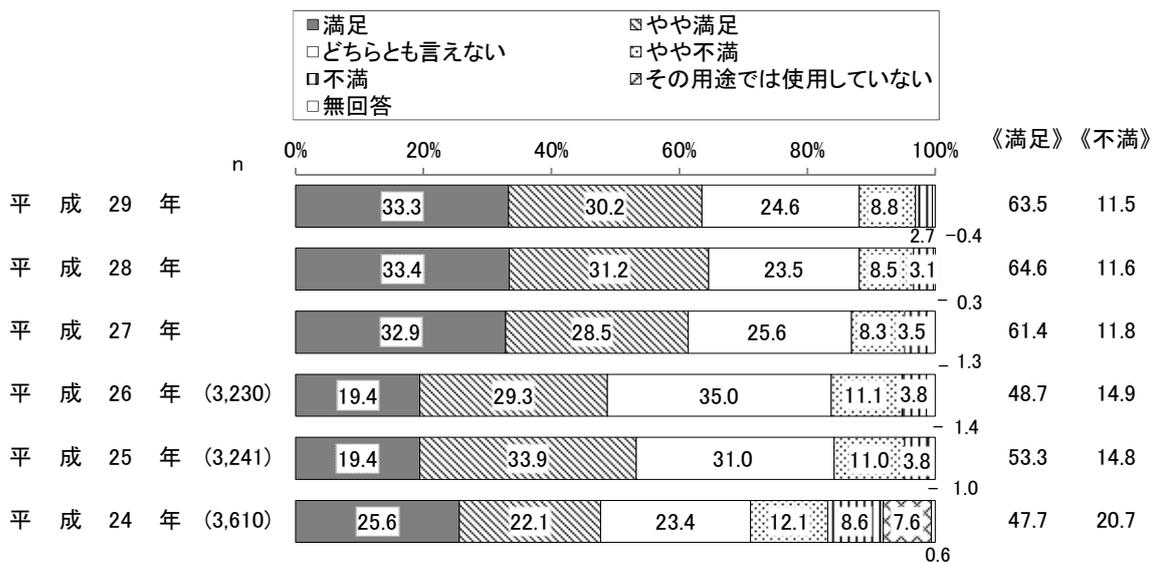


＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、「満足」が7割強、「どちらとも言えない」が2割強で推移している。

参考 飲み水としての水質の満足度（時系列：全体）〈図表2-2-5〉

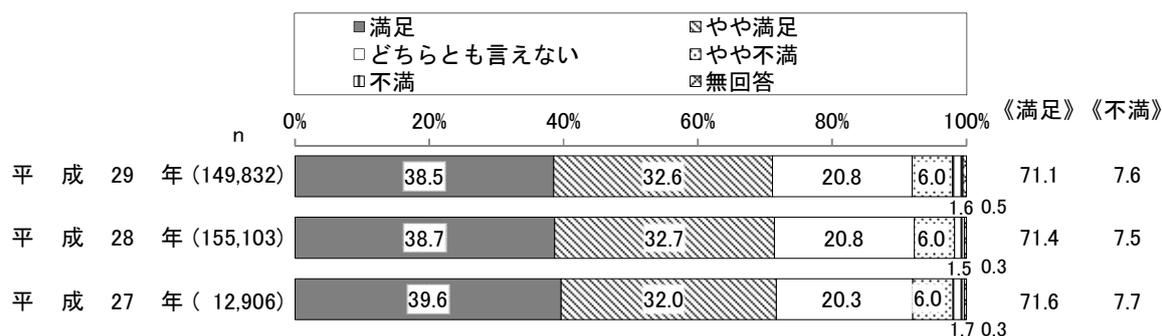


＜特徴＞

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査を全体で見ると、「満足」が33.3%で最も高く、「やや満足」(30.2%)を合わせた《満足》は63.5%となっている。「どちらとも言えない」は24.6%となっている。

③-2 飲み水としての水質の満足度（時系列：「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計）

〈図表2-2-6〉



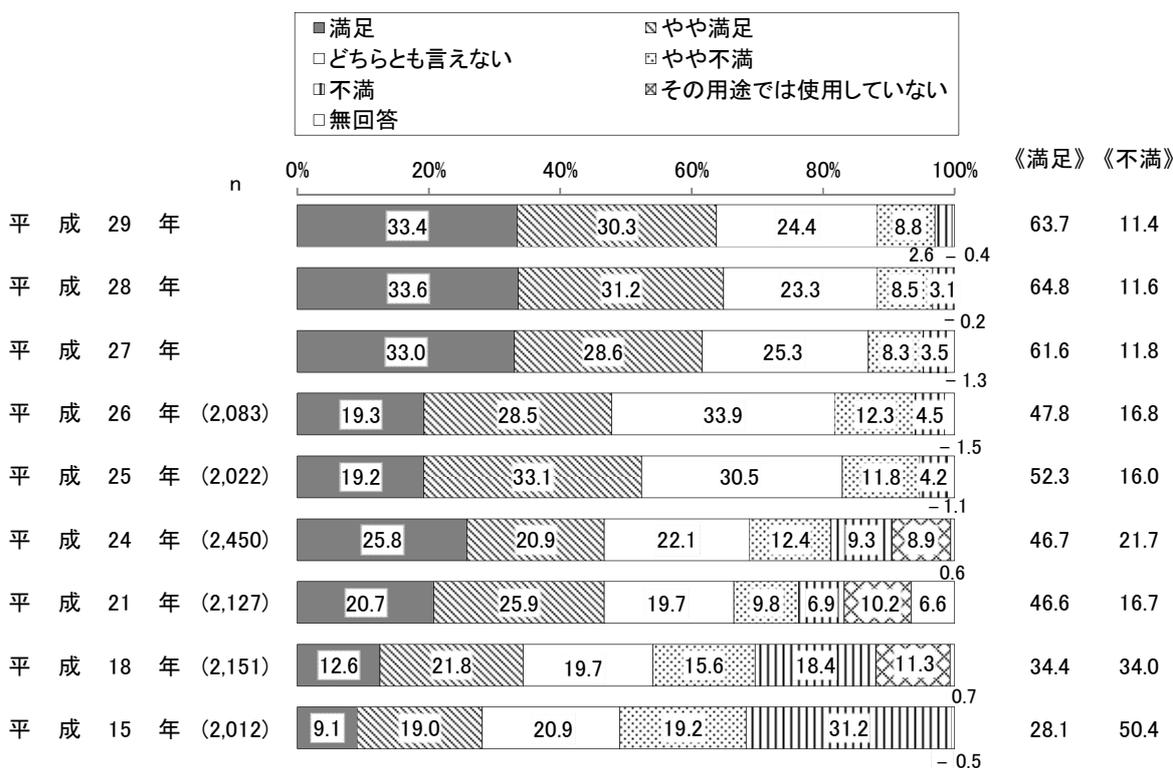
〈特徴〉

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が7割強、「どちらとも言えない」が2割強で推移している。

参考 飲み水としての水質の満足度（時系列：「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計）

〈図表2-2-7〉

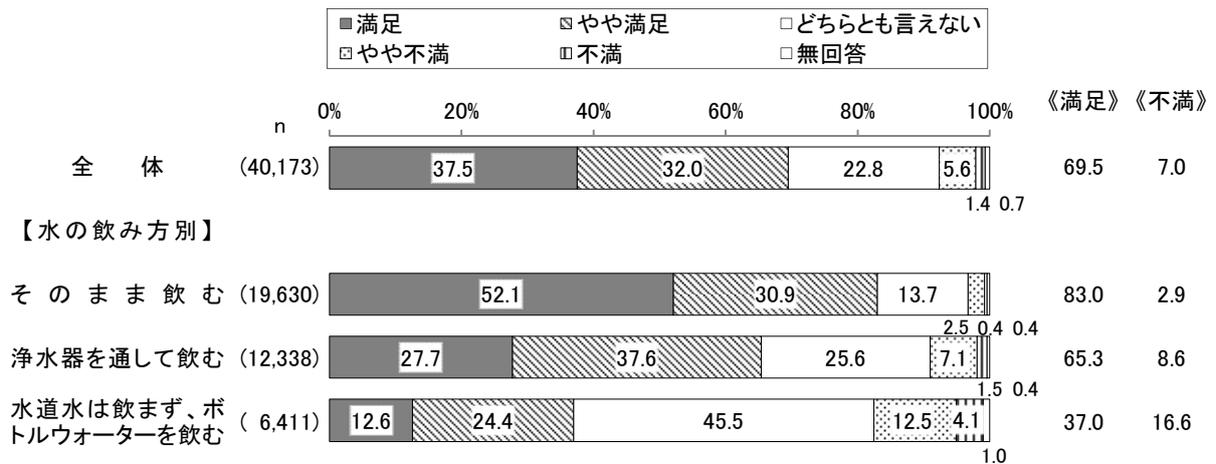


〈特徴〉

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査を「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計で見ると、「満足」が33.4%で最も高く、「やや満足」（30.3%）を合わせた《満足》は63.7%となっている。「どちらとも言えない」は24.4%となっている。

[詳細分析] (分析の軸はA票の設問)

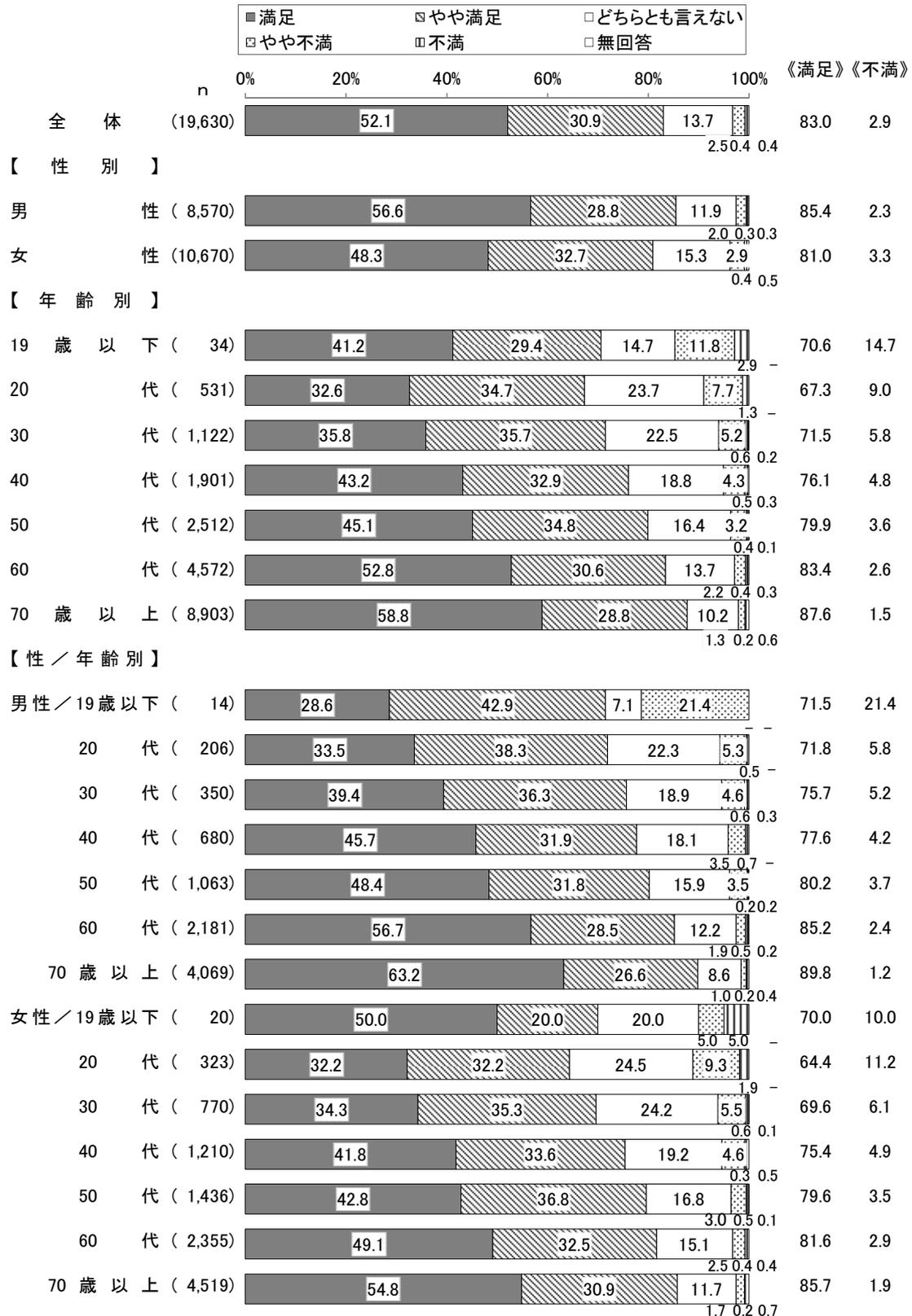
④ 飲み水としての水質の満足度 (水の飲み方別) <図表2-2-8>



<特徴>

○水の飲み方別では、《満足》は、水をそのまま飲む人 (83.0%) で最も高くなっている。一方、《不満》は、水道水は飲まず、ボトルウォーターを飲む人 (16.6%) で最も高くなっている。

④-1 「そのまま飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」(属性別)〈図表2-2-9〉



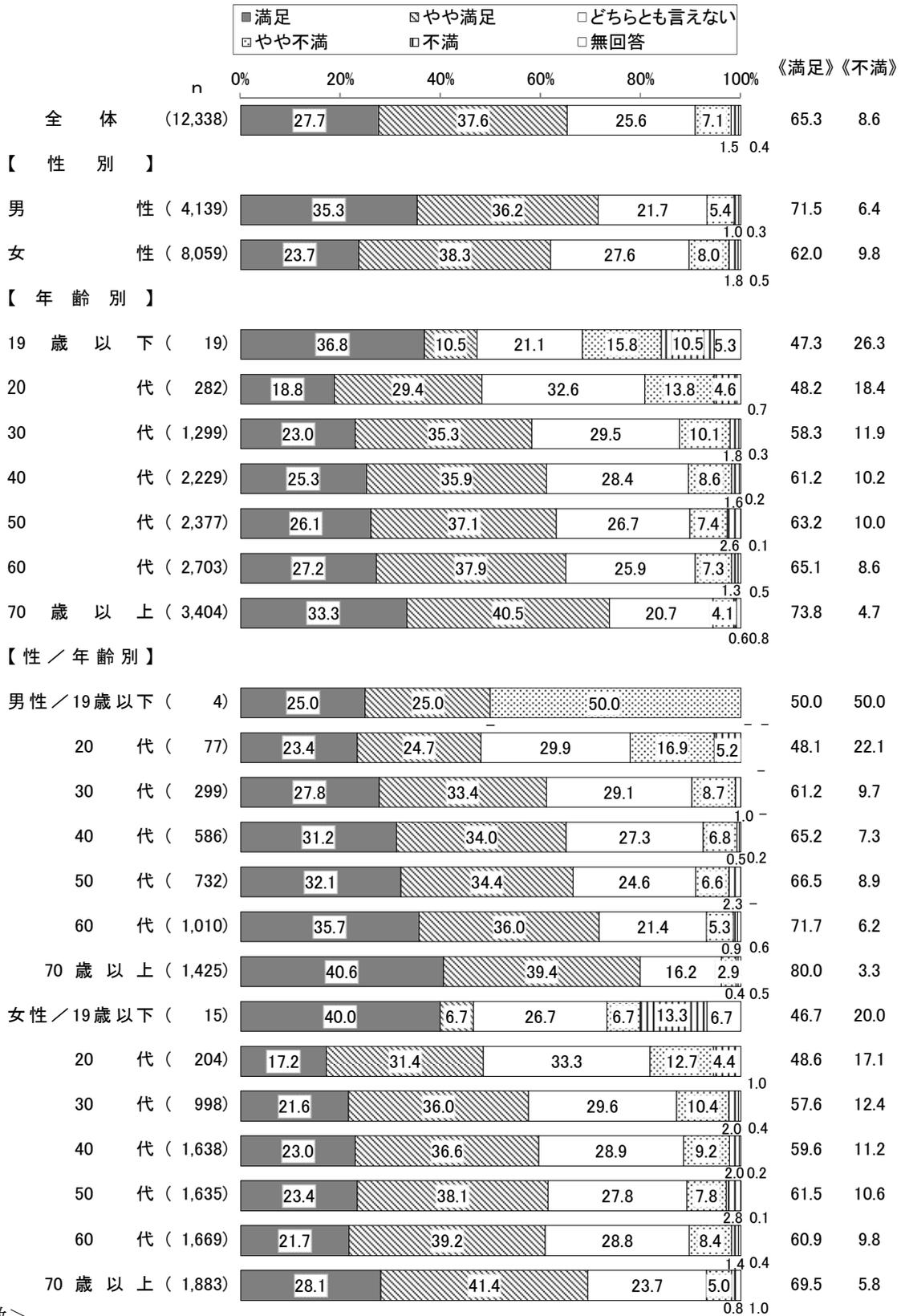
<特徴>

○性別では、《満足》は、男性（85.4%）の方が女性（81.0%）より4.4ポイント高くなっている。

○年齢別では、《満足》は、70歳以上（87.6%）で最も高く、《不満》は、19歳以下（14.7%）で最も高くなっている。

○性/年齢別では、《満足》は、男性の70歳以上（89.8%）で最も高くなっている。

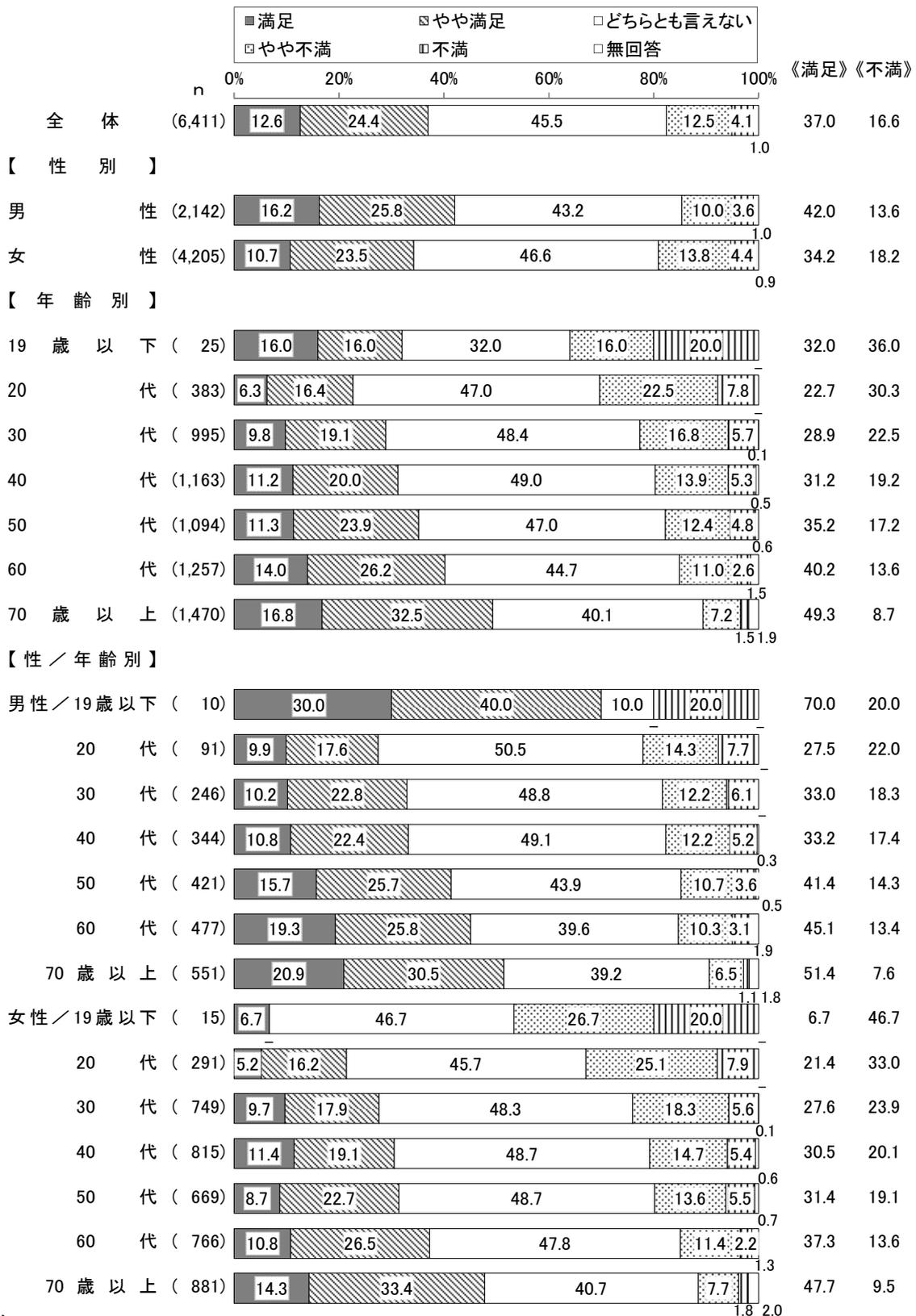
④-2 「浄水器を通して飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」(属性別)〈図表2-2-10〉



<特徴>

- 性別では、《満足》は、男性（71.5%）の方が女性（62.0%）より9.5ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《満足》は、年齢が上がるにつれ割合が高くなり、70歳以上（73.8%）で最も高くなっている。
- 性/年齢別では、《満足》は、70歳以上（80.0%）で最も高くなっている。

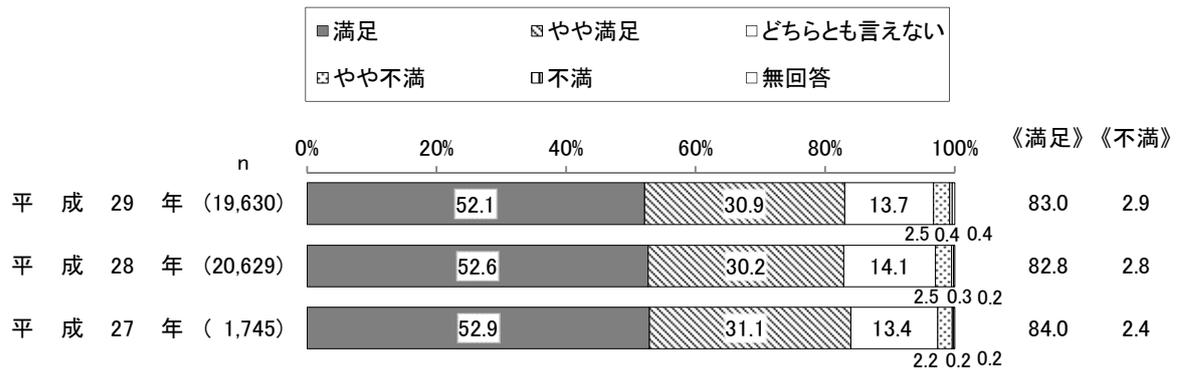
④-3 「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」（属性別）〈図表2-2-11〉



<特徴>

- 性別では、《満足》は男性（42.0%）の方が女性（34.2%）より7.8ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《満足》は70歳以上（49.3%）で最も高く、20代（22.7%）で最も低くなっている。
- 性／年齢別では、《満足》は男性の70歳以上（51.4%）で5割強と高くなっている。

④-4 「そのまま飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」(時系列)〈図表2-2-12〉



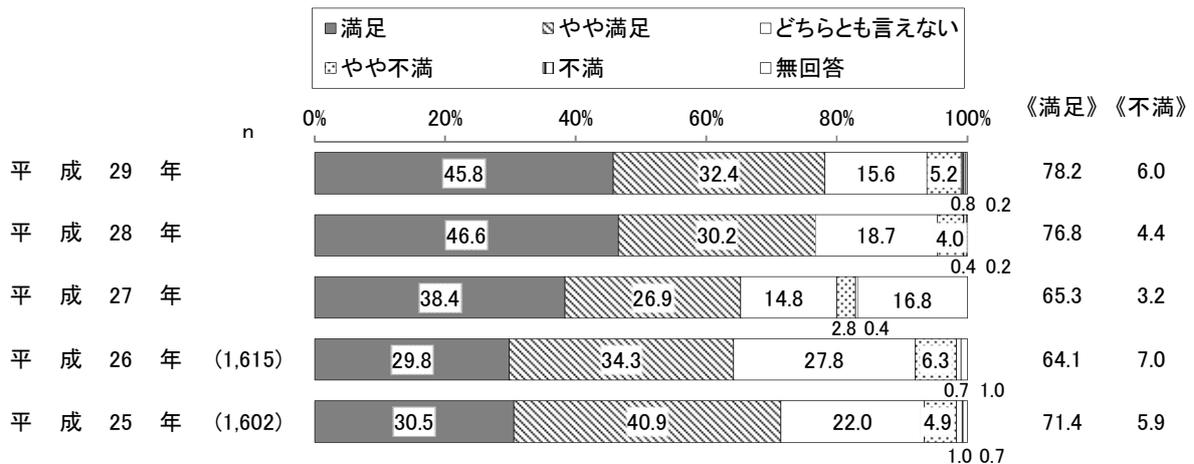
＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が8割台半ば近く、「どちらとも言えない」が1割台半ば近くで推移している。

参考

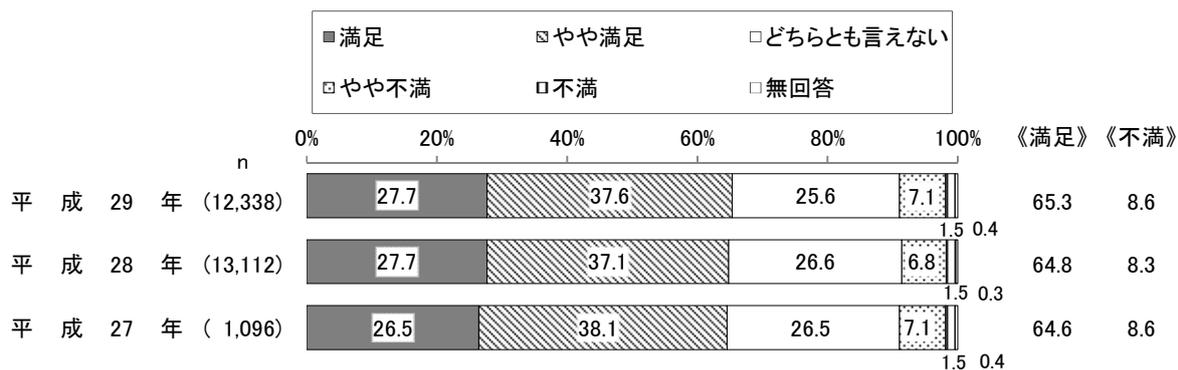
「そのまま飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」(時系列)〈図表2-2-13〉



＜特徴＞

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査を見ると、「満足」が45.8%で最も高く、「やや満足」(32.4%)と合わせた《満足》は78.2%となっている。「どちらとも言えない」は15.6%となっている。

④-5 「浄水器を通して飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」(時系列)〈図表2-2-14〉

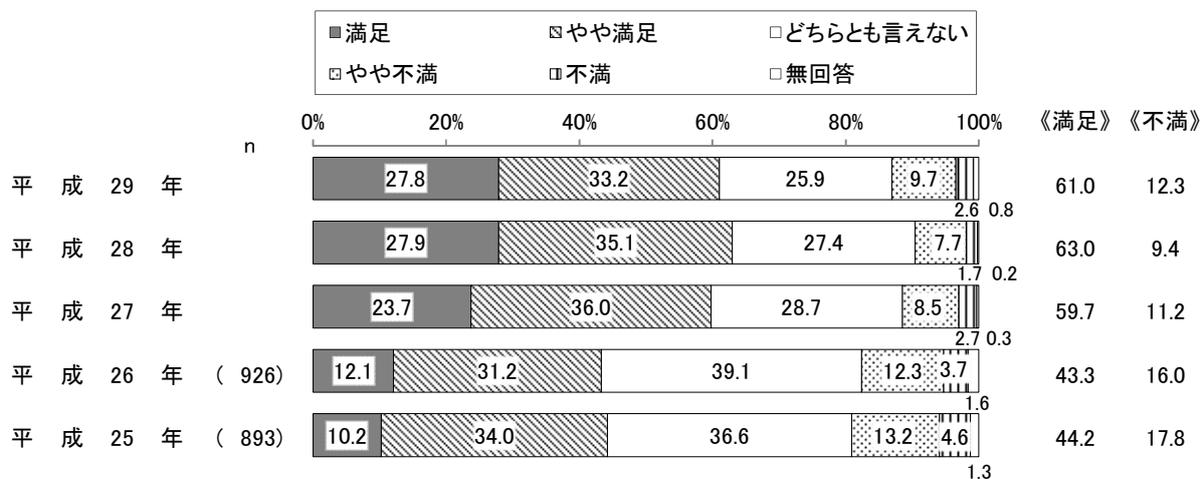


〈特徴〉

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、「満足」が6割台半ば、「どちらとも言えない」が2割台半ばで推移している。

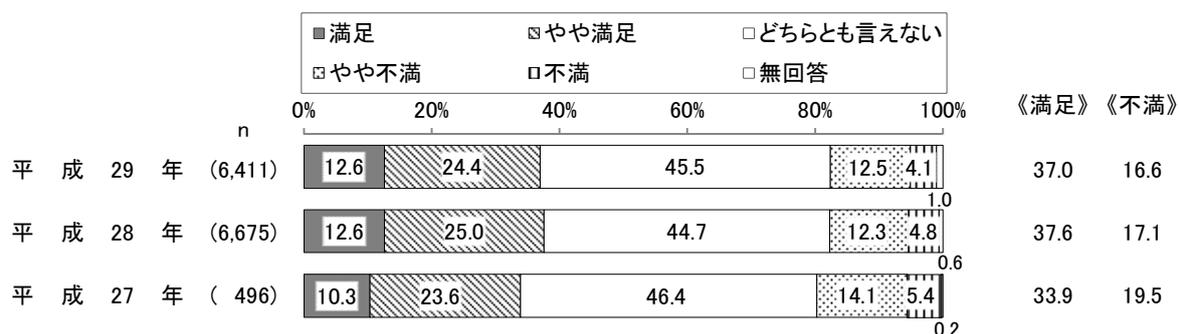
参考 「浄水器を通して飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」(時系列)〈図表2-2-15〉



〈特徴〉

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査を見ると、「やや満足」が33.2%で最も高く、「満足」(27.8%)と合わせた《満足》は61.0%となっている。「どちらとも言えない」は25.9%となっている。

④-6 「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」（時系列）〈図表2-2-16〉



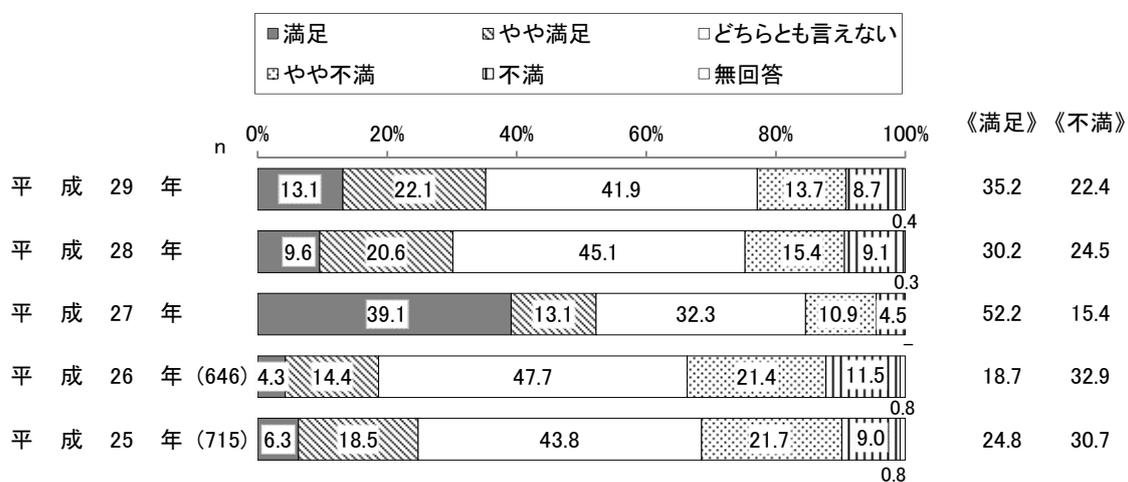
<特徴>

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、「どちらとも言えない」が4割台半ばで最も高く、「満足」が3割台半ばで推移している。

参考

「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」（時系列）〈図表2-2-17〉

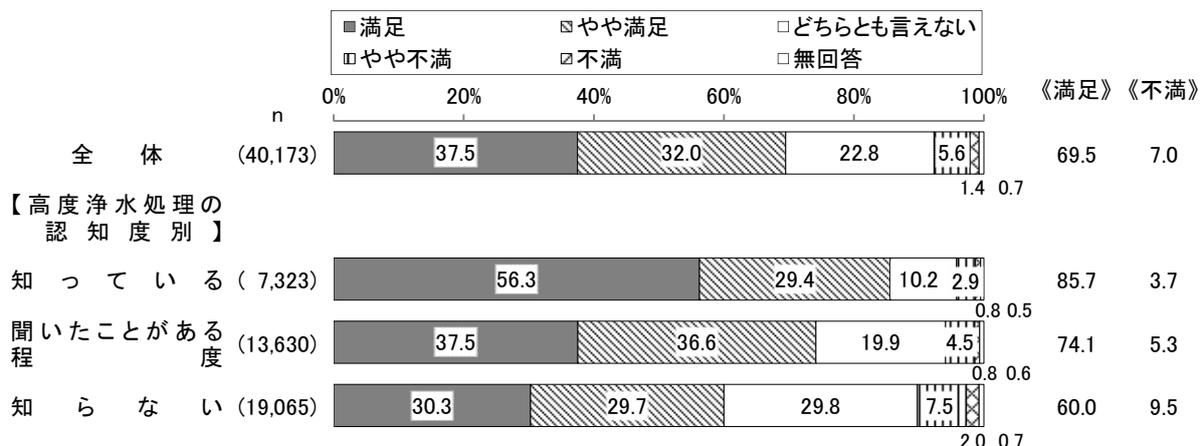


<特徴>

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査を見ると、「どちらとも言えない」が41.9%で最も高くなっている。次いで「やや満足」（22.1%）となっており、「満足」（13.1%）を合わせた《満足》は35.2%となっている。

[詳細分析] (分析の軸はA票の設問)

⑤ 飲み水としての水質の満足度 (高度浄水処理の認知度別) (図表2-2-18)



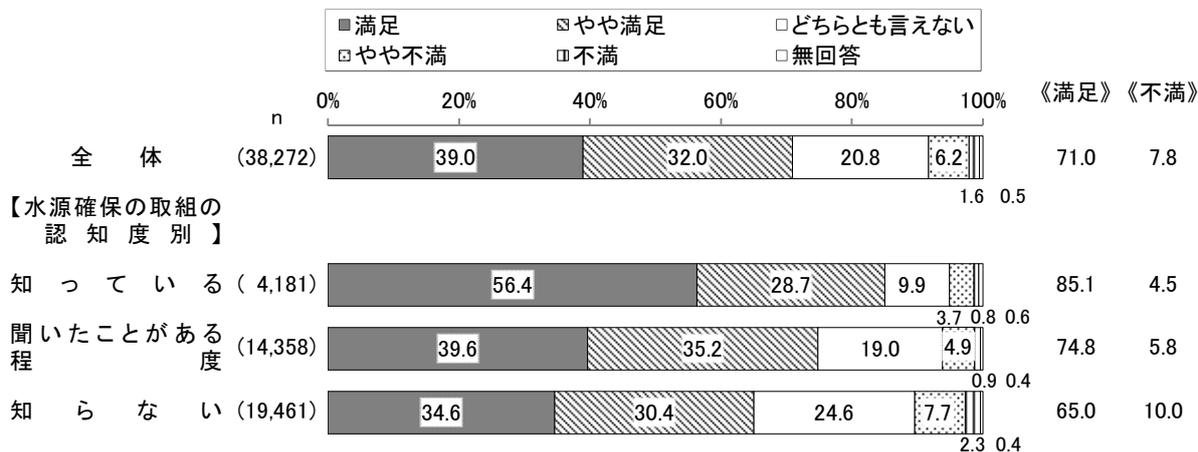
<特徴>

○高度浄水処理の認知度別では、《満足》は、高度浄水処理を知っている人 (85.7%) で最も高くなっている。

[詳細分析] (分析の軸はB票の設問)

⑥ 飲み水としての水質の満足度

(地球温暖化等の気候変動に伴う湧水にも対応できる水源確保の取組の認知度別) (図表2-2-19)



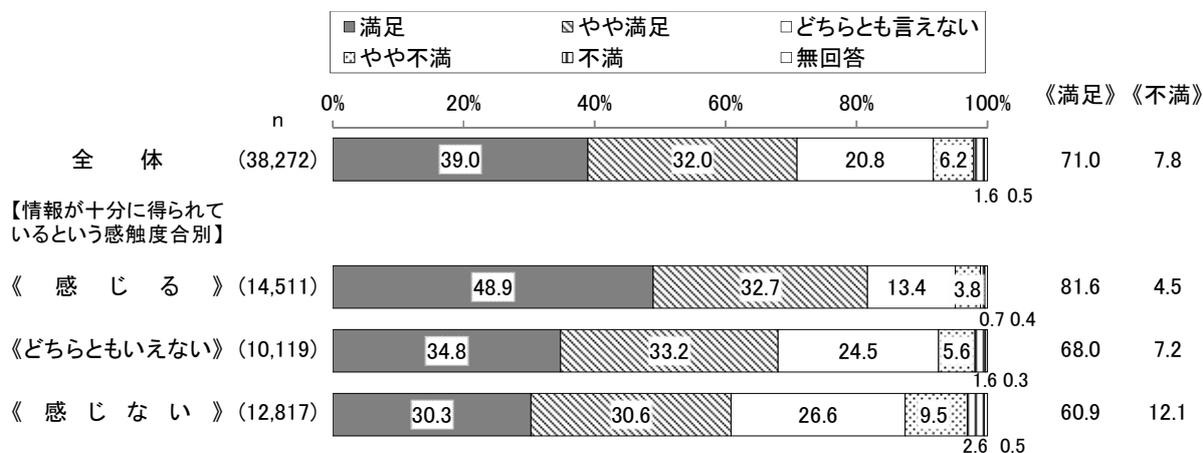
<特徴>

○地球温暖化等の気候変動に伴う湧水にも対応できる水源確保の取組の認知度別では、《満足》は、取組を知っている人 (85.1%) で最も高くなっている。一方、《不満》は、知らない人 (10.0%) で最も高くなっている。

[詳細分析] (分析の軸はB票の設問)

⑦ 飲み水としての水質の満足度 (情報が十分に得られているという感触度合別)

〈図表2-2-20〉

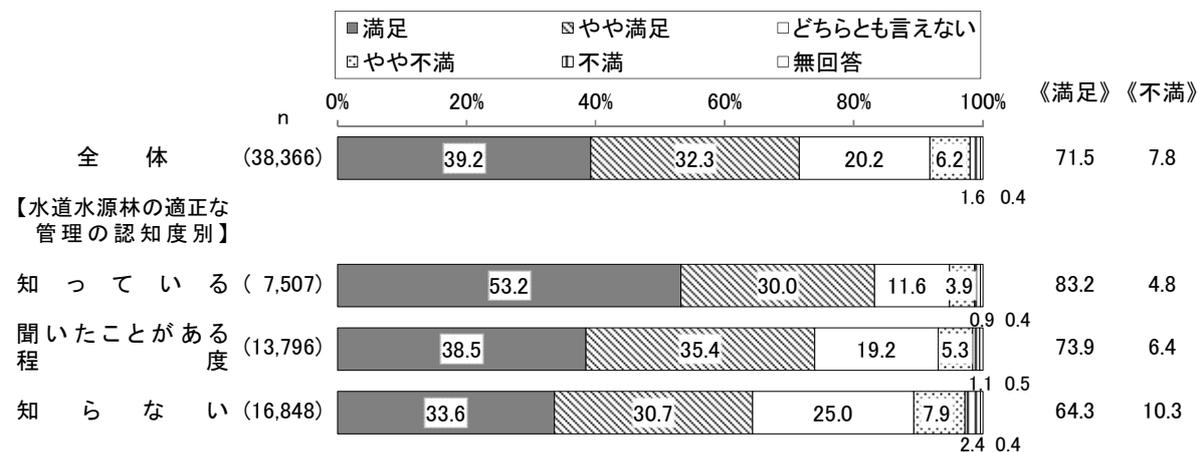


<特徴>

○情報が十分に得られているという感触度合別では、《満足》は、感触を感じる人（81.6%）で最も高くなっている。一方、《不満》は、感じない人（12.1%）で最も高くなっている。

[詳細分析] (分析の軸はC票の設問)

⑧ 飲み水としての水質の満足度 (水道水源林の適正な管理の認知度別) 〈図表2-2-21〉



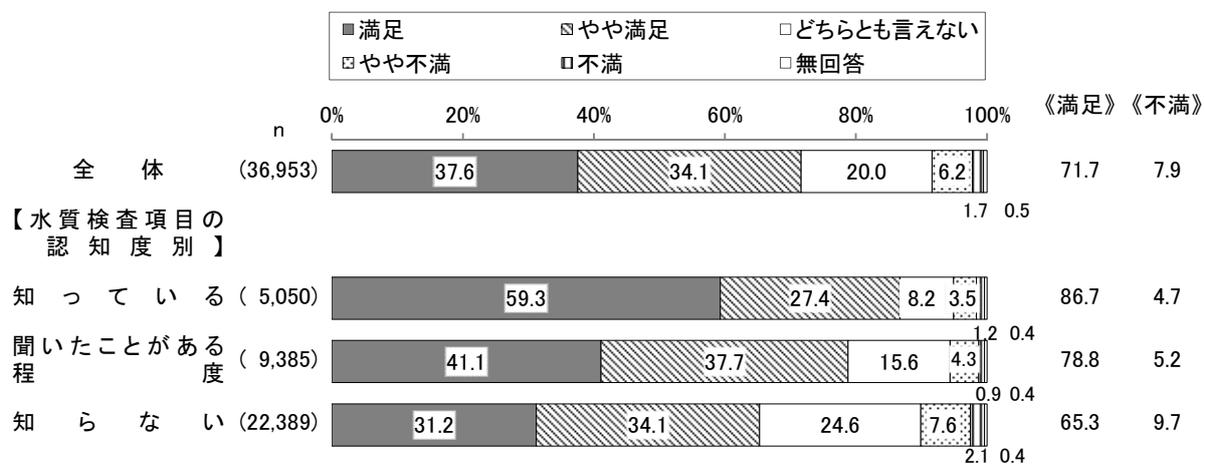
<特徴>

○水道水源林の適正な管理の認知度別では、《満足》は、適正な管理を知っている人（83.2%）で最も高くなっている。一方、《不満》は、知らない人（10.3%）で最も高くなっている。

[詳細分析] (分析の軸はD票の設問)

⑨ 飲み水としての水質の満足度 (水質検査項目がミネラルウォーターより多いことの認知度別)

〈図表2-2-22〉



<特徴>

○水質検査項目がミネラルウォーターより多いことの認知度別では、《満足》は、多いことを知っている人 (86.7%) で最も高くなっている。一方、《不満》は、知らない人 (9.7%) で最も高くなっている。

(2) 飲み水としての水道水を不満と思う要因

問 <前問で「4」または「5」と回答した方のみにお尋ねします。>

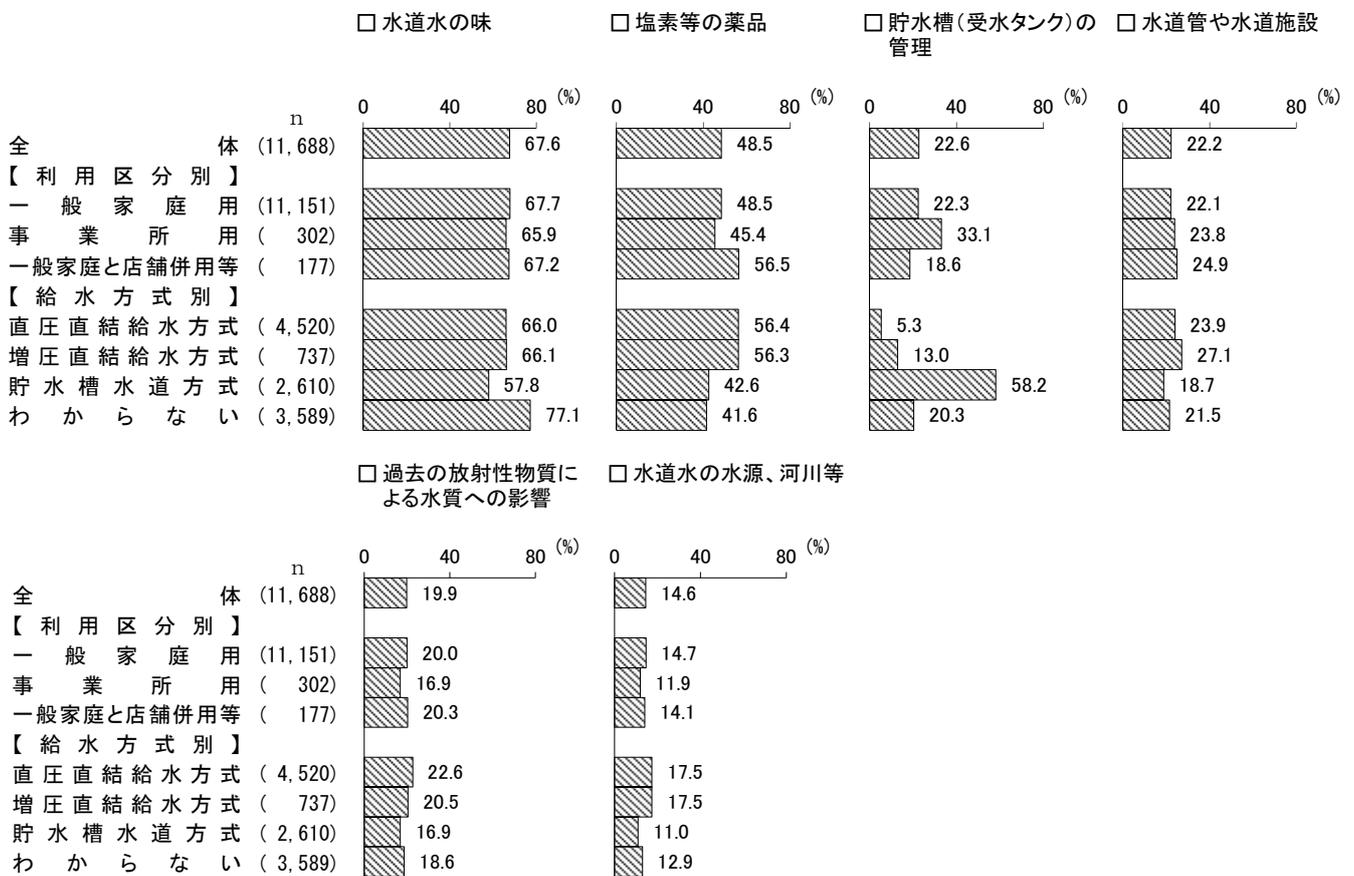
飲み水としての水道水を不満と思う要因は何ですか。(複数回答可)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1) 水道水の水源、河川等 | 2) 塩素等の薬品 |
| 3) 水道管や水道施設 | 4) 貯水槽(受水タンク)の管理 |
| 5) 過去の放射性物質による水質への影響 | 6) 水道水の味 |

[A : 問8、B : 問7、C : 問7、D : 問8]

[調査結果]

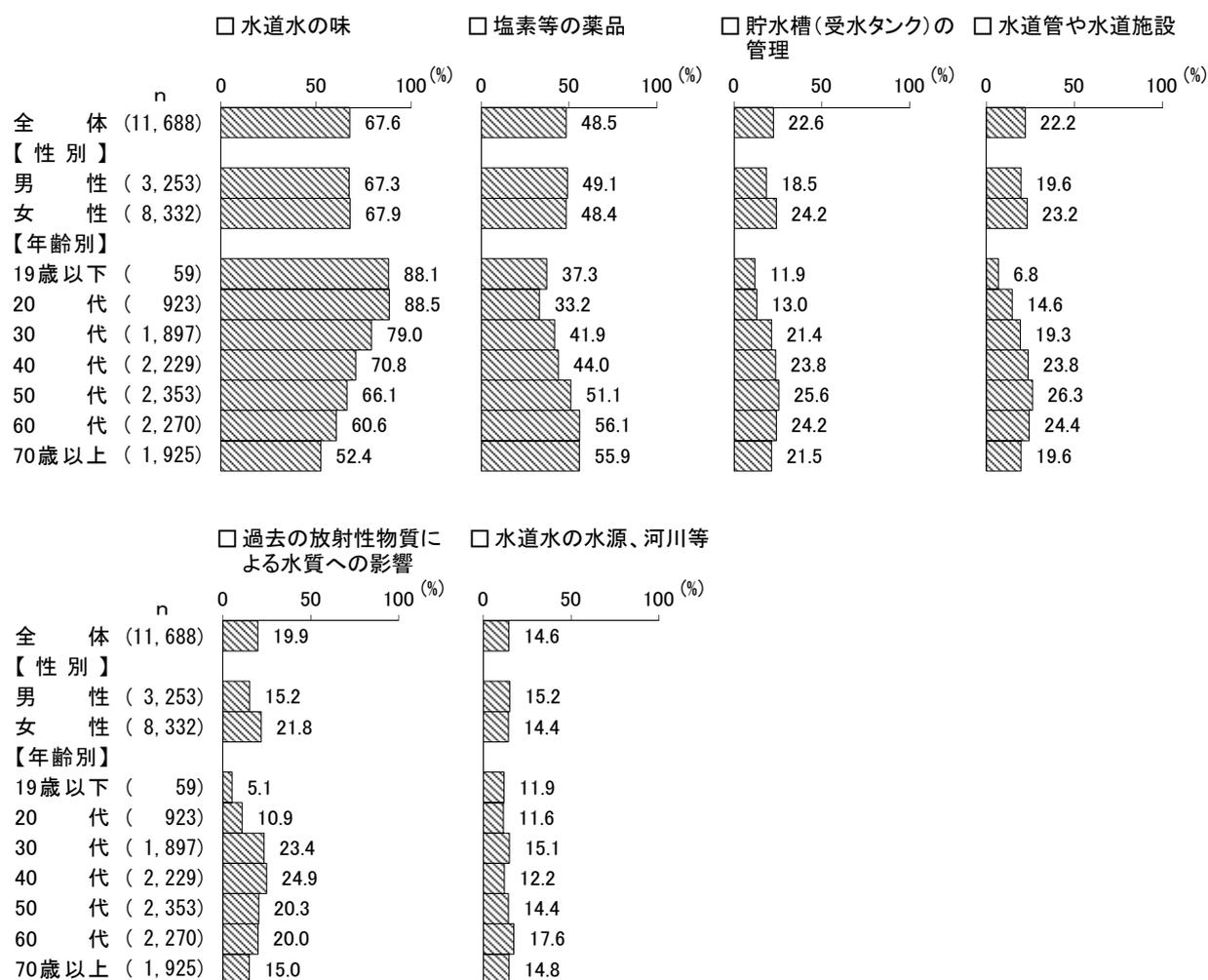
① 飲み水としての水道水を不満と思う要因(利用区分別、給水方式別) <図表2-2-23>



<特徴>

- 全体で見ると、「水道水の味」が67.6%で最も高くなっている。以下「塩素等の薬品」(48.5%)、「貯水槽(受水タンク)の管理」(22.6%)、「水道管や水道施設」(22.2%)、「過去の放射性物質による水質への影響」(19.9%)、「水道水の水源、河川等」(14.6%)となっている。
- 利用区分別では、「水道水の味」は、一般家庭用で67.7%と最も高くなっている。「塩素等の薬品」は、一般家庭と店舗併用等で56.5%と最も高く、「水道管や水道施設」でも24.9%と高くなっている。「貯水槽(受水タンク)の管理」は事業所用が33.1%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、「貯水槽(受水タンク)の管理」は、貯水槽水道方式で58.2%と最も高くなっている。

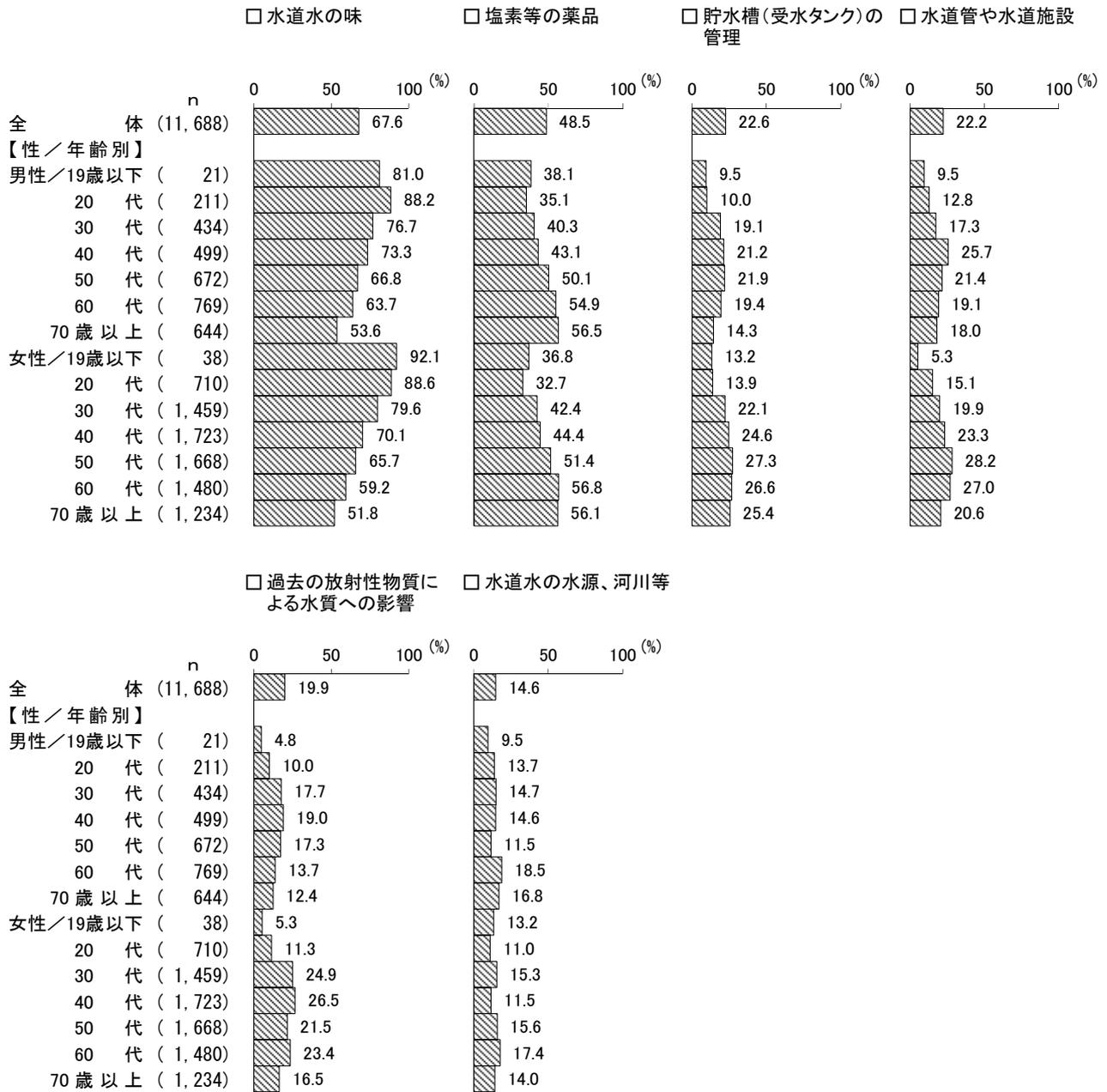
② 飲み水としての水道水を不満と思う要因（性別、年齢別）〈図表 2-2-24〉



<特徴>

- 性別では、「過去の放射性物質による水質への影響」で違いが最も大きく、女性（21.8%）の方が男性（15.2%）より6.6ポイント高くなっている。「貯水槽（受水タンク）の管理」でも、女性（24.2%）の方が男性（18.5%）より5.7ポイント高くなっている。
 - 年齢別では、「水道水の味」は20代（88.5%）で最も高く、年齢が上がるにつれて割合は低くなっている。一方、「塩素等の薬品」は、20代（33.2%）で最も低く、おおむね年齢が上がるにつれて割合は高くなっている。
- また、「水道管や水道施設」と「貯水槽（受水タンク）の管理」は、50代で最も高く、「過去の放射性物質による水質への影響」は40代（24.9%）で最も高くなっている。

③ 飲み水としての水道水を不満と思う要因（性／年齢別）〈図表 2-2-25〉

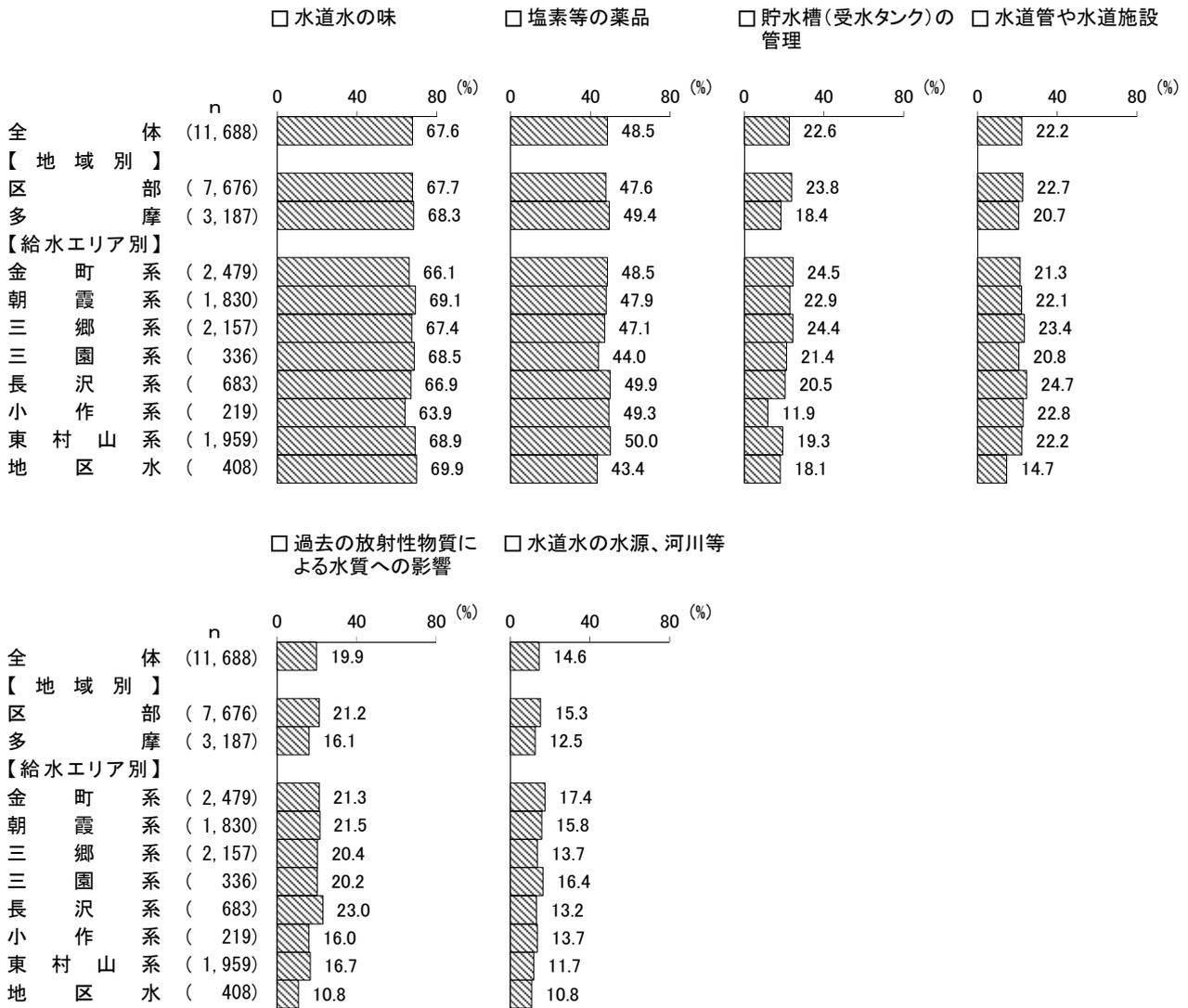


<特徴>

○性／年齢別では、「水道水の味」は、女性の19歳以下（92.1%）で最も高く、男女ともに年齢が上がるにつれて割合は低くなる。逆に、「塩素等の薬品」は、男女ともにおおむね年齢が上がるにつれて割合は高くなり、男女とも50代以上で5割台と高くなっている。

また、「水道管や水道施設」と「貯水槽（受水タンク）の管理」は、女性の50代で最も高く、「過去の放射性物質による水質への影響」は、女性の40代（26.5%）で最も高くなっている。

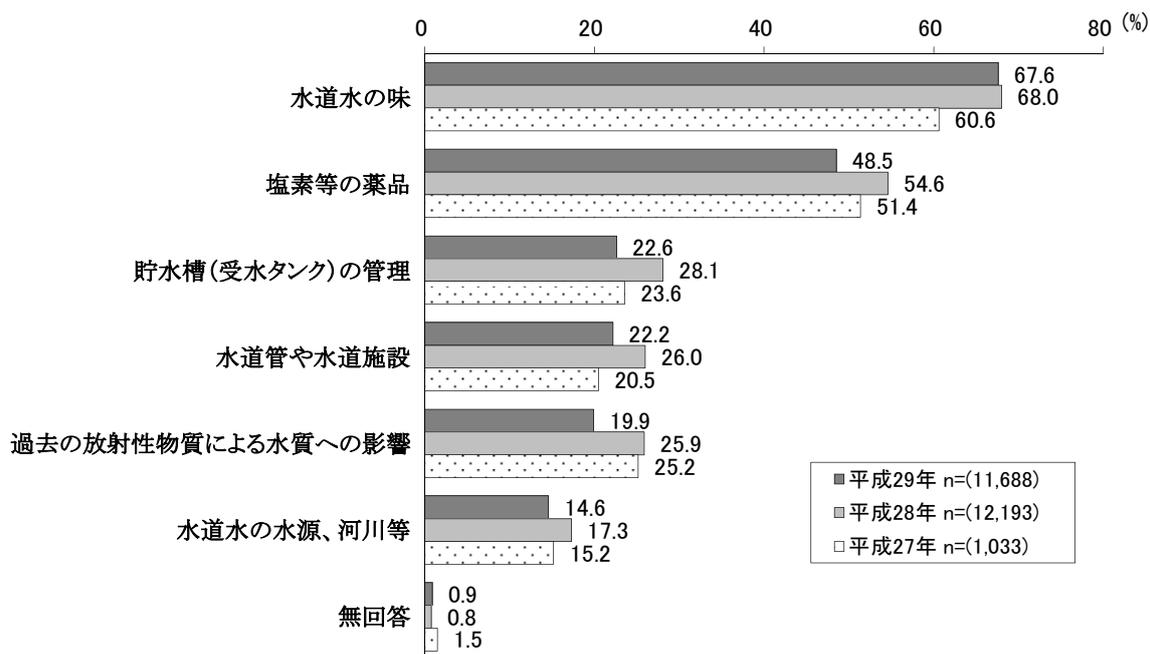
④ 飲み水としての水道水を不満と思う要因（地域別、給水エリア別）〈図表 2-2-26〉



<特徴>

- 地域別では、区部と多摩で「貯水槽（受水タンク）の管理」での違いが最も大きく、区部（23.8%）の方が多摩（18.4%）より5.4ポイント高くなっている。「過去の放射性物質による水質への影響」でも、区部（21.2%）の方が多摩（16.1%）より5.1ポイント高くなっている。
 - 給水エリア別では、「水道水の味」は、地区水（69.9%）で最も高く、次いで朝霞系（69.1%）になっている。「塩素等の薬品」は、東村山系（50.0%）で最も高く、次いで長沢系（49.9%）となっている。
- また、「貯水槽（受水タンク）の管理」は金町系（24.5%）、「水道管や水道施設」は長沢系（24.7%）、「過去の放射性物質による水質への影響」も長沢系（23.0%）が最も高くなっている。

⑤ 飲み水としての水道水を不満と思う要因（時系列）〈図表 2-2-27〉



<特徴>

○前年度調査との比較では、全ての項目で前年度調査に比べて今回調査が減少しており、特に「塩素等の薬品」は今回調査（48.5%）が前年度調査（54.6%）から6.1ポイント減少している。

また、「過去の放射性物質による水質への影響」でも今回調査（19.9%）は、前年度調査（25.9%）から6.0ポイント減少している。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向では、「水道水の味」が6割台で最も高く増加傾向であり、「過去の放射性物質による水質への影響」は減少傾向となっている。

(3) 調理に使用する水としての水質の満足度

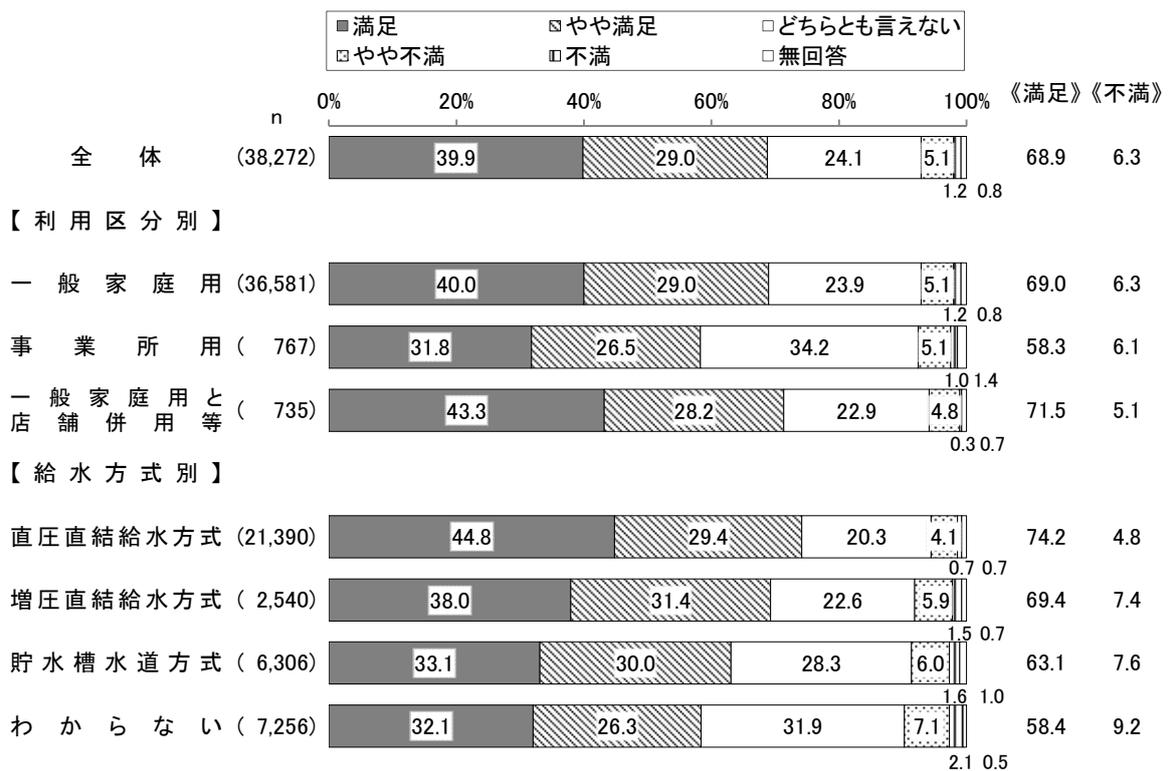
問 東京の水道水を調理に使用する場合、水質をどのように感じますか。

- 1) 満足 2) やや満足 3) どちらとも言えない 4) やや不満 5) 不満

[B: 問9]

[調査結果]

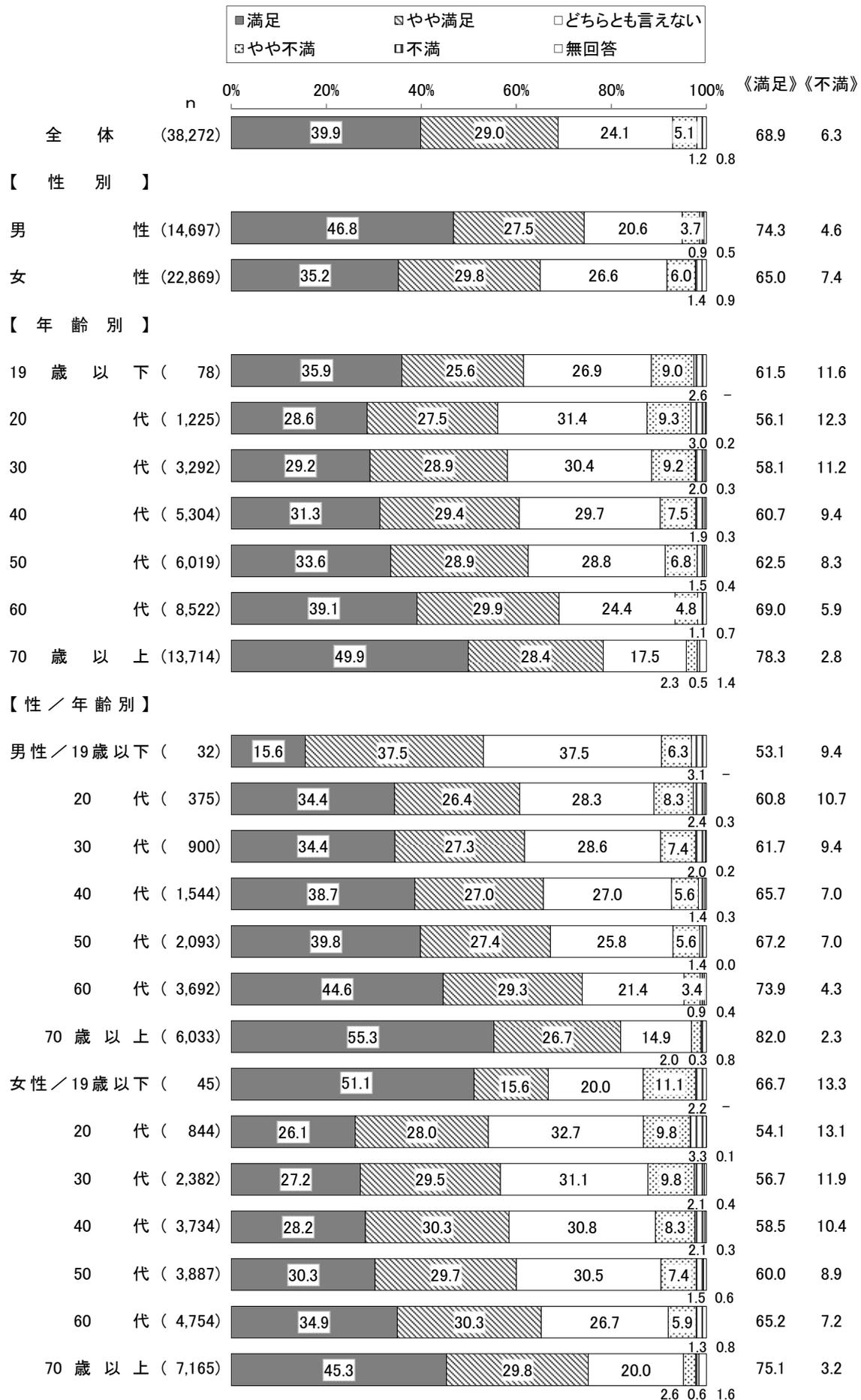
① 調理に使用する水としての水質の満足度（利用区分別、給水方式別）〈図表2-2-28〉



<特徴>

- 全体で見ると、「満足」が39.9%と最も高く、「やや満足」(29.0%)を合わせた《満足》は68.9%となっている。一方、《不満》は6.3%となっている。
- 利用区分別では、《満足》は、一般家庭用と店舗併用等で71.5%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、《満足》は、直圧直結給水方式で74.2%と最も高くなっている。

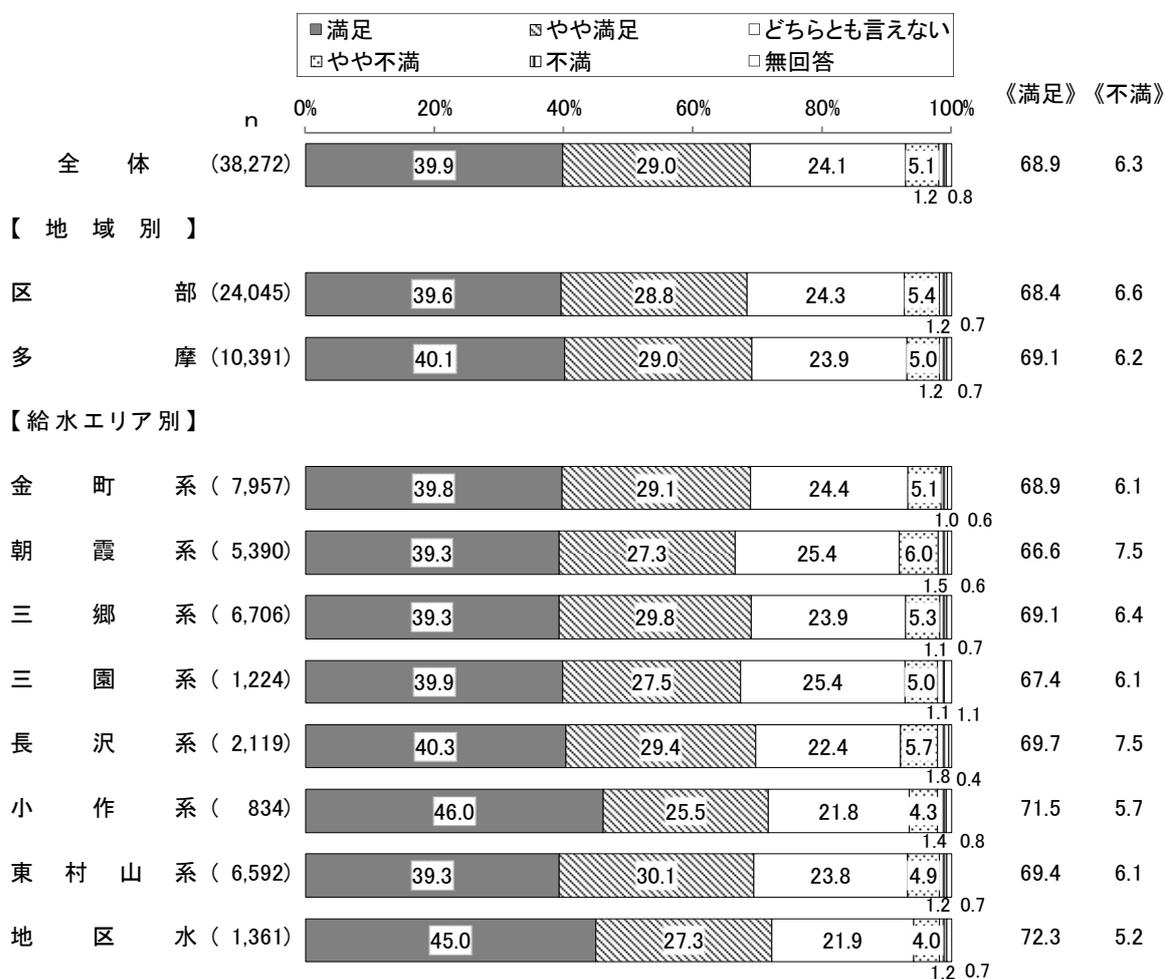
② 調理に使用する水としての水質の満足度（属性別）〈図表2-2-29〉



<特徴>

- 性別では、「満足」は、男性（46.8%）の方が女性（35.2%）より11.6ポイント高く、「満足」でも、男性（74.3%）の方が女性（65.0%）より9.3ポイント高くなっている。
- 年齢別では、「満足」は、20代（56.1%）で最も低く、それ以降は年齢が上がるにつれて高くなり、70歳以上（78.3%）で最も高い割合となっている。
- 性／年齢別では、「満足」は、男性は19歳以下（53.1%）、女性は20代（54.1%）で最も低く、それ以降は年齢が上がるにつれて高くなっており、男性の70歳以上（82.0%）で最も高い割合となっている。

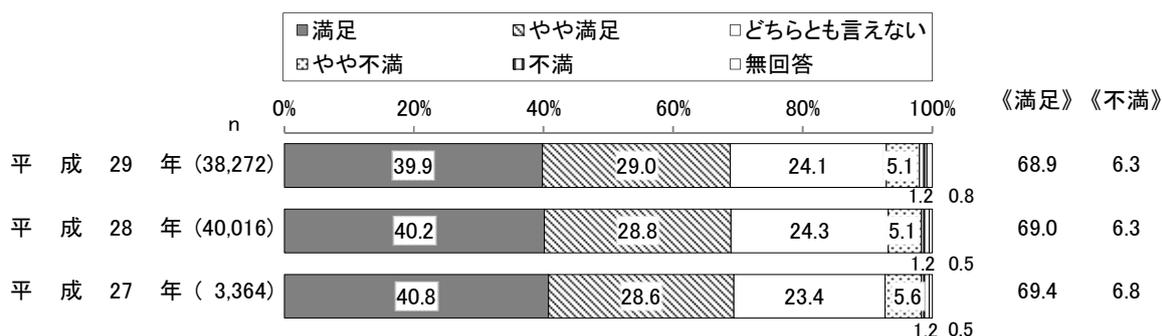
③ 調理に使用する水としての水質の満足度（地域別、給水エリア別）〈図表2-2-30〉



<特徴>

- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、「満足」は、地区水（72.3%）で最も高く、次いで、小作系（71.5%）も7割を超えて高くなっている。

④ 調理に使用する水としての水質の満足度（時系列：全体）〈図表 2-2-3 1〉

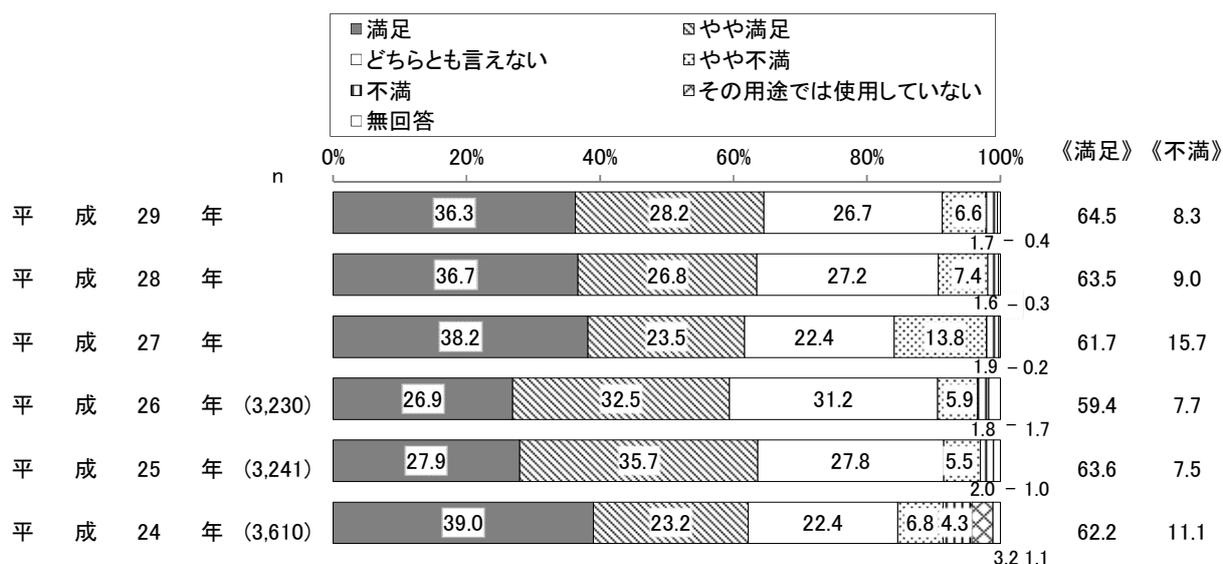


<特徴>

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、「満足」が7割弱、「どちらとも言えない」が2割台半ば近くで推移している。

参考 調理に使用する水としての水質の満足度（時系列：全体）〈図表 2-2-3 2〉

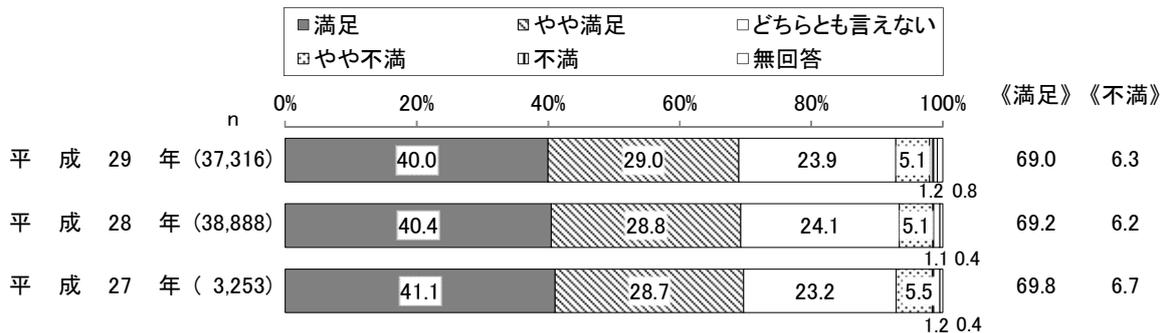


<特徴>

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査を全体で見ると、「満足」が36.3%で最も高く、「やや満足」(28.2%)を合わせた《満足》は64.5%となっている。「どちらとも言えない」は26.7%となっている。

⑤ 調理に使用する水としての水質の満足度

(時系列：「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計)〈図表2-2-33〉



<特徴>

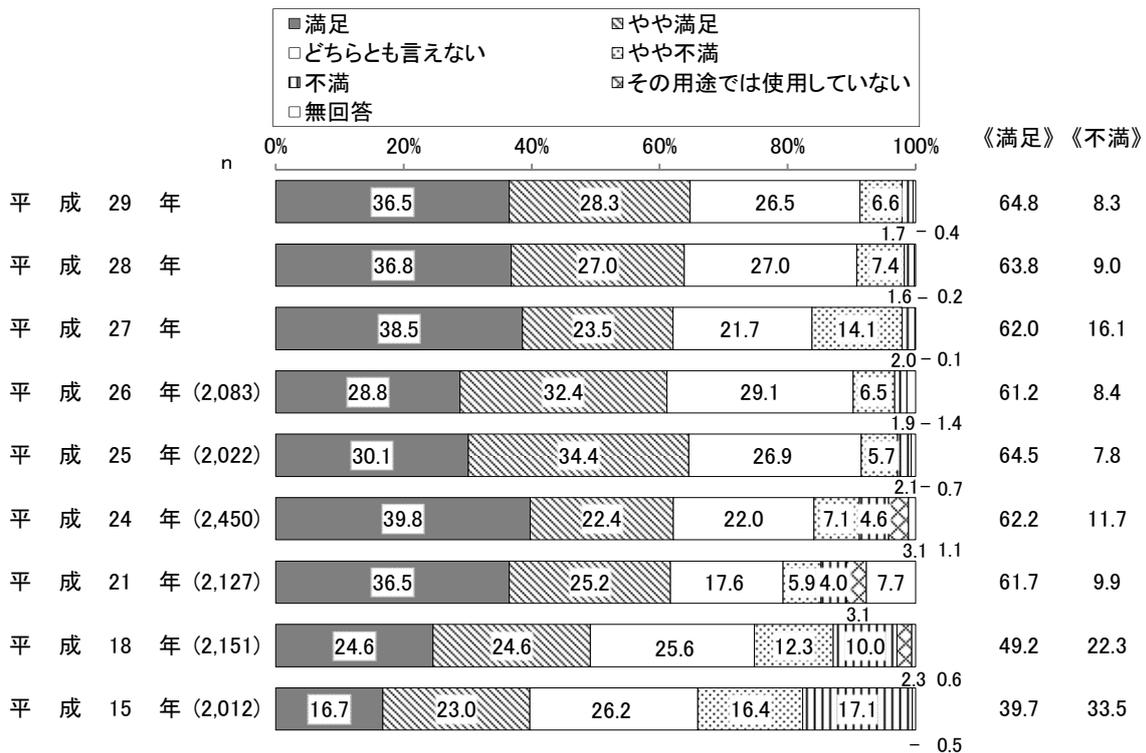
○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が7割弱、「どちらとも言えない」が2割台半ば近くで推移している。

参考

調理に使用する水としての水質の満足度

(時系列：「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計)〈図表2-2-34〉



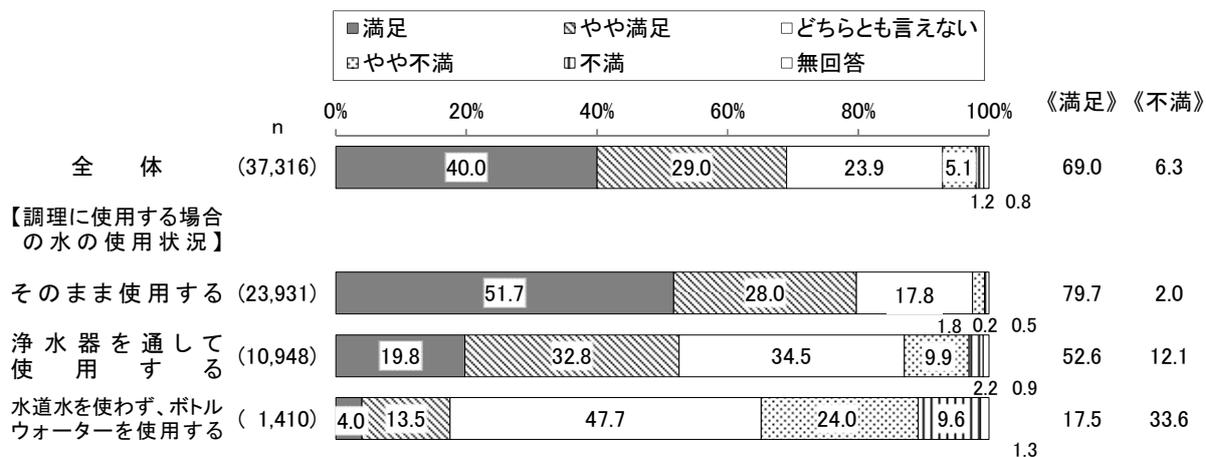
<特徴>

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査を「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計で見ると、「満足」が36.5%で最も高く、「やや満足」(28.3%)を合わせた《満足》は64.8%となっている。「どちらとも言えない」は26.5%となっている。

[詳細分析] (分析の軸はB票の設問)

⑥ 調理に使用する水としての水質の満足度 (調理に使用する場合の水の使用状況別)

〈図表2-2-35〉

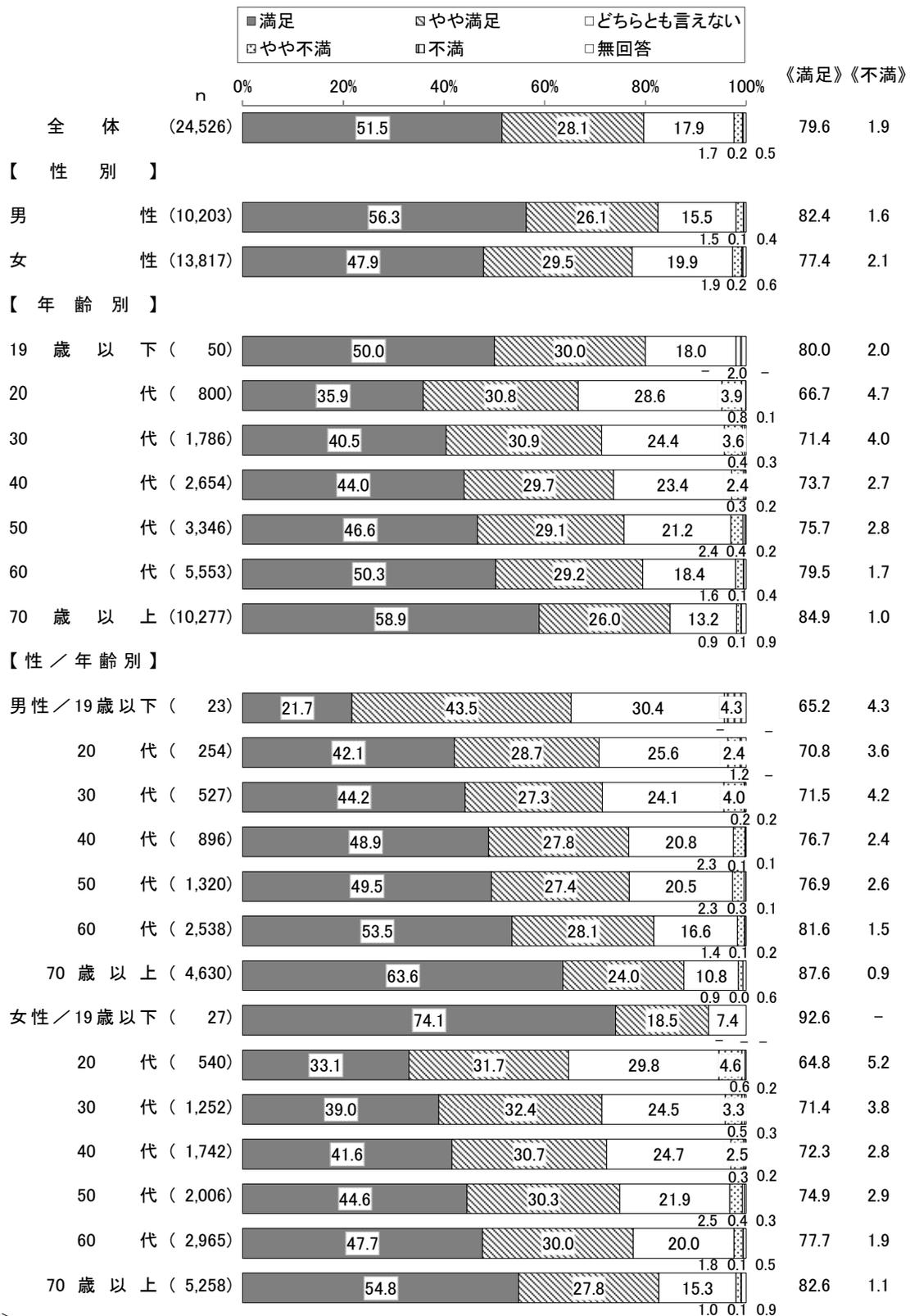


<特徴>

○調理に使用する場合の水の使用状況別では、《満足》は、水をそのまま使用する人（79.7%）で最も高くなっている。一方、《不満》は、水道水を使わず、ボトルウォーターを使用する人（33.6%）で最も高くなっている。

⑥-1 「そのまま使用する」人の「調理に使用する水としての水質」の満足度（属性別）

〈図表2-2-36〉

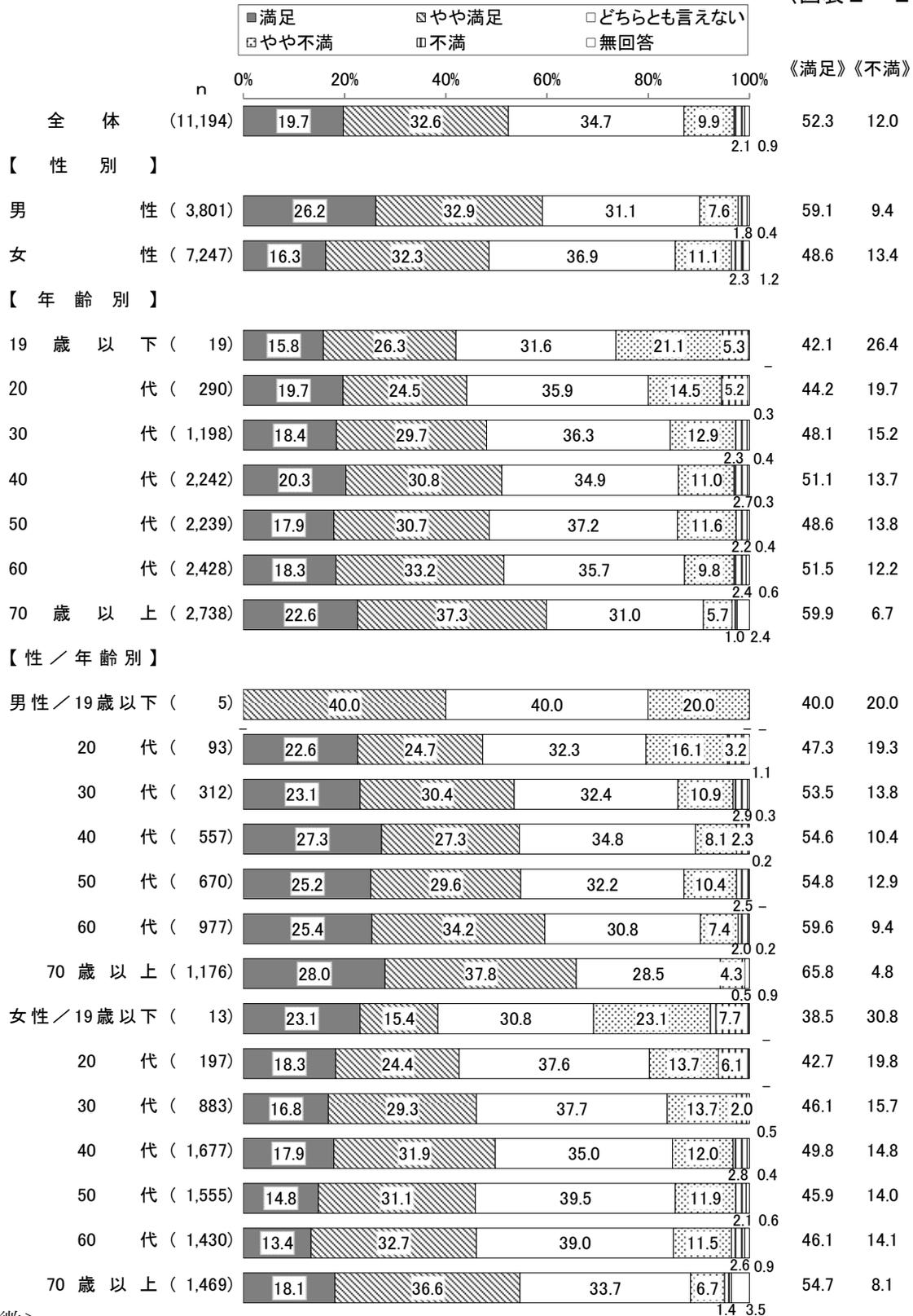


＜特徴＞

- 性別では、《満足》は、男性（82.4%）の方が女性（77.4%）より5.0ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《満足》は、20代（66.7%）から年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（84.9%）で最も高くなっている。
- 性/年齢別では、《満足》は、男性では70歳以上（87.6%）が最も高く、女性では19歳以下（92.6%）が最も高く、次いで70歳以上（82.6%）となっている。

⑥-2 「浄水器を通して使用する」人の「調理に使用する水としての水質」の満足度（属性別）

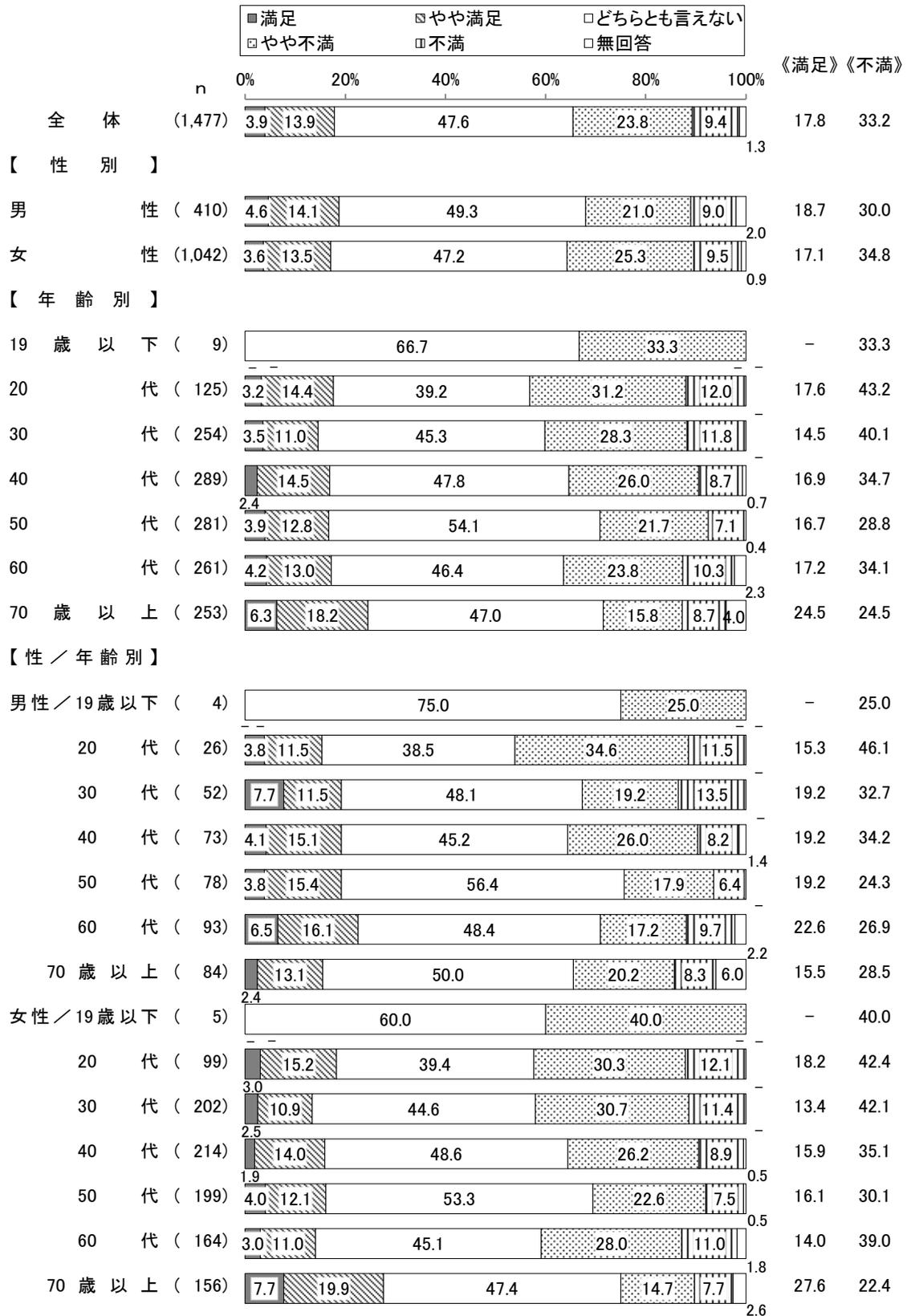
〈図表2-2-37〉



〈特徴〉

- 性別では、《満足》は、男性（59.1%）の方が女性（48.6%）より10.5ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《満足》は、おおむね年齢が上がるほど高くなり、70歳以上（59.9%）で最も高くなっている。一方、《不満》は、年齢が下がるほど高くなり、20代（19.7%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別でも、《満足》は、男女とも70歳以上（男性：65.8% 女性：54.7%）で高くなっている。

⑥-3 「水道水を使わず、ボトルウォーター（サーバー水等）を使用する」人の「調理に使用する水としての水質」の満足度（属性別）〈図表2-2-38〉

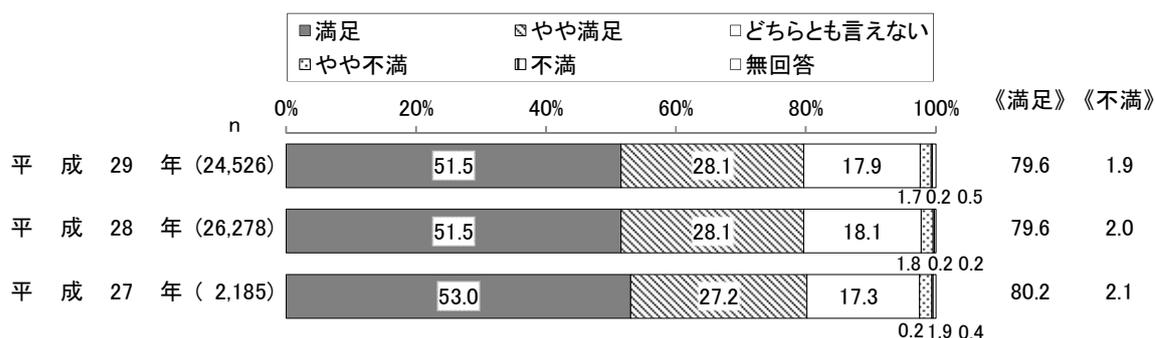


<特徴>

- 性別では、《不満》は、女性（34.8%）の方が男性（30.0%）より、4.8ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《満足》は、70歳以上（24.5%）で最も高くなっている。一方、《不満》は、20代（43.2%）で高い。
- 性／年齢別では、《不満》は、男性の20代（46.1%）で最も高く、女性の20代（42.4%）と30代（42.1%）でも4割を超えて高くなっている。

⑥-4 「そのまま使用する」人の「調理に使用する水としての水質」の満足度（時系列）

〈図表2-2-39〉



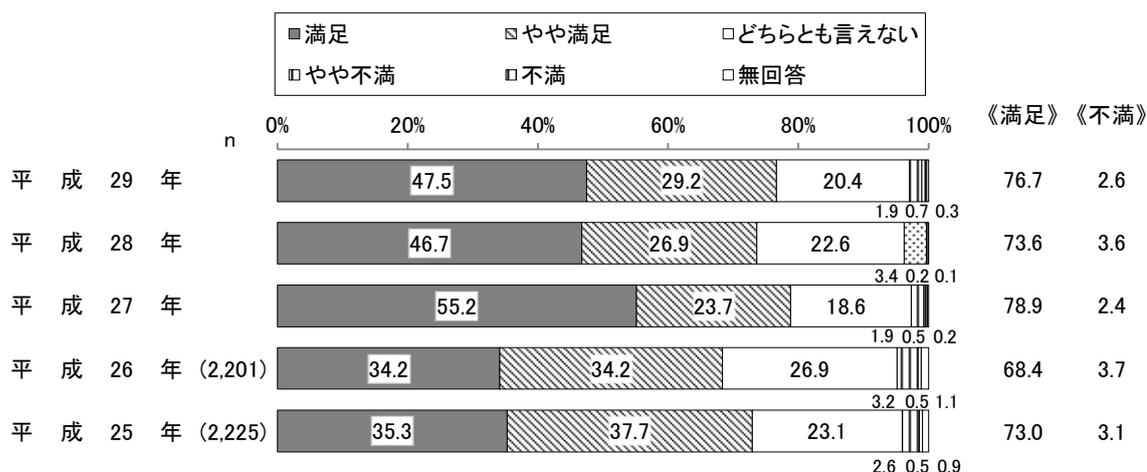
<特徴>

- 前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。
- 平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が8割前後、「どちらとも言えない」が1割台半ばを超えて推移している。

参考

「そのまま使用する」人の「調理に使用する水としての水質」の満足度（時系列）

〈図表2-2-40〉

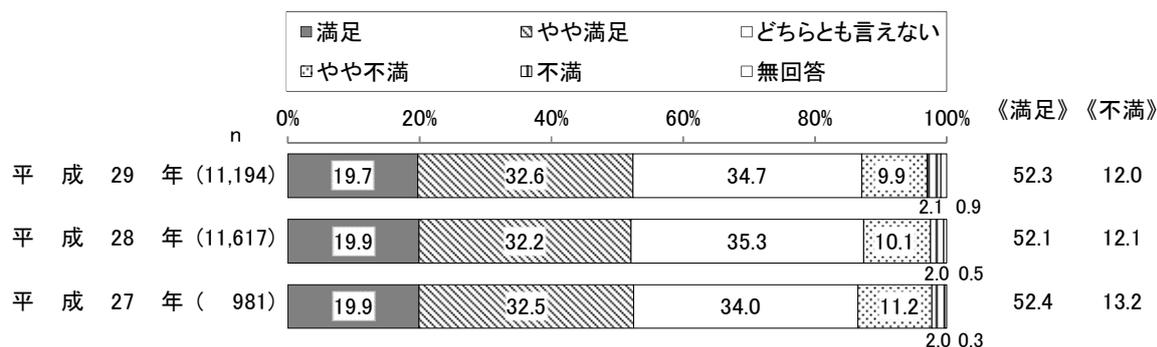


<特徴>

- 参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査を見ると、「満足」が47.5%で最も高く「やや満足」（29.2%）を合わせた《満足》は、76.7%となっている。「どちらとも言えない」は20.4%となっている。

⑥-5 「浄水器を通して使用する」人の「調理に使用する水としての水質」の満足度（時系列）

〈図表2-2-41〉



〈特徴〉

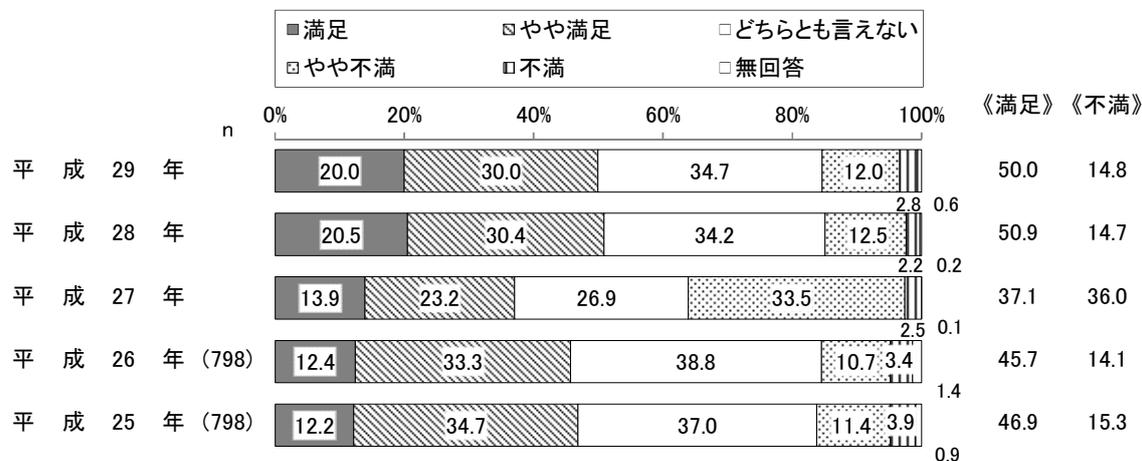
○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が5割強、「どちらとも言えない」が3割台半ばで推移している。

参考

「浄水器を通して使用する」人の「調理に使用する水としての水質」の満足度（時系列）

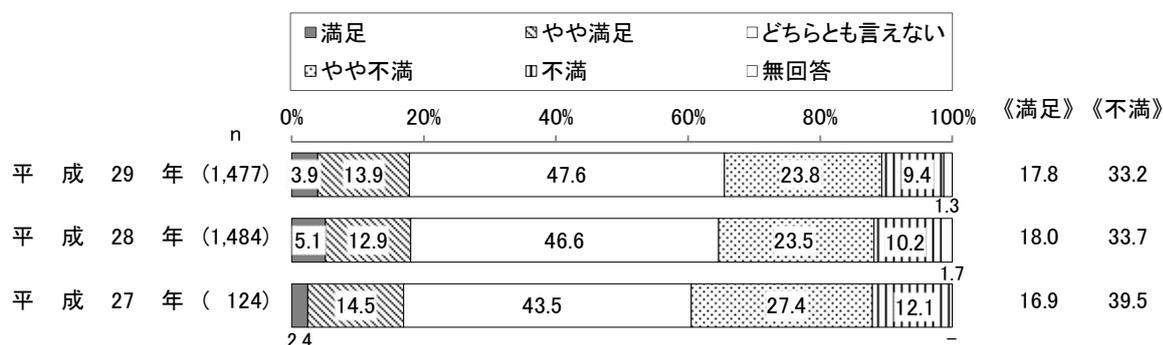
〈図表2-2-42〉



〈特徴〉

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査を見ると、「どちらとも言えない」が34.7%で最も高くなっている。「満足」(20.0%)と「やや満足」(30.0%)を合わせた《満足》は50.0%となっている。

⑥-6 「水道水を使わず、ボトルウォーター（サーバー水等）を使用する」人の「調理に使用する水としての水質」の満足度（時系列）〈図表2-2-43〉



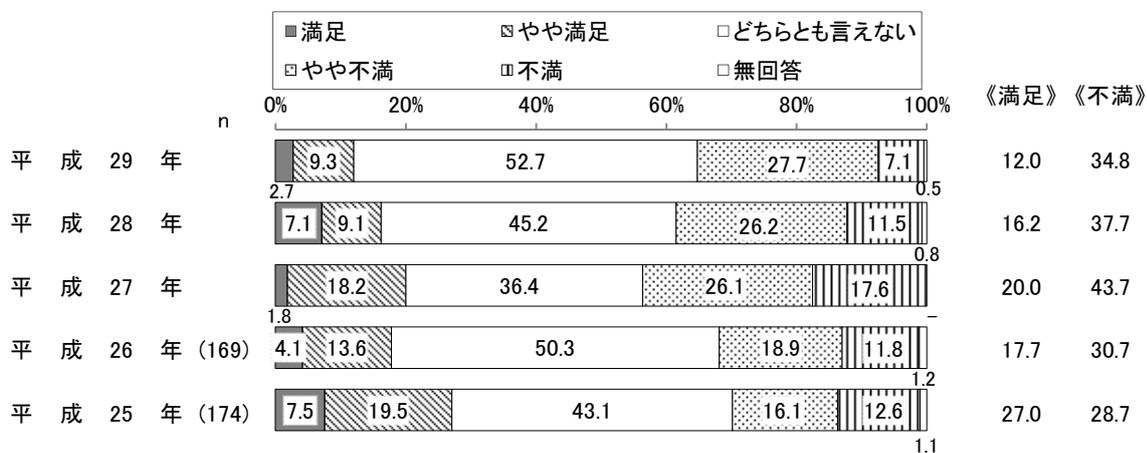
<特徴>

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向では、《満足》に特に違いはないが、「どちらとも言えない」が増加し、《不満》が減少している。

参考

「水道水を使わず、ボトルウォーター（サーバー水等）を使用する」人の「調理に使用する水としての水質」の満足度（時系列）〈図表2-2-44〉



<特徴>

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査を見ると、「どちらとも言えない」が52.7%で最も高くなっている。《満足》(12.0%)より《不満》(34.8%)の方が高くなっている。

(4) 洗面・風呂等としての水質の満足度

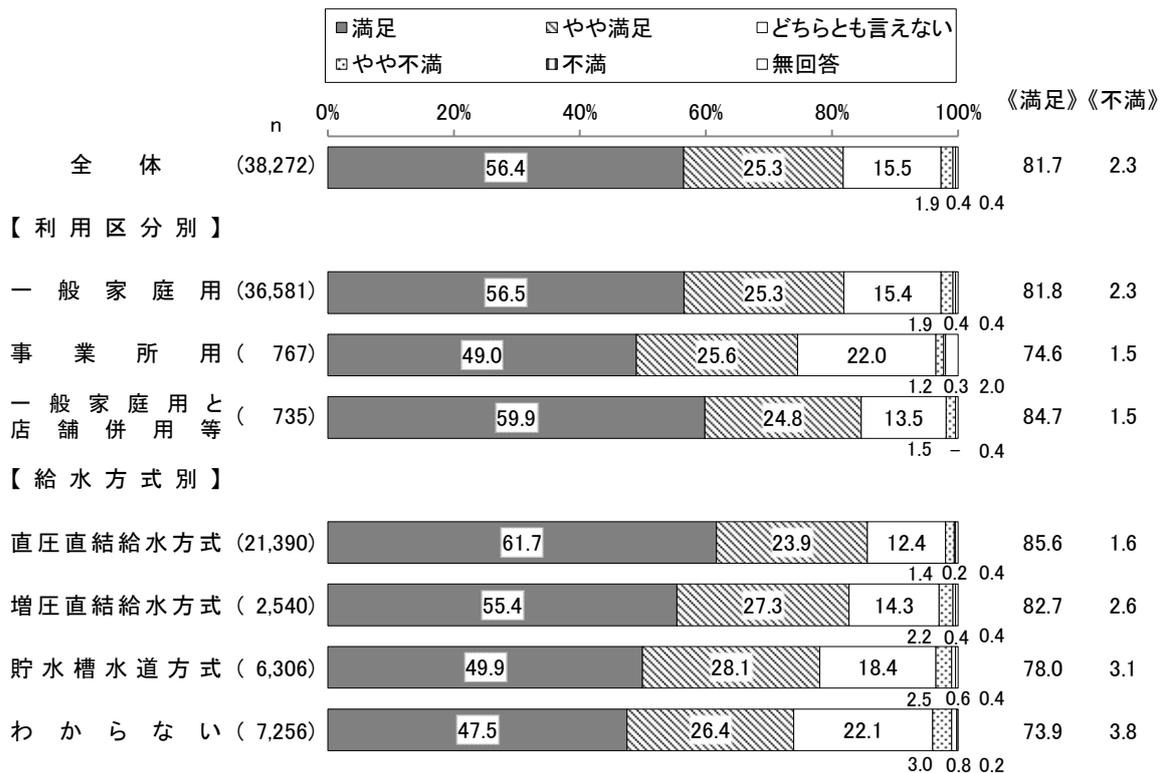
問 東京の水道水の洗面・風呂等としての水質をどのように感じますか。

- 1) 満足 2) やや満足 3) どちらとも言えない 4) やや不満 5) 不満

[B : 問10]

[調査結果]

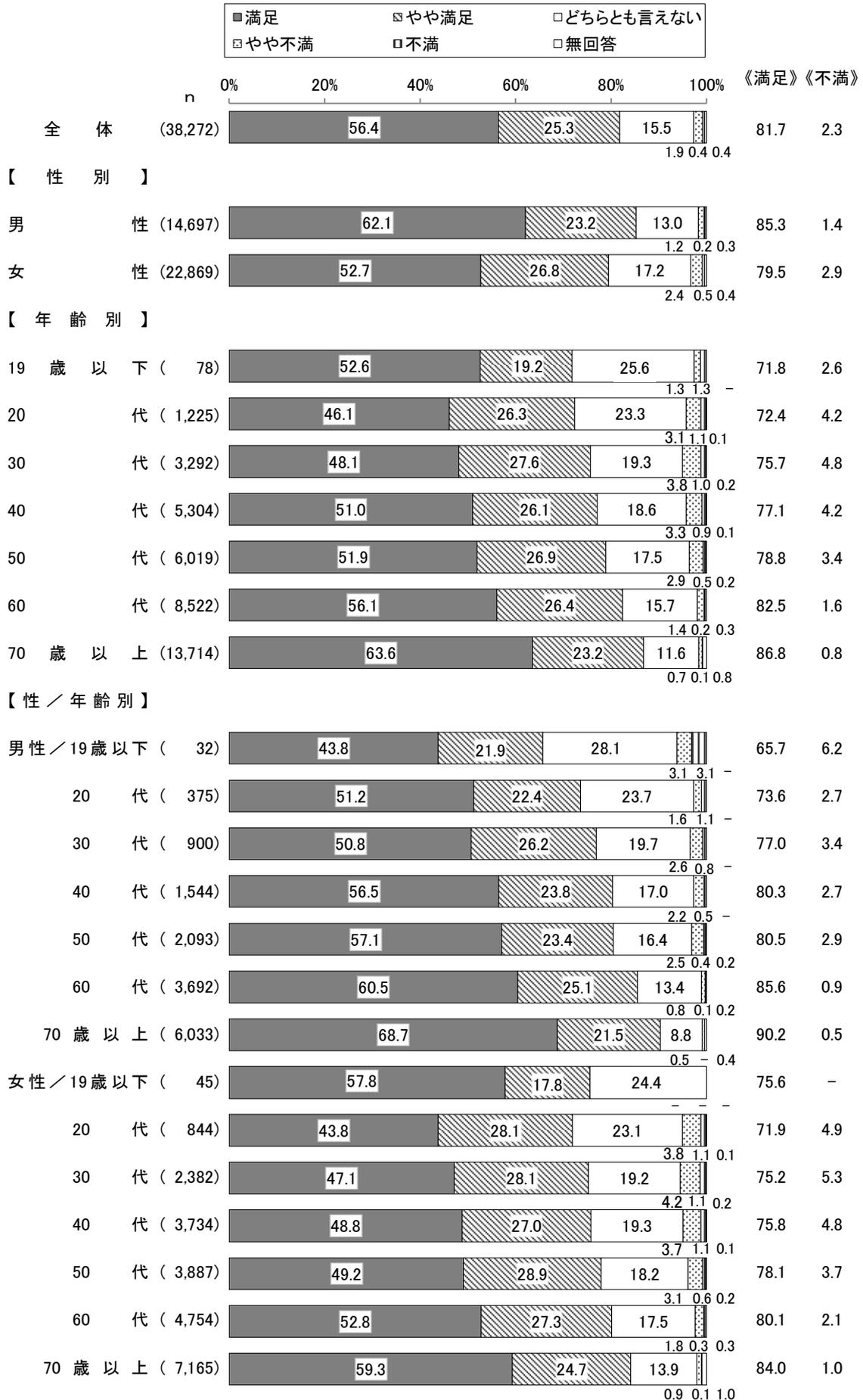
① 洗面・風呂等としての水質の満足度（利用区分別、給水方式別）〈図表2-2-45〉



<特徴>

- 全体で見ると、「満足」が56.4%と最も高く、「やや満足」(25.3%)を合わせた《満足》は81.7%となっている。一方、《不満》は2.3%となっている。
- 利用区分別では、《満足》は、一般家庭用と店舗併用等で84.7%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、《満足》は、直圧直結給水方式で85.6%と最も高くなっている。

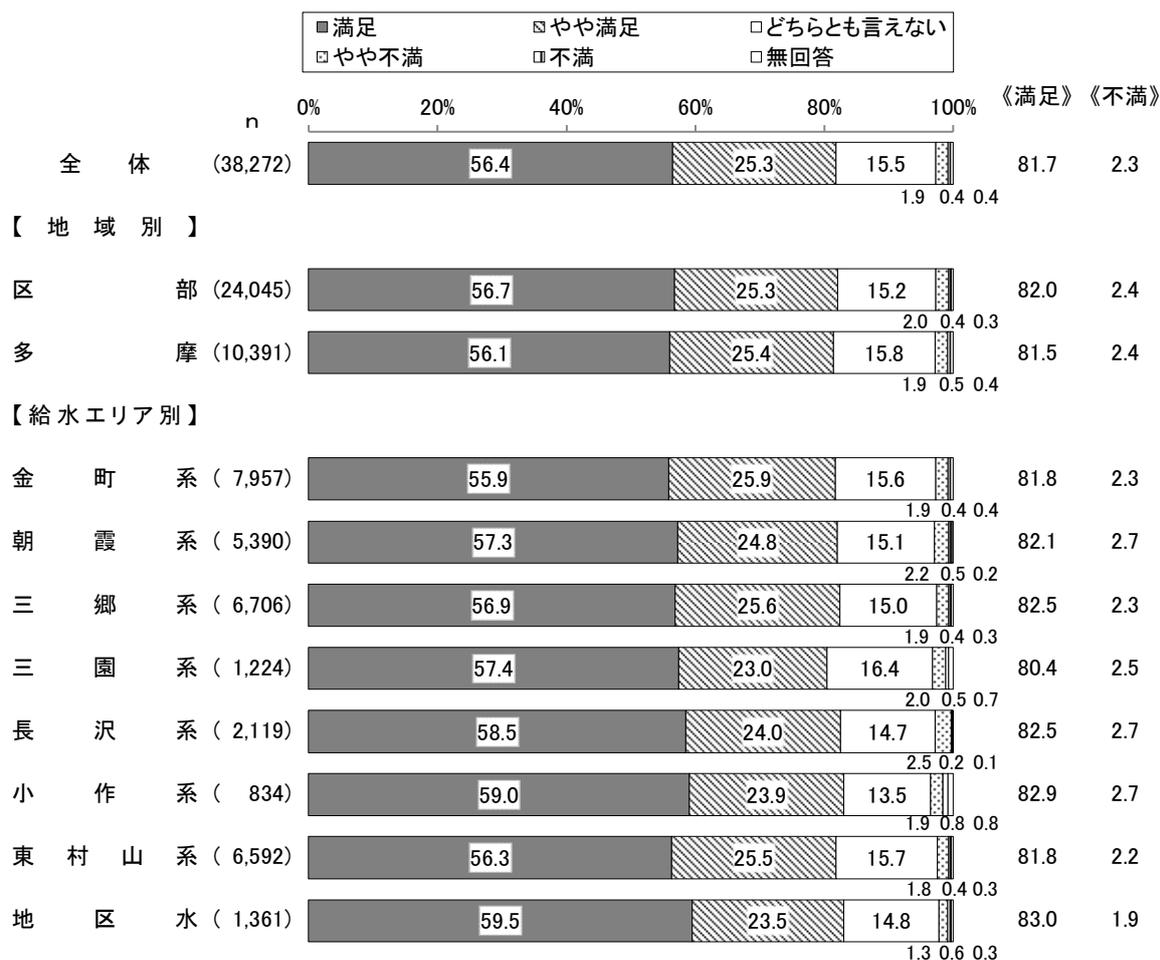
② 洗面・風呂等としての水質の満足度（属性別）〈図表 2-2-46〉



<特徴>

- 性別では、《満足》は、男性（85.3%）の方が女性（79.5%）より5.8ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《満足》は、19歳以下（71.8%）で最も低く、それ以降は年齢が上がるにつれ割合が高くなり、70歳以上（86.8%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別でも、《満足》は、男女ともおおむね年齢が上がるにつれ割合が高くなり、70歳以上（男性：90.2% 女性：84.0%）で最も高くなっている。

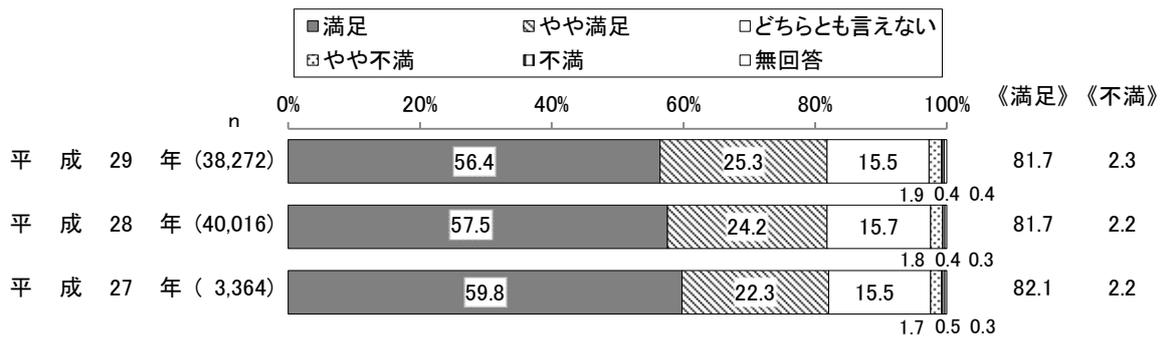
③ 洗面・風呂等としての水質の満足度（地域別、給水エリア別）〈図表2-2-47〉



<特徴>

- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別でも、特に大きな違いはみられない。

④ 洗面・風呂等としての水質の満足度（時系列：全体）〈図表2-2-48〉



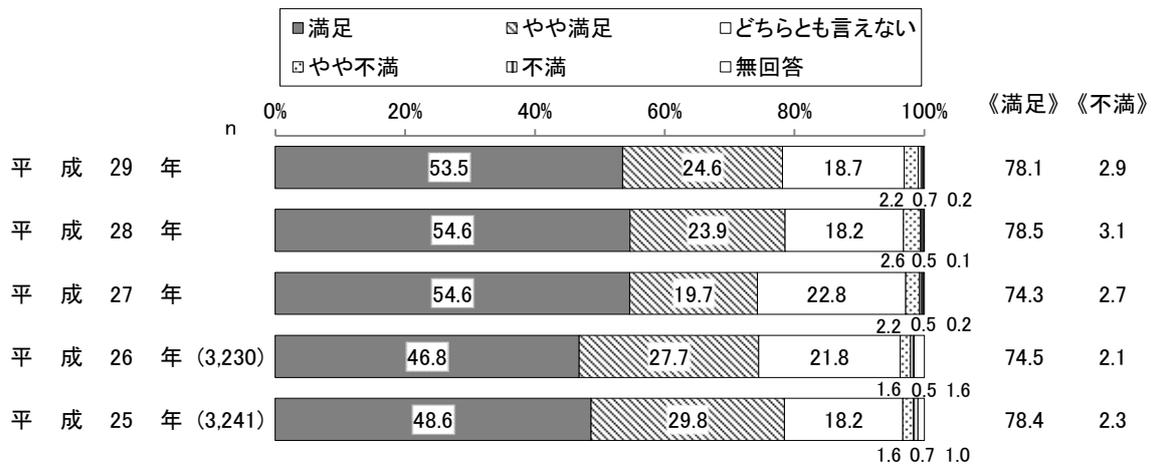
＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、「満足」が8割強、「どちらとも言えない」が1割台半ばで推移している。

参考

洗面・風呂等としての水質の満足度（時系列：全体）〈図表2-2-49〉

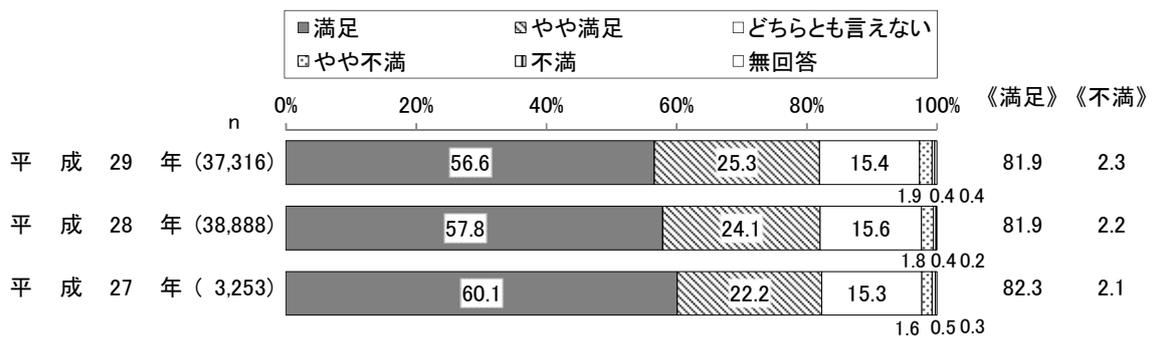


＜特徴＞

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査を全体で見ると、「満足」は78.1%となっている。「どちらとも言えない」は18.7%となっている。

⑤ 洗面・風呂等としての水質の満足度

(時系列：「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計)〈図表2-2-50〉



<特徴>

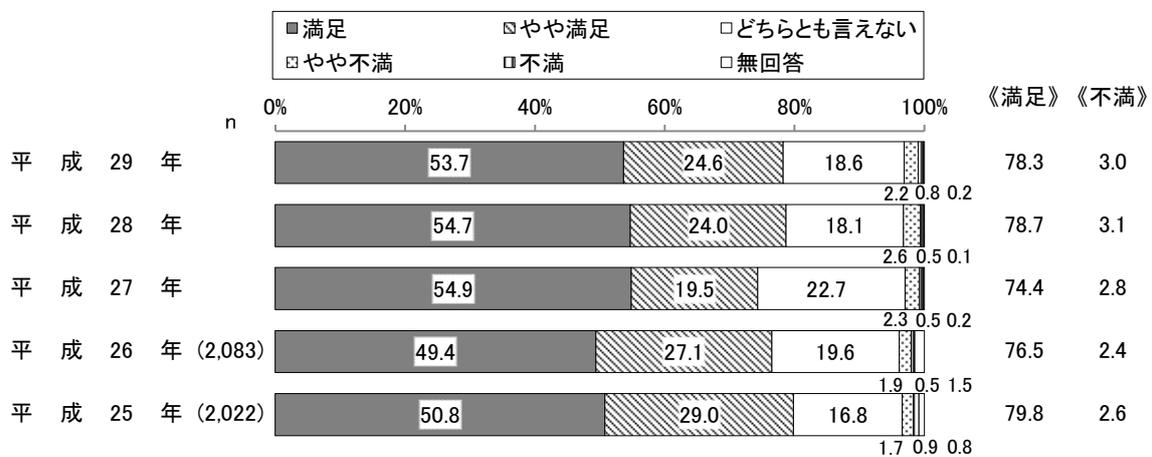
○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、「満足」が8割強、「どちらとも言えない」が1割台半ばで推移している。

参考

洗面・風呂等としての水質の満足度

(時系列：「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計)〈図表2-2-51〉



<特徴>

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査を「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計で見ると、「満足」は78.3%となっている。「どちらとも言えない」は18.6%となっている。

(5) 味（おいしさ）の満足度

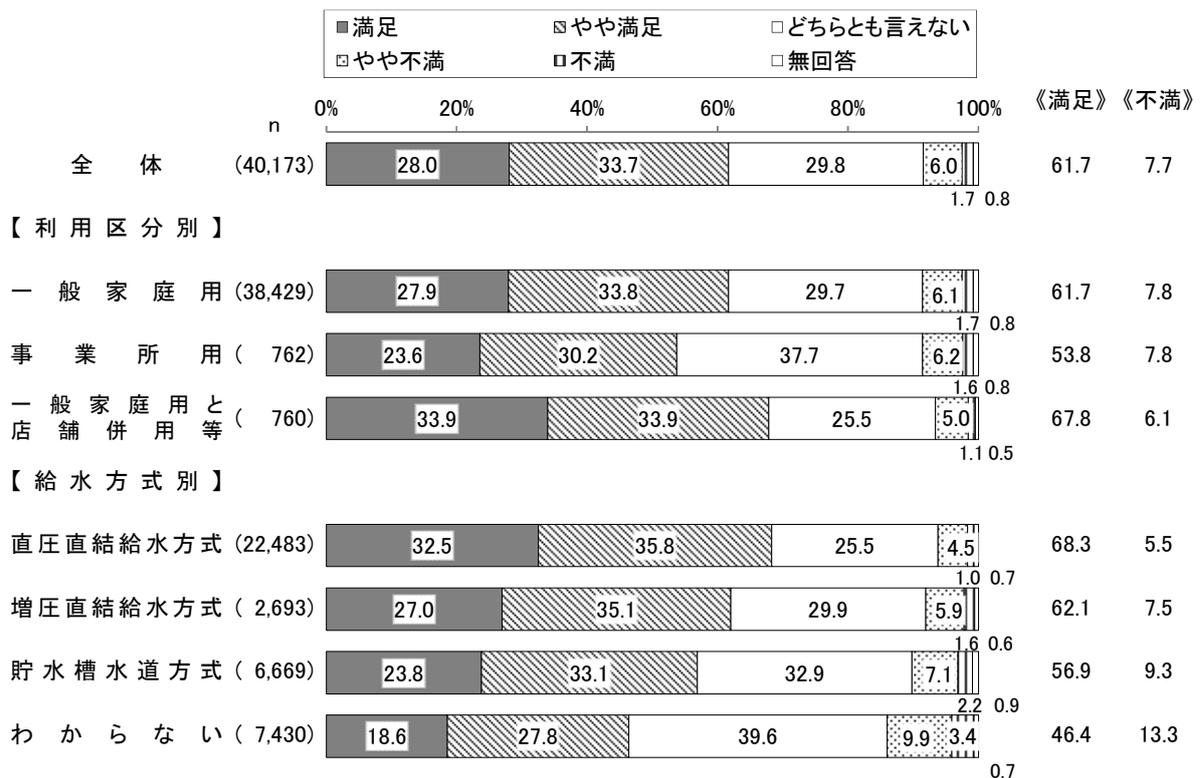
問 東京の水道水の味（おいしさ）を、どのように感じますか。

- 1) 満足 2) やや満足 3) どちらとも言えない 4) やや不満 5) 不満

[A : 問9]

[調査結果]

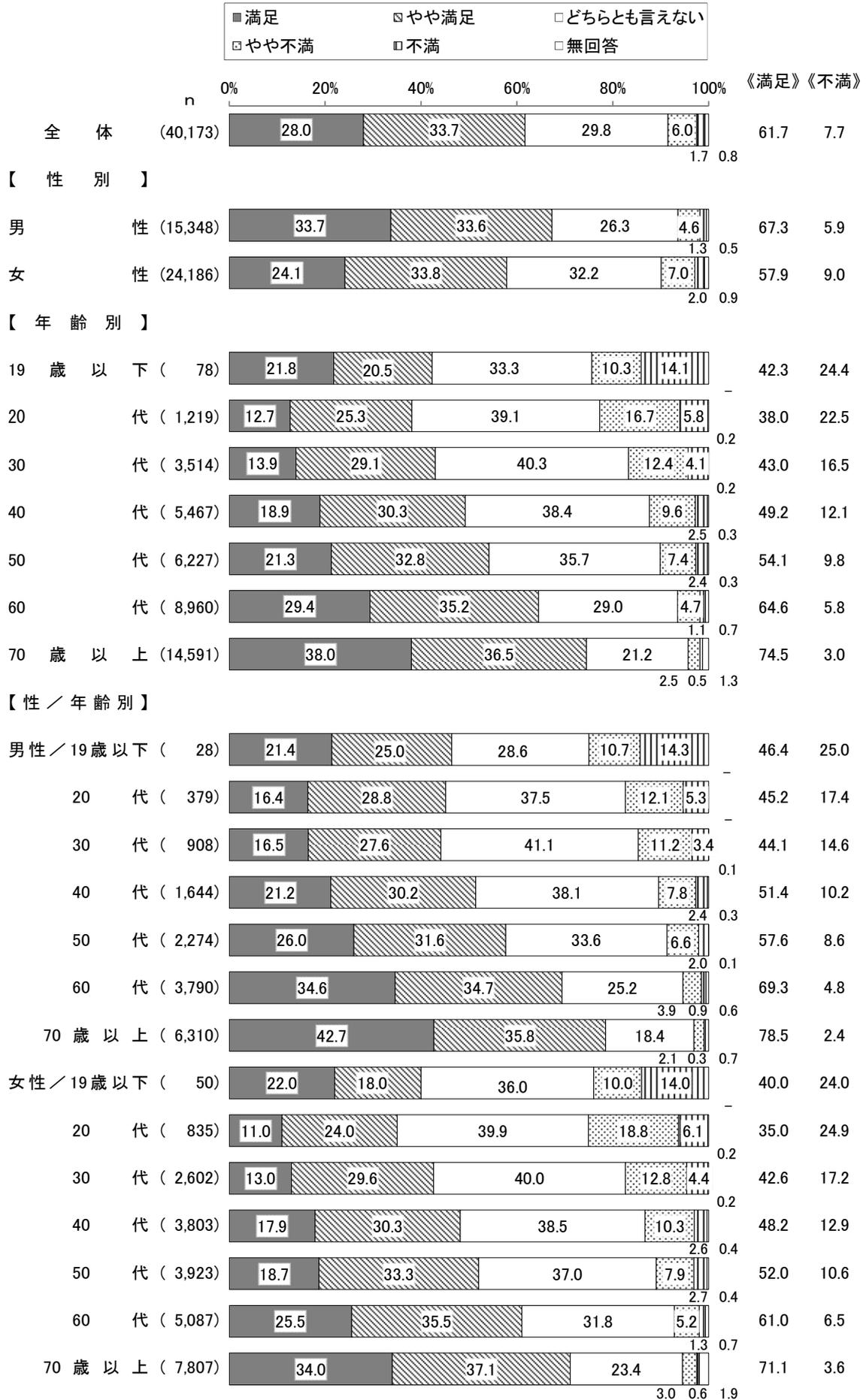
① 味（おいしさ）の満足度（利用区分別、給水方式別）〈図表2-2-52〉



<特徴>

- 全体で見ると、「やや満足」が33.7%と最も高く、「満足」(28.0%)を合わせた《満足》は61.7%となっている。一方、《不満》は7.7%で、「どちらともいえない」は29.8%となっている。
- 利用区分別では、《満足》は、一般家庭用と店舗併用等が67.8%で高くなっている。《不満》では特に大きな違いはみられない。
- 給水方式別では、《満足》は、直圧直結給水方式で68.3%と最も高くなっている。

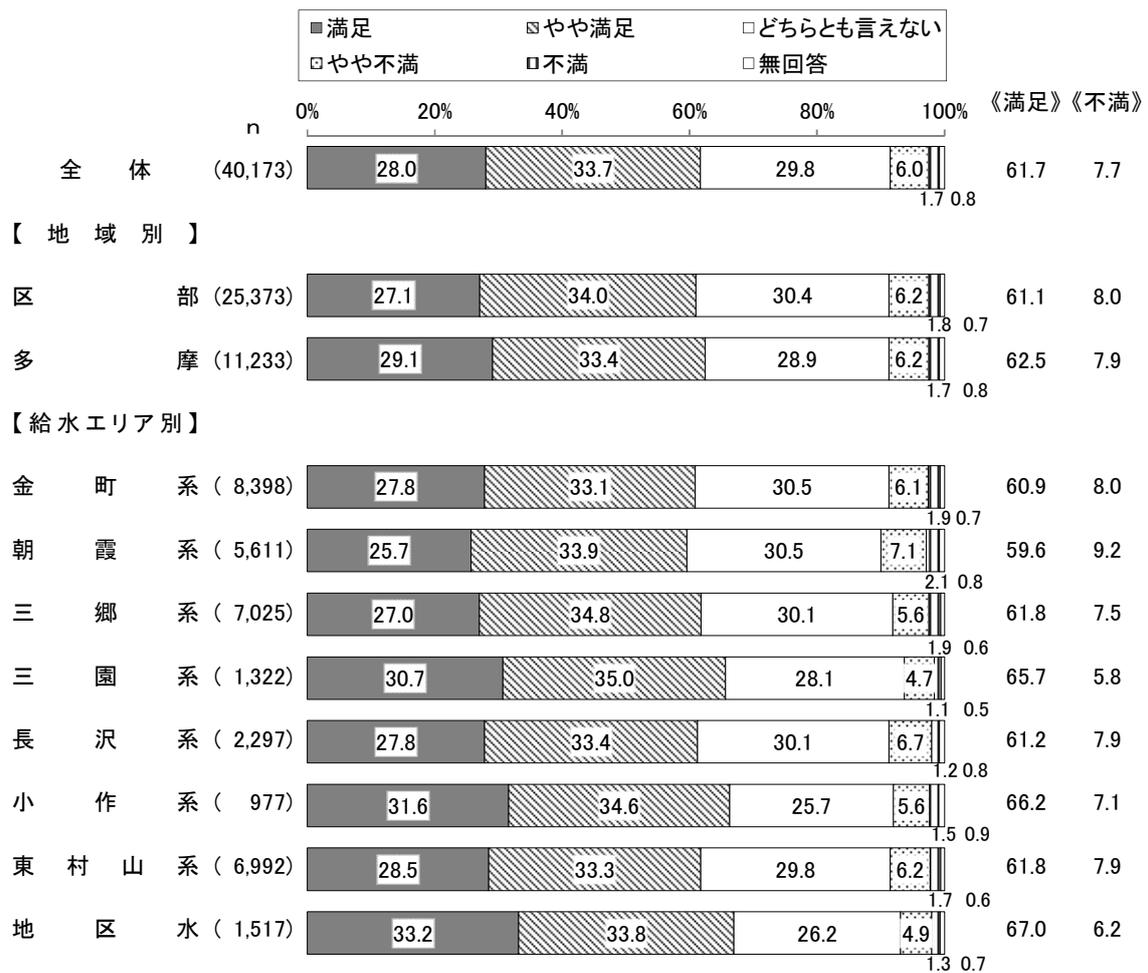
② 味（おいしさ）の満足度（属性別）〈図表 2-2-53〉



<特徴>

- 性別では、《満足》は、男性（67.3%）の方が女性（57.9%）より9.4ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《満足》は、20代（38.0%）が最も低く、それ以降は年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（74.5%）で最も高くなっている。
- 性/年齢別では、《満足》は、男女とも70歳以上（男性：78.5% 女性：71.1%）で最も高くなっている。

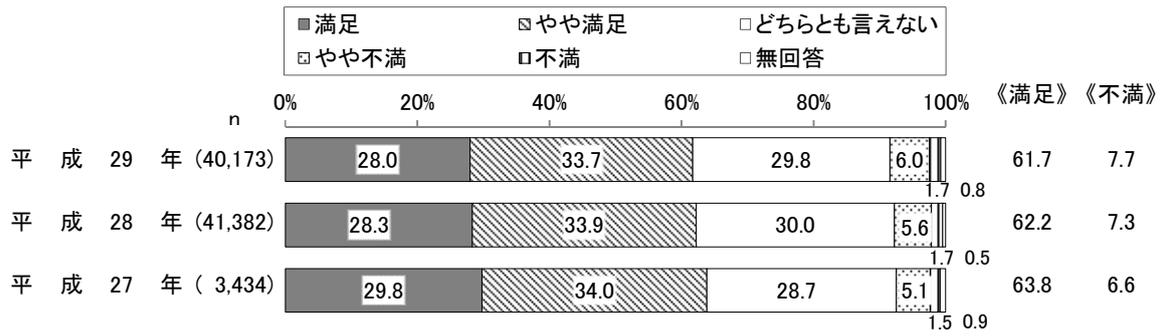
③ 味（おいしさ）の満足度（地域別、給水エリア別）〈図表2-2-54〉



<特徴>

- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、《満足》は、地区水（67.0%）で最も高く、以下、小作系（66.2%）、三園系（65.7%）と続く。

④ 味（おいしさ）の満足度（時系列：全体）〈図表 2-2-55〉

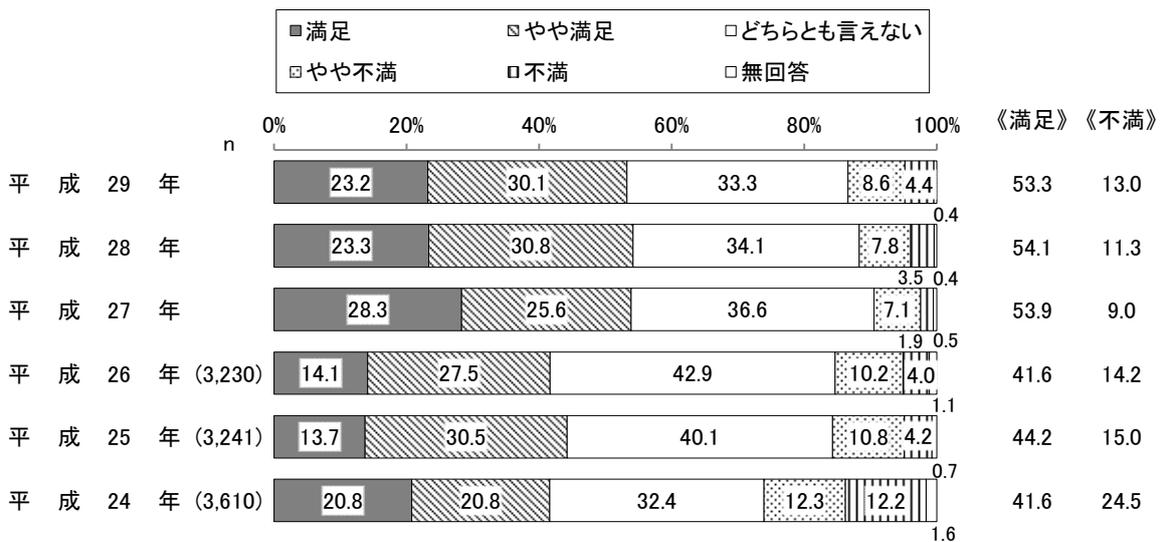


<特徴>

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、「《満足》」が6割強、「どちらとも言えない」が3割前後で推移している。

参考 味（おいしさ）の満足度（時系列：全体）〈図表 2-2-56〉

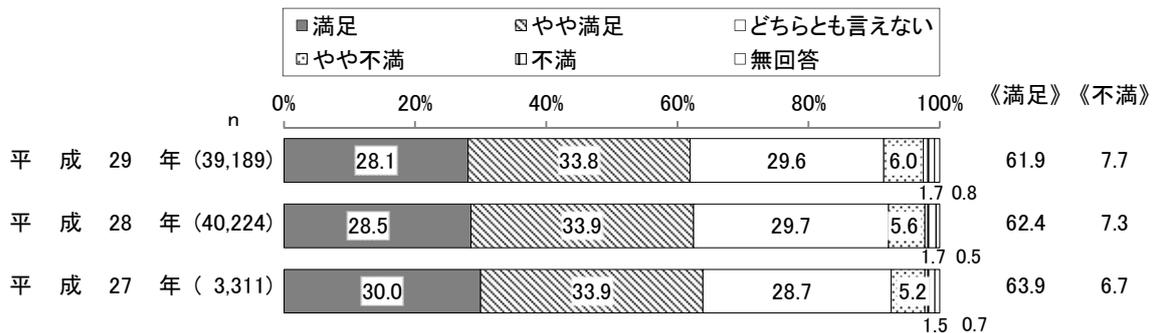


<特徴>

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査を全体で見ると、「《満足》」は53.3%となっている。「どちらとも言えない」は33.3%となっている。

⑤ 味（おいしさ）の満足度

（時系列：「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計）〈図表2-2-57〉



＜特徴＞

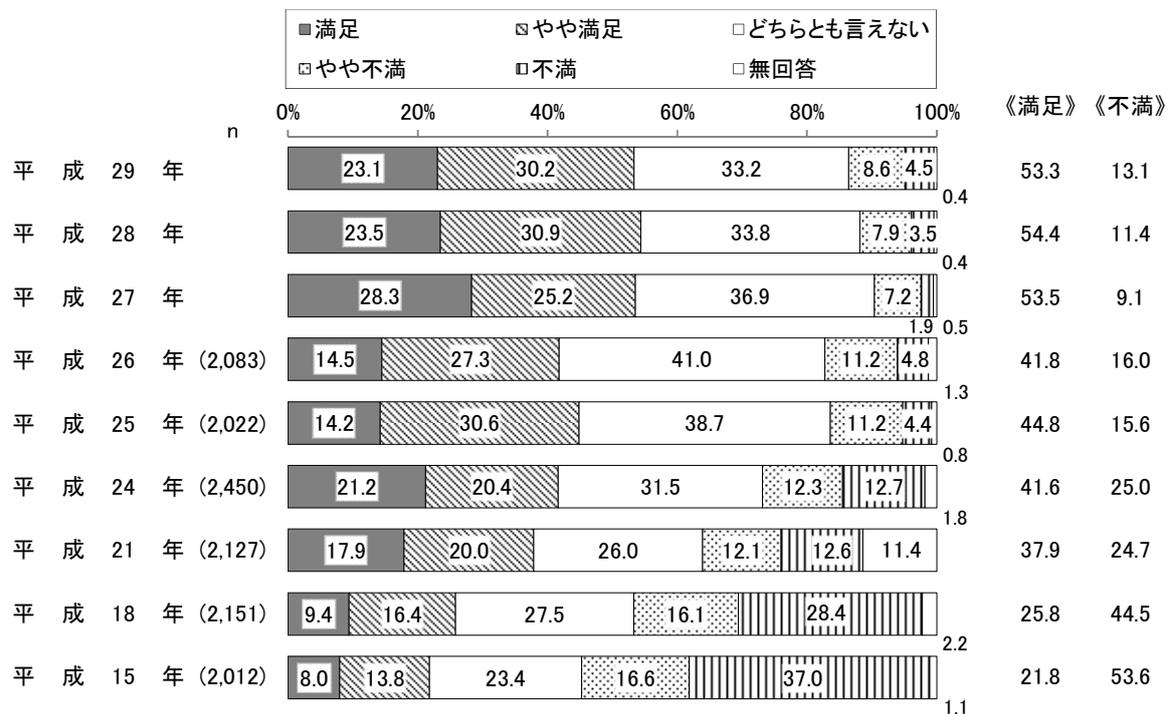
○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が6割強、「どちらとも言えない」が3割弱で推移している。

参考

味（おいしさ）の満足度

（時系列：「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計）〈図表2-2-58〉



＜特徴＞

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査を「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計で見ると、《満足》は53.3%となっている。「どちらとも言えない」は33.2%となっている。

(6) におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさの満足度

問 東京の水道水のおい（カルキ臭・かび臭等）の少なさを、どのように感じますか。

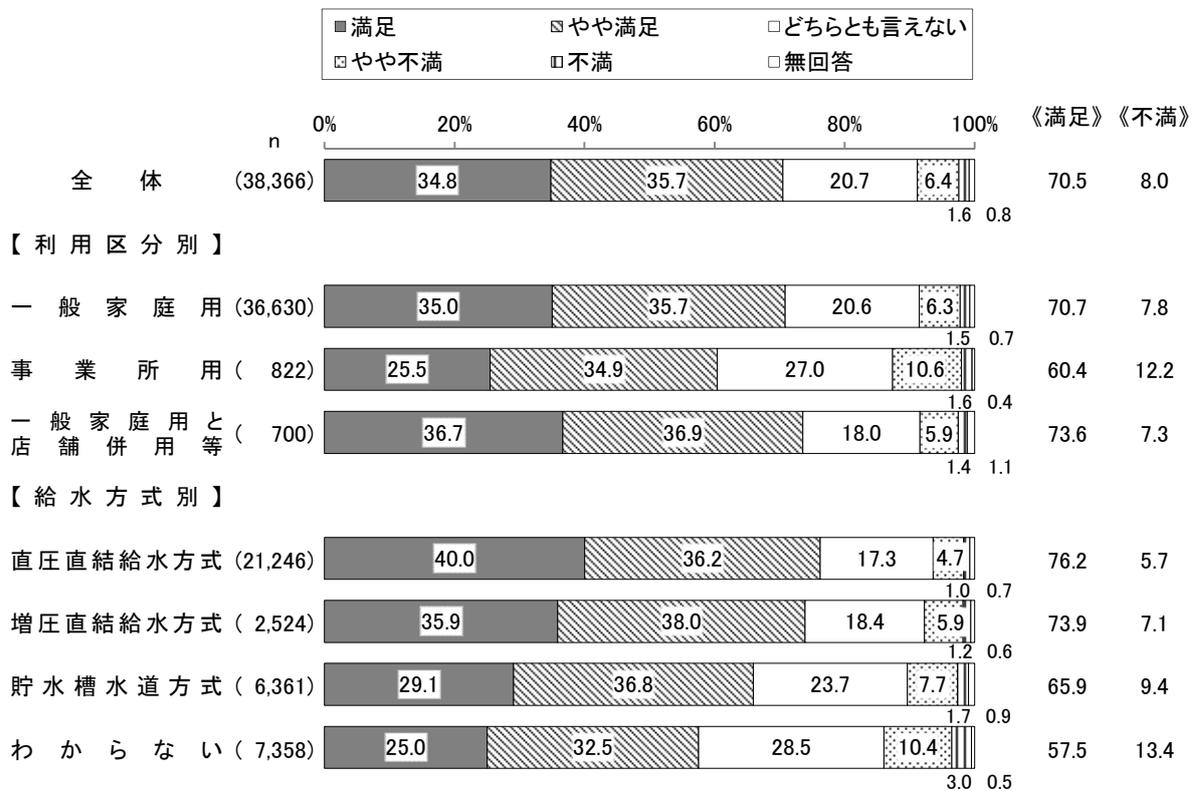
- 1) 満足 2) やや満足 3) どちらとも言えない 4) やや不満 5) 不満

[C : 問10]

[調査結果]

① におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさの満足度（利用区分別、給水方式別）

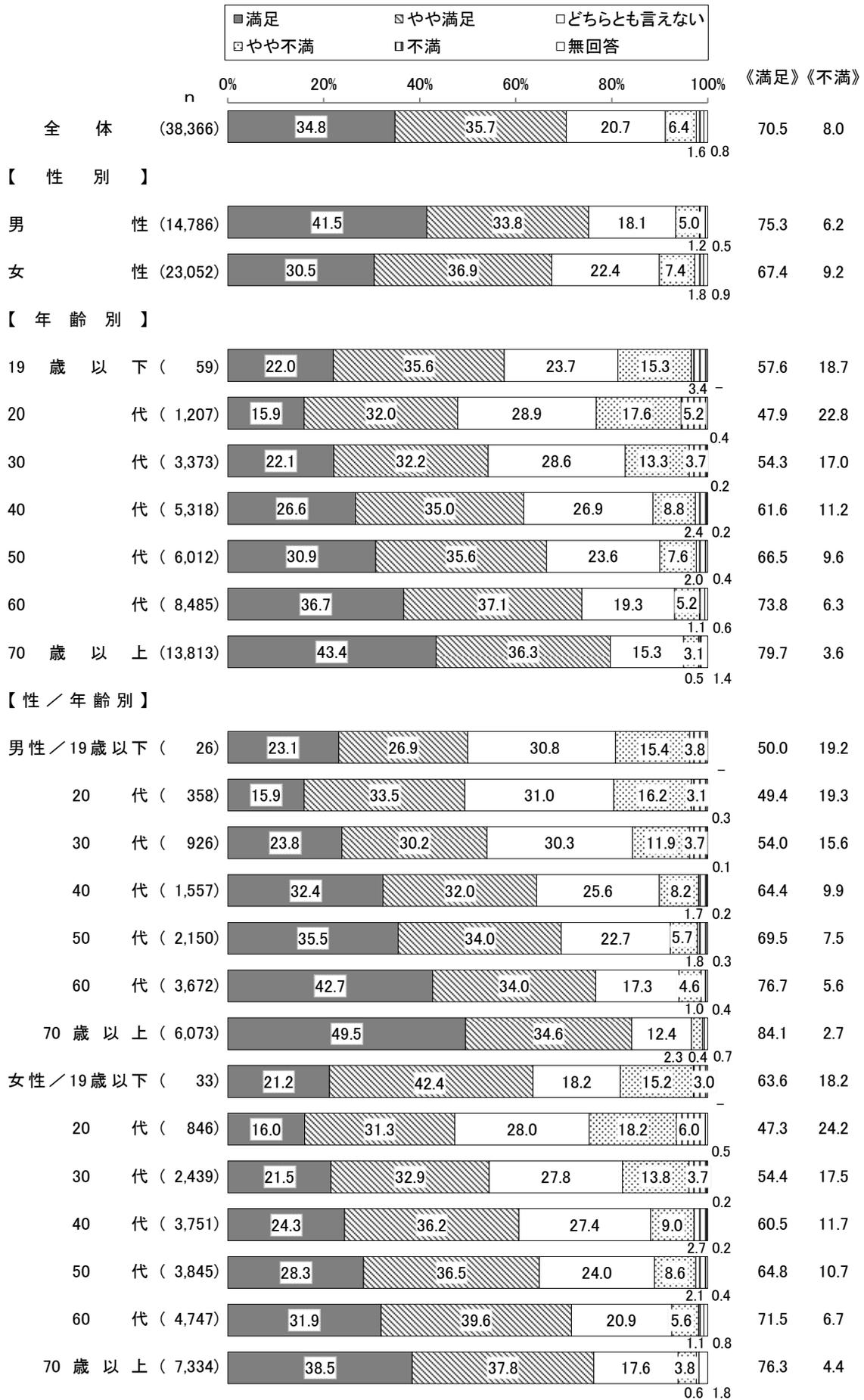
〈図表2-2-59〉



<特徴>

- 全体で見ると、「やや満足」が35.7%と最も高く、「満足」(34.8%)を合わせた《満足》は70.5%となっている。一方、《不満》は8.0%で、「どちらとも言えない」は20.7%となっている。
- 利用区分別では、《満足》は、一般家庭用と店舗併用等で73.6%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、《満足》は、直圧直結給水方式で76.2%と最も高くなっている。

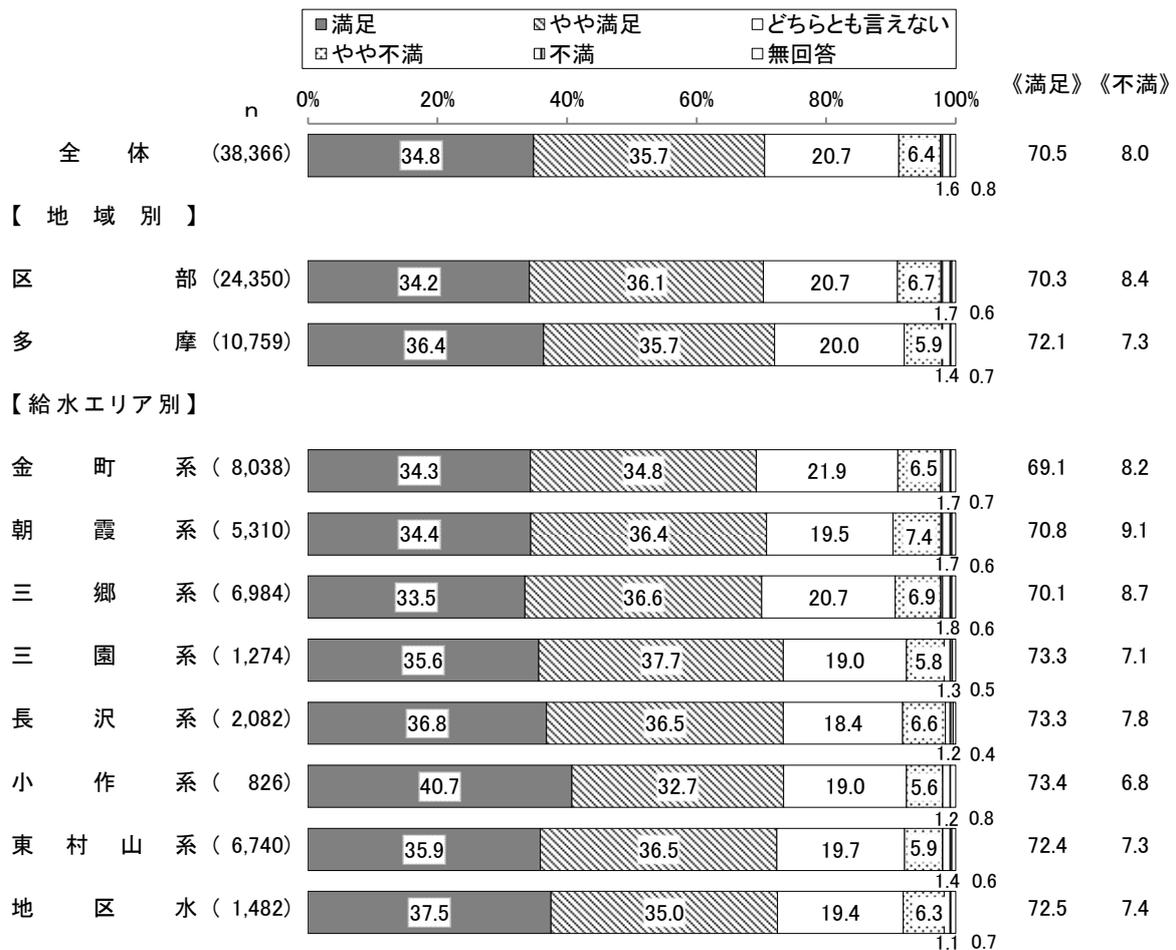
② におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさの満足度（属性別）〈図表2-2-60〉



<特徴>

- 性別では、《満足》は、男性（75.3%）の方が女性（67.4%）より7.9ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《満足》は、20代（47.9%）が最も低く、それ以降は年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（79.7%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《満足》は、男性の70歳以上（84.1%）で8割台と最も高くなっている。

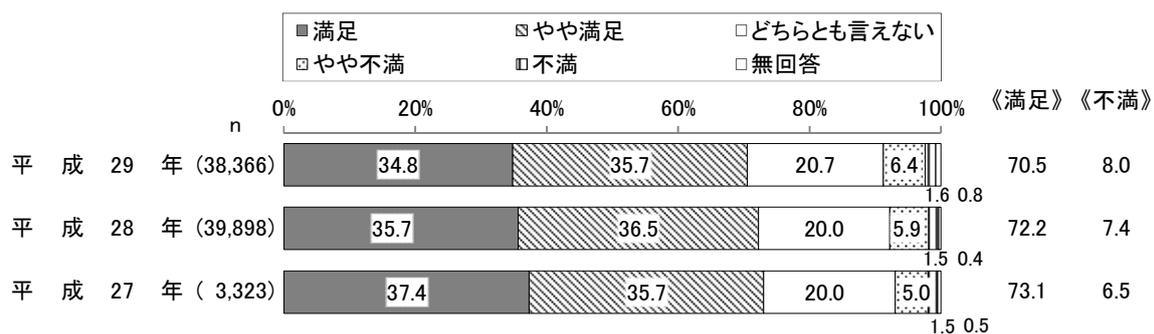
③ におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさの満足度（地域別、給水エリア別）〈図表2-2-61〉



<特徴>

- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、《満足》では特に大きな違いはみられないが、「満足」では小作系（40.7%）が4割と最も高くなっている。

④ におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさの満足度（時系列：全体）〈図表 2-2-6 2〉

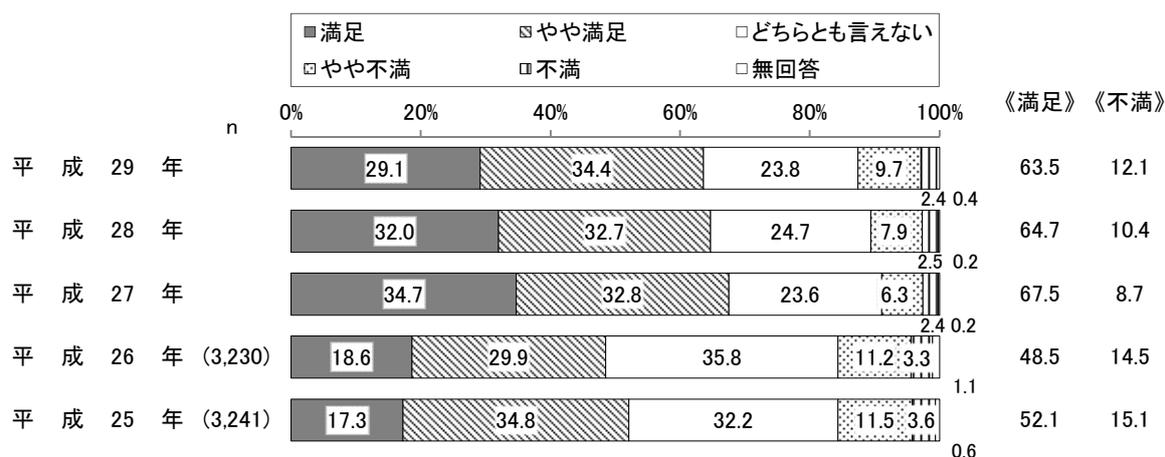


<特徴>

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、「《満足》」が7割強、「どちらとも言えない」が約2割で推移している。

参考 におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさの満足度（時系列：全体）〈図表 2-2-6 3〉

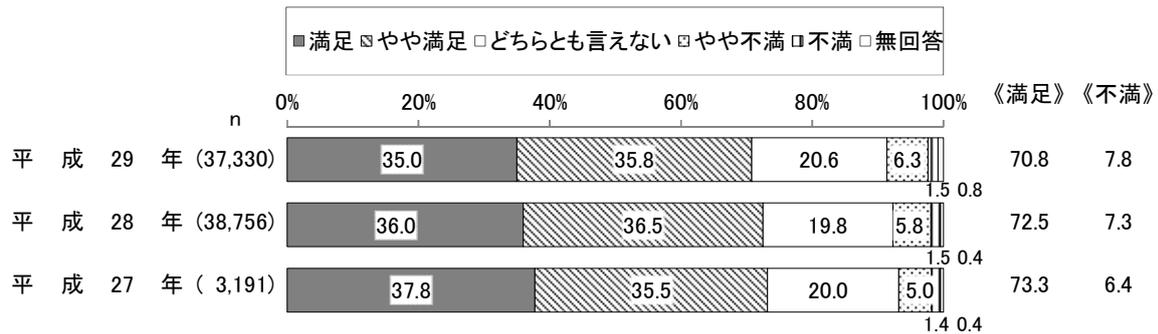


<特徴>

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査を全体で見ると、「《満足》」は63.5%となっている。「どちらとも言えない」は23.8%となっている。

⑤ におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさの満足度

（時系列：「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計）〈図表2-2-64〉



<特徴>

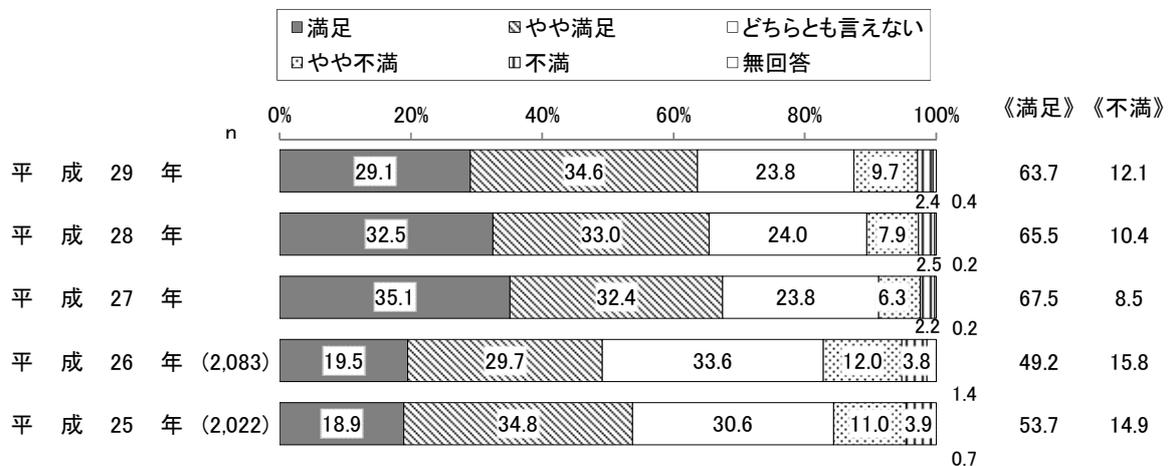
○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が7割強、「どちらとも言えない」が2割前後で推移している。

参考

におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさの満足度

（時系列：「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計）〈図表2-2-65〉



<特徴>

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査を「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計で見ると、《満足》は63.7%となっている。「どちらとも言えない」は23.8%となっている。

(7) にごりの少なさ・透明度の満足度

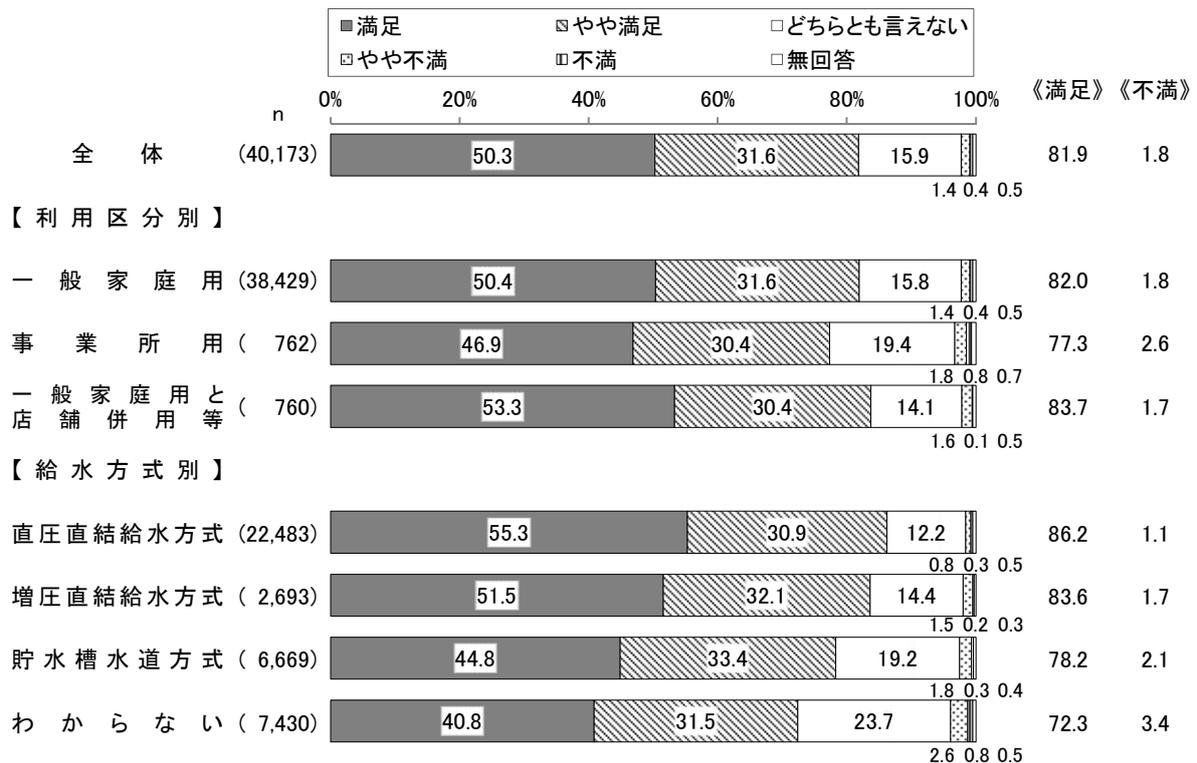
問 東京の水道水のごりの少なさ・透明度について、どのように感じますか。

- 1) 満足 2) やや満足 3) どちらとも言えない 4) やや不満 5) 不満

[A : 問 10]

[調査結果]

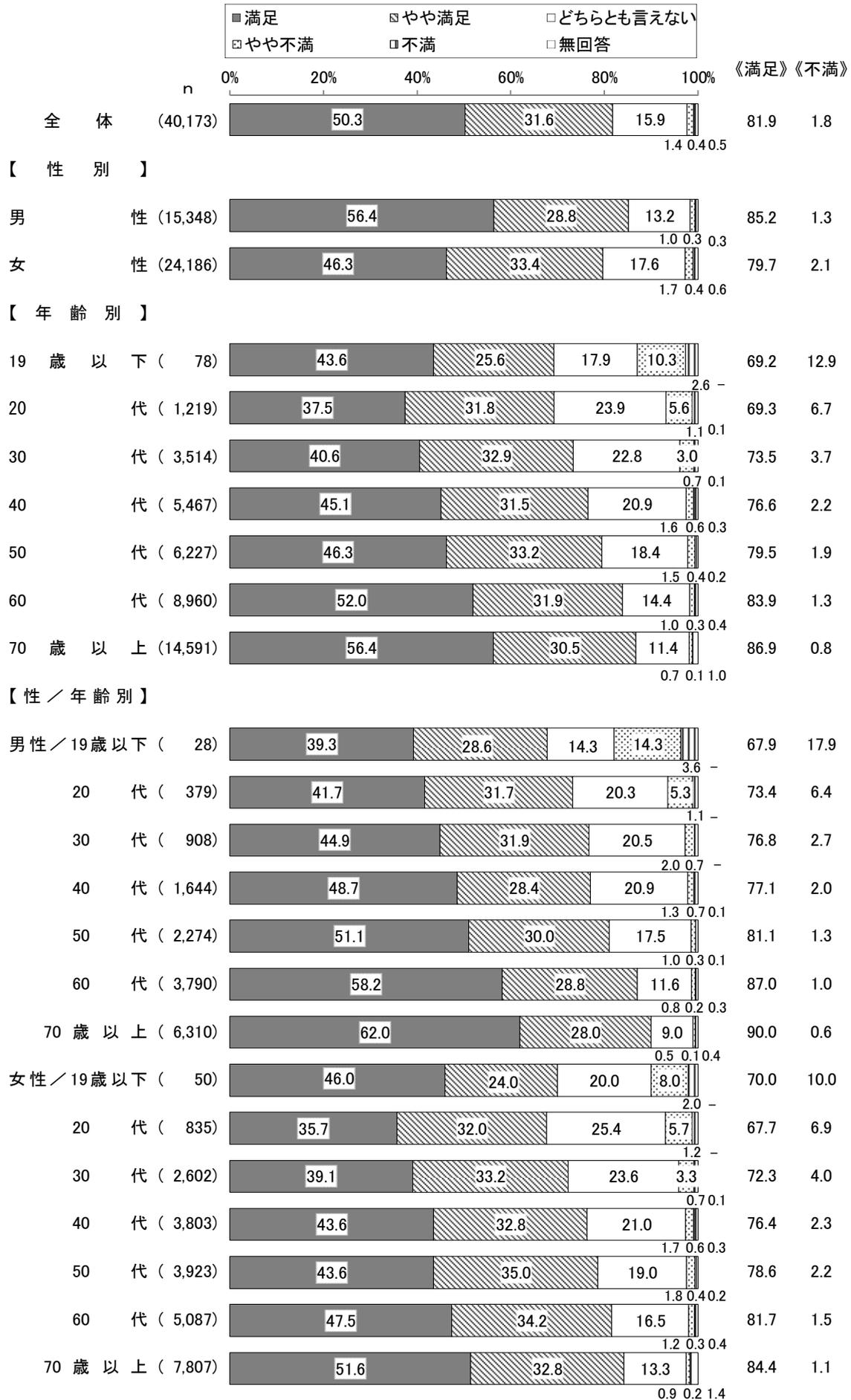
① にごりの少なさ・透明度の満足度（利用区分別、給水方式別）〈図表2-2-66〉



<特徴>

- 全体で見ると、「満足」が50.3%と最も高く、「やや満足」(31.6%)を合わせた《満足》は81.9%となっている。一方、《不満》は1.8%となっている。
- 利用区分別では、《満足》は、一般家庭用と店舗併用等で83.7%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、《満足》は、直圧直結給水方式で86.2%と最も高く、増圧直結給水方式で83.6%と続く。

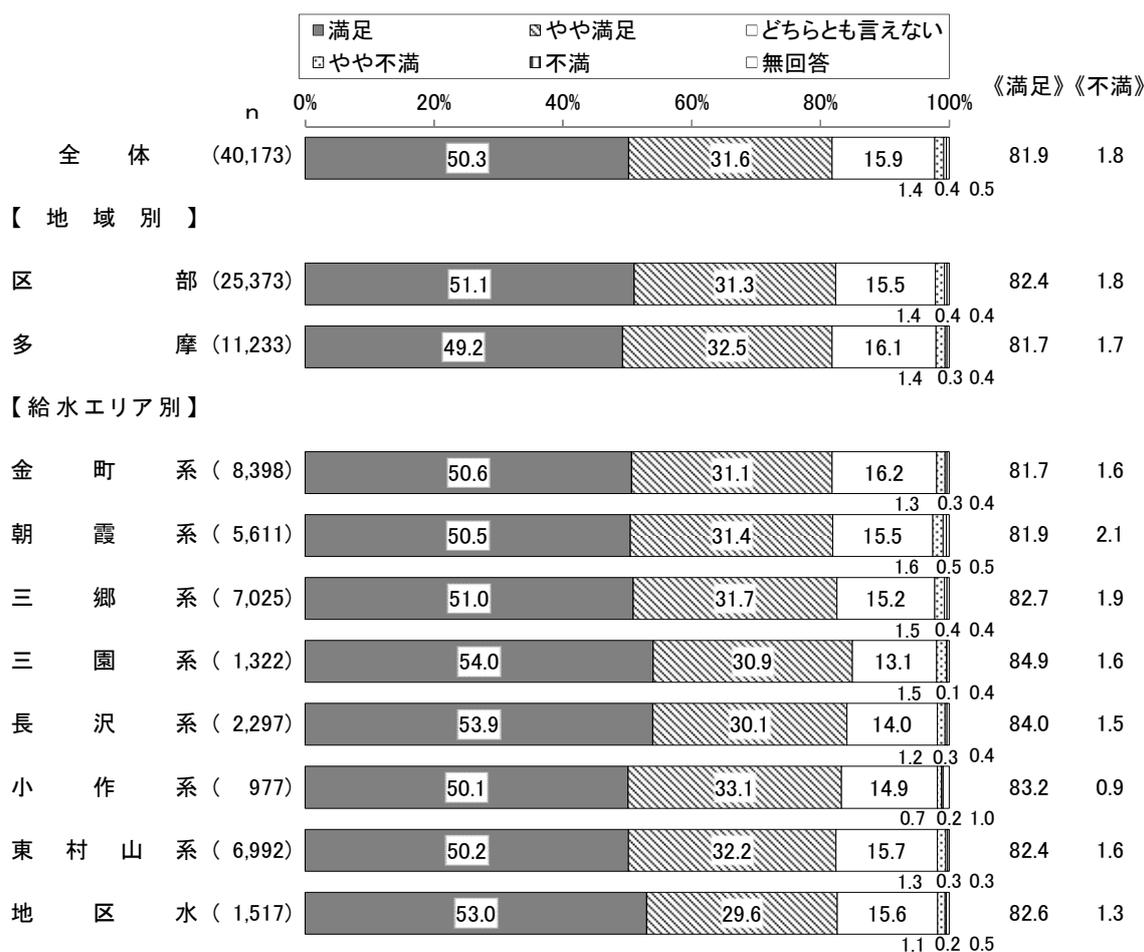
② にごりの少なさ・透明度の満足度（属性別）〈図表2-2-67〉



<特徴>

- 性別では、《満足》は、男性（85.2%）の方が女性（79.7%）より5.5ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《満足》は、19歳以下（69.2%）で低く、年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（86.9%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《満足》は、男女ともおおむね年齢が上がるにつれ高くなり、70歳以上（男性：90.0% 女性：84.4%）で最も高くなっている。

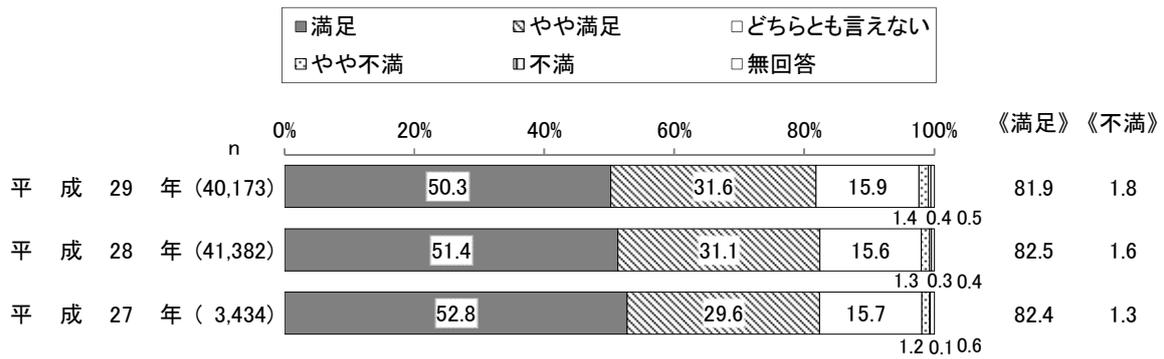
③ にごりの少なさ・透明度の満足度（地域別、給水エリア）〈図表2-2-68〉



<特徴>

- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、《満足》は、三園系（84.9%）で最も高くなっている。

④ にごりの少なさ・透明度の満足度（時系列：全体）〈図表2-2-69〉



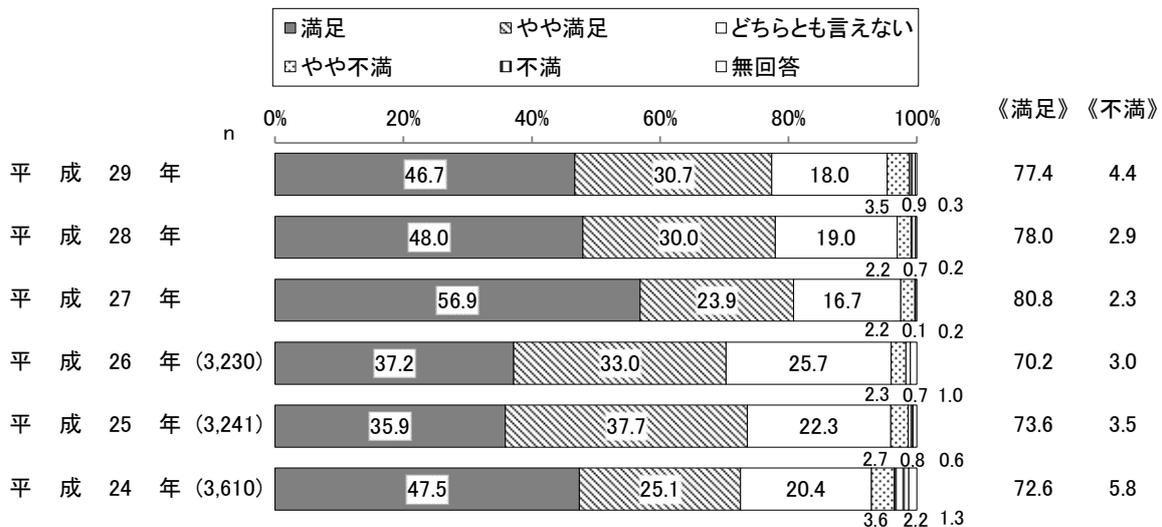
<特徴>

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、「満足」が8割強、「どちらとも言えない」が1割台半ばで推移している。

参考

にごりの少なさ・透明度の満足度（時系列：全体）〈図表2-2-70〉

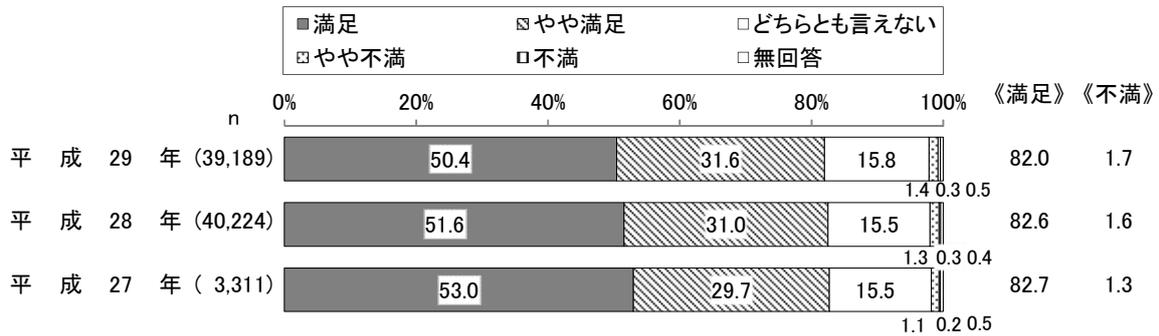


<特徴>

○参考までにウェイトバック集計値で、今回調査を全体で見ると、「満足」は77.4%となっている。「どちらとも言えない」は18.0%となっている。

⑤ にごりの少なさ・透明度の満足度（時系列：「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計）

〈図表2-2-71〉



〈特徴〉

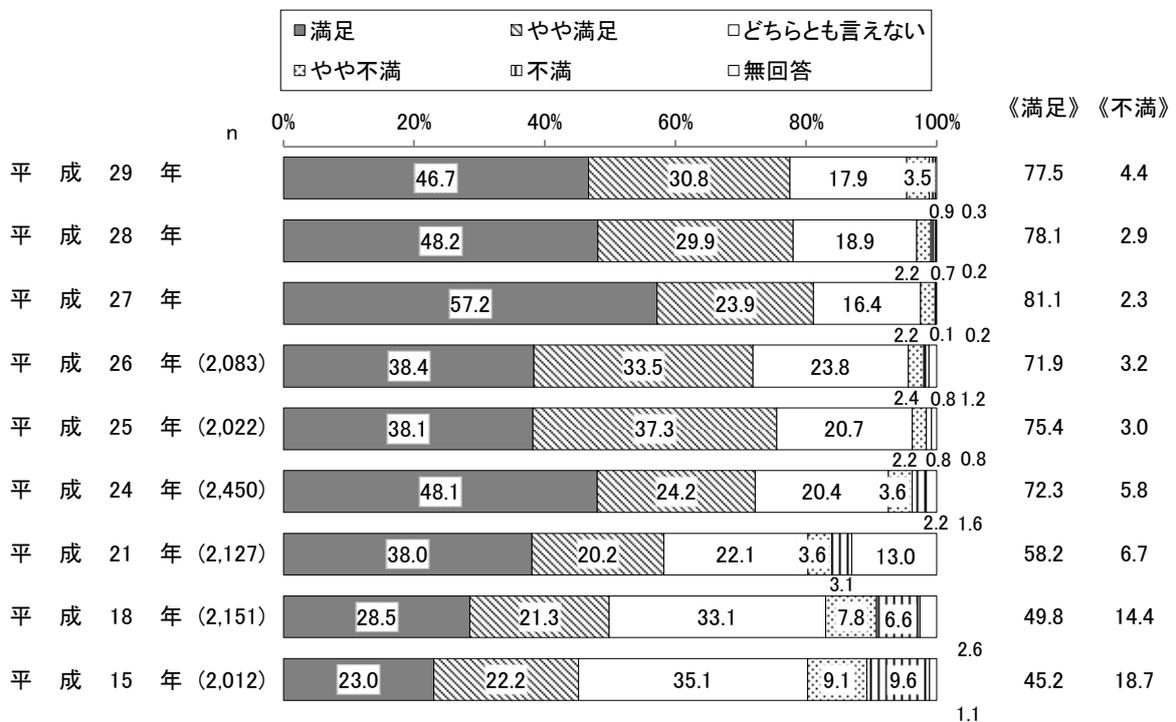
○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が8割強、「どちらとも言えない」が1割台半ばで推移している。

参考

にごりの少なさ・透明度の満足度

（時系列：「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計）〈図表2-2-72〉



〈特徴〉

○参考までにウェイトバック集計値で、今回調査を「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計で見ると、《満足》は77.5%となっている。「どちらとも言えない」は17.9%となっている。

(8) 安全性の満足度

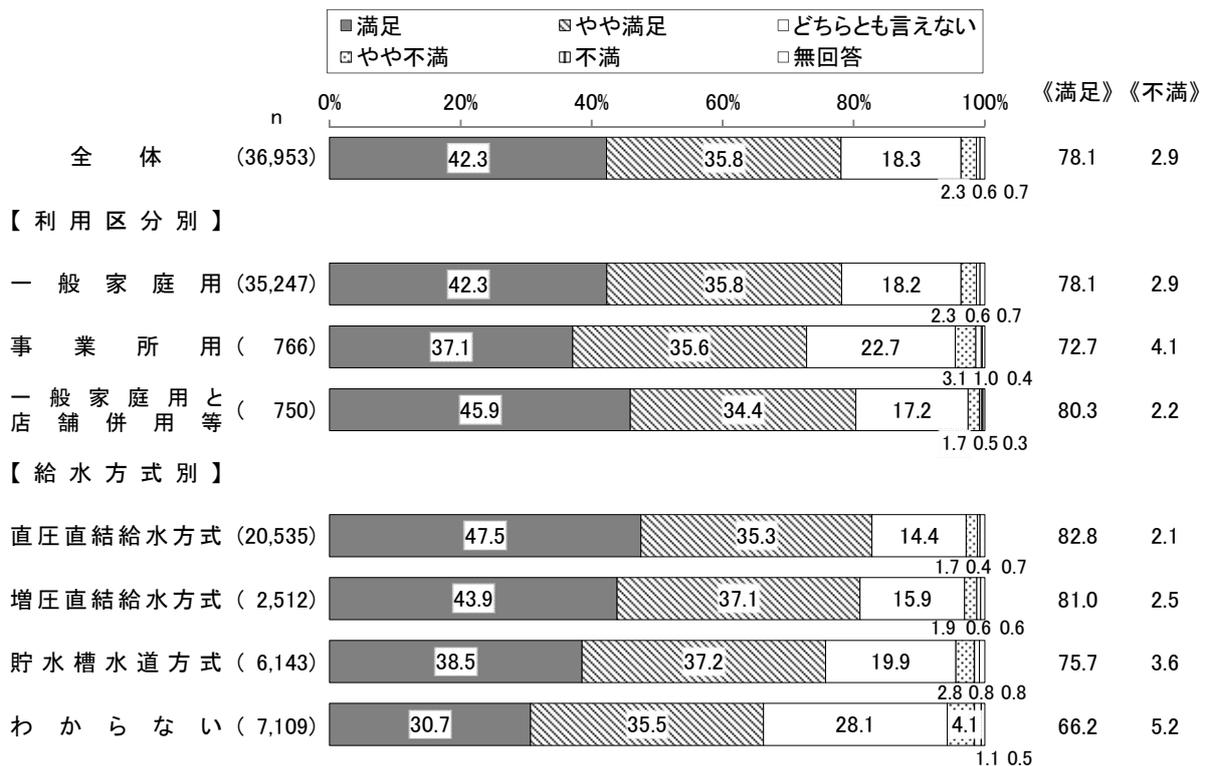
問 東京の水道水の安全性を、どのように感じますか。

- 1) 満足 2) やや満足 3) どちらとも言えない 4) やや不満 5) 不満

[D : 問9]

[調査結果]

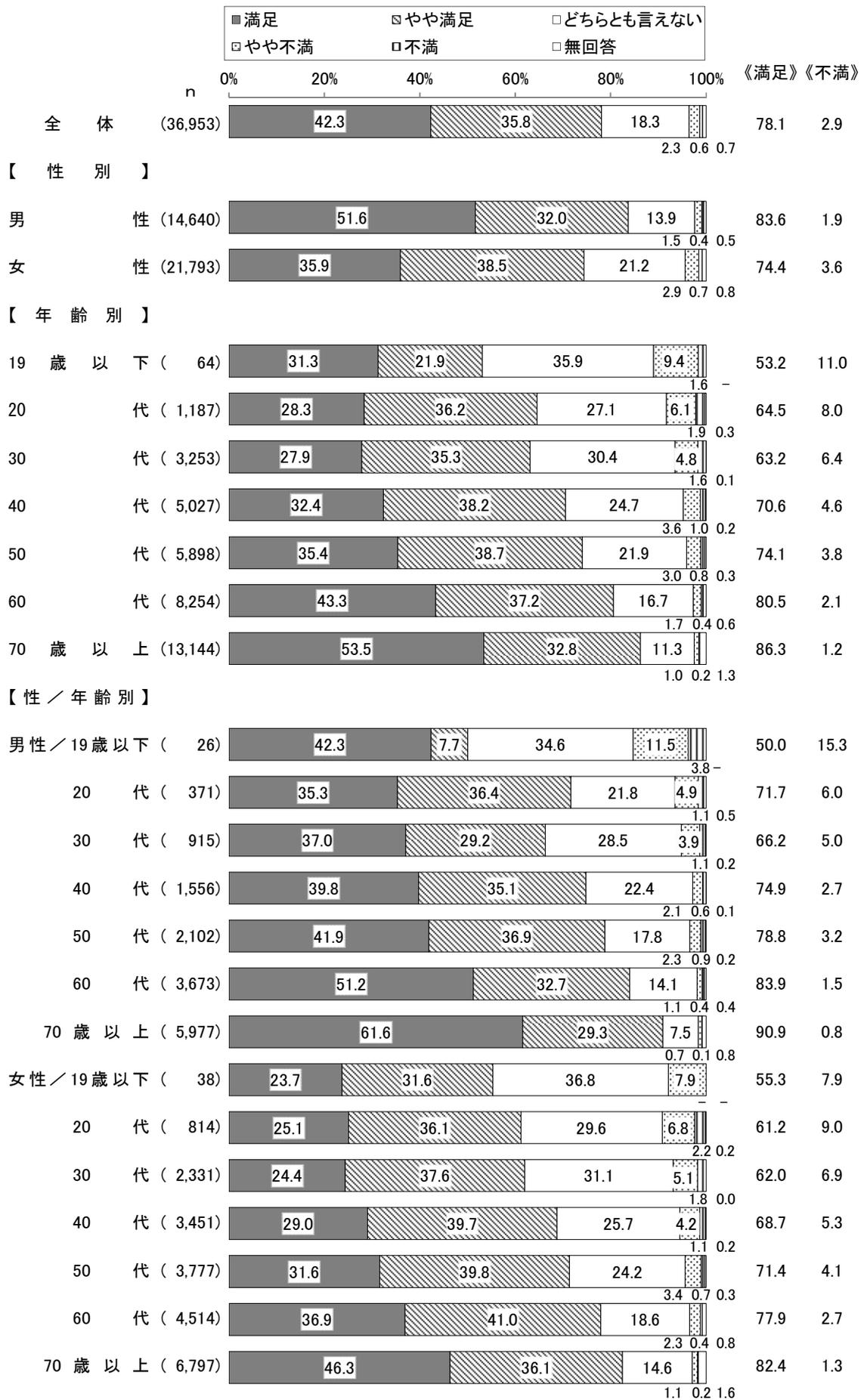
① 安全性の満足度（利用区分別、給水方式別）〈図表2-2-73〉



<特徴>

- 全体で見ると「満足」が42.3%で最も高く、「やや満足」(35.8%)を合わせた《満足》は78.1%となっている。一方、《不満》は2.9%となっている。
- 利用区分別では、《満足》は、一般家庭用と店舗併用等で80.3%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、《満足》は、直圧直結給水方式で82.8%と最も高く、増圧直結給水方式で81.0%と続く。

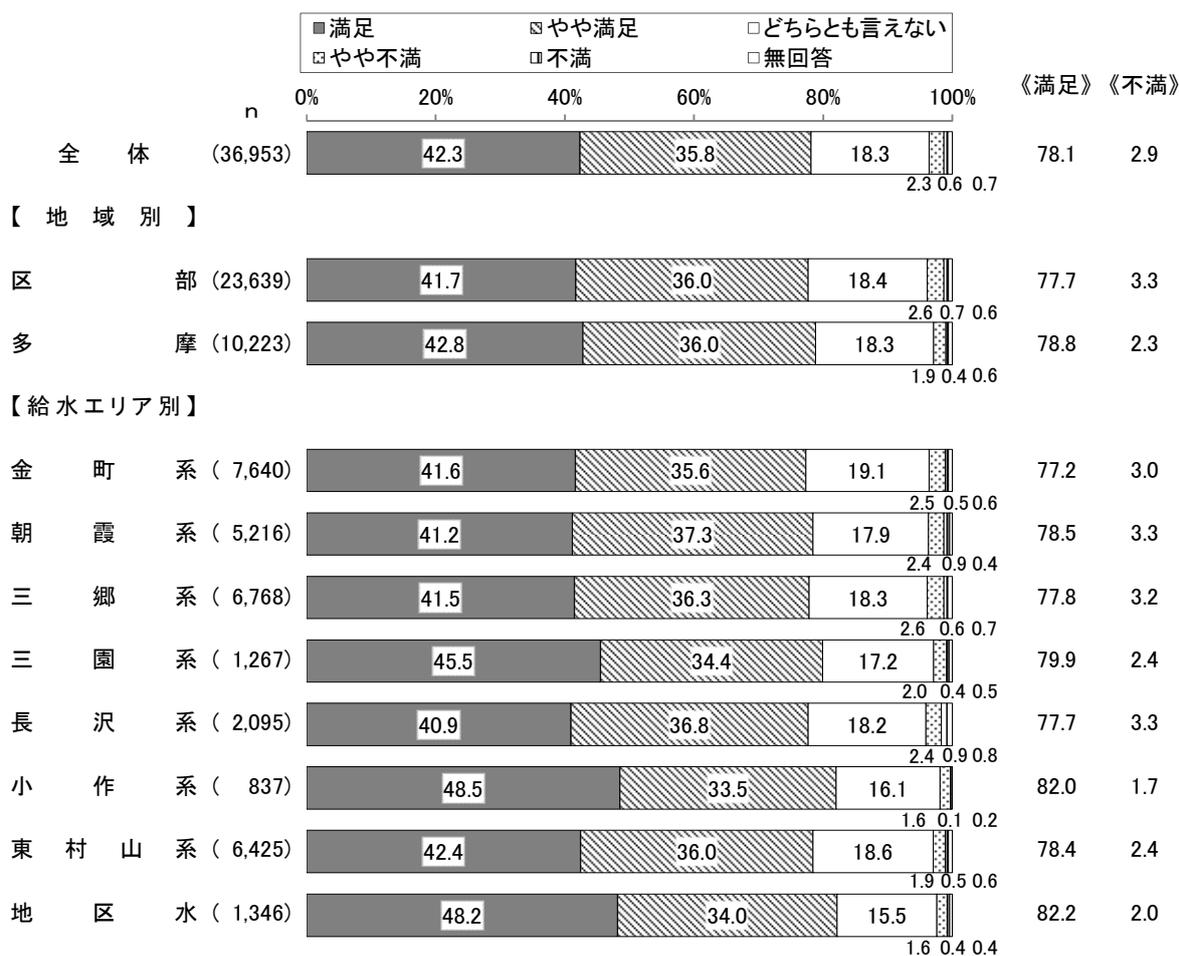
② 安全性の満足度（属性別）〈図表 2-2-74〉



<特徴>

- 性別では、《満足》は、男性（83.6%）の方が女性（74.4%）より9.2ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《満足》は、19歳以下（53.2%）で最も低く、おおむね年齢が上がるにつれ高くなり、70歳以上（86.3%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《満足》は、男女とも70歳以上（男性：90.9% 女性：82.4%）で最も高くなっている。

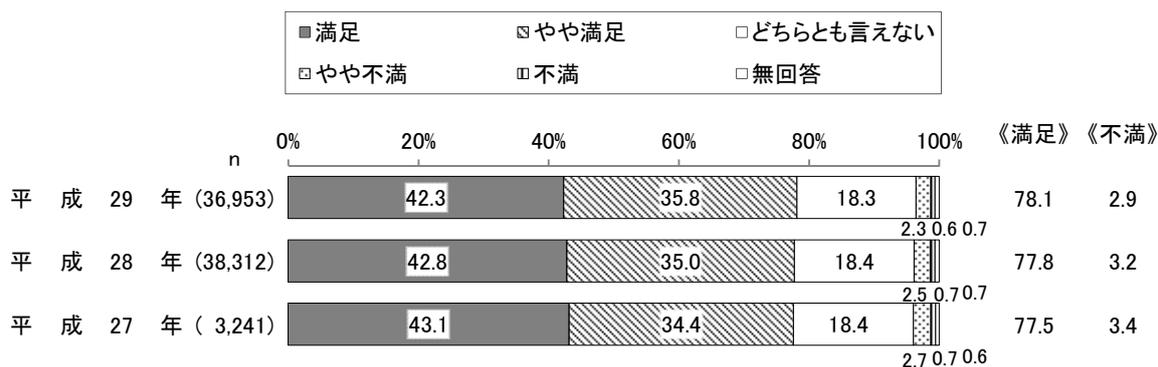
③ 安全性の満足度（地域別、給水エリア別）〈図表2-2-75〉



<特徴>

- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、《満足》は、地区水（82.2%）で最も高く、次いで小作系（82.0%）となっている。

④ 安全性の満足度（時系列：全体）〈図表 2-2-76〉

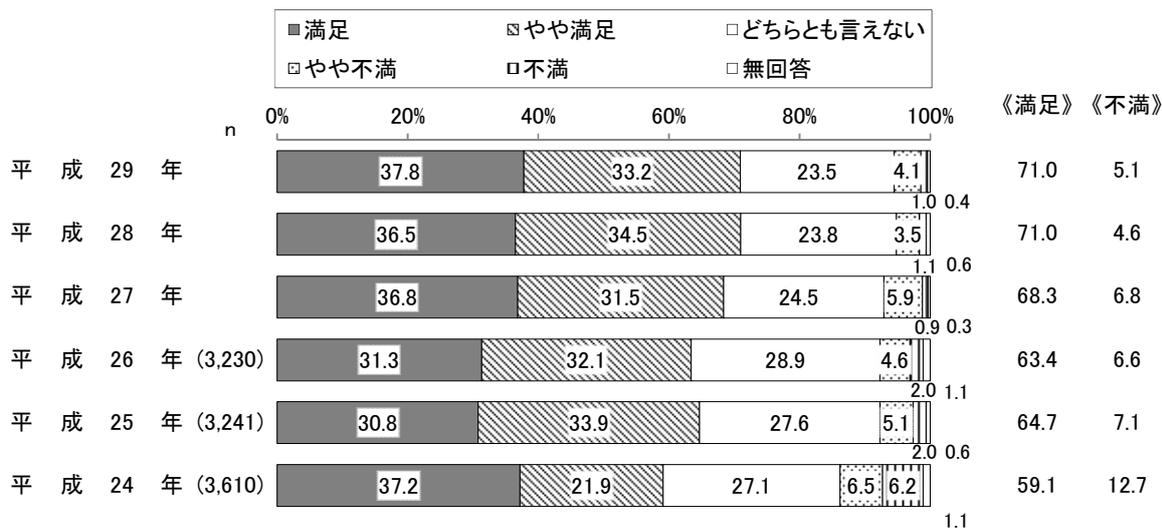


<特徴>

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、「満足」が7割台半ばを超え、「どちらとも言えない」が2割近くで推移している。

参考 安全性の満足度（時系列：全体）〈図表 2-2-77〉

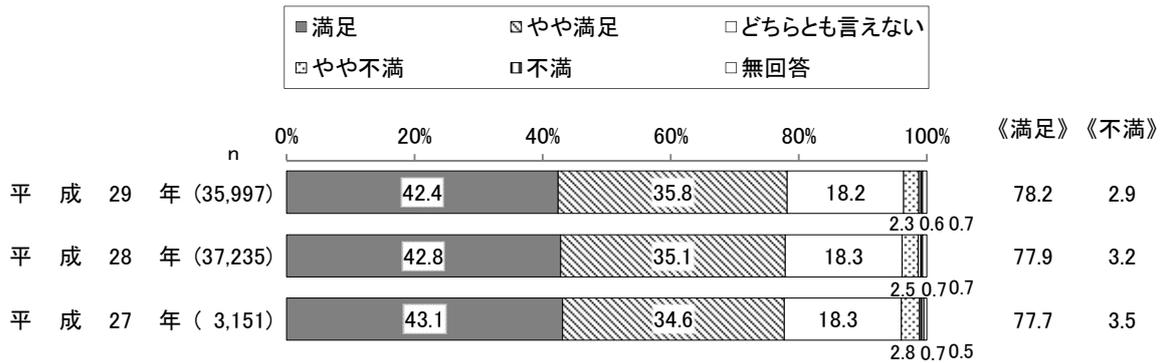


<特徴>

○参考までにウェイトバック集計値で、今回調査を全体で見ると、「満足」は71.0%となっている。「どちらとも言えない」は23.5%となっている。

⑤ 安全性の満足度（時系列：「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計）

〈図表2-2-78〉



＜特徴＞

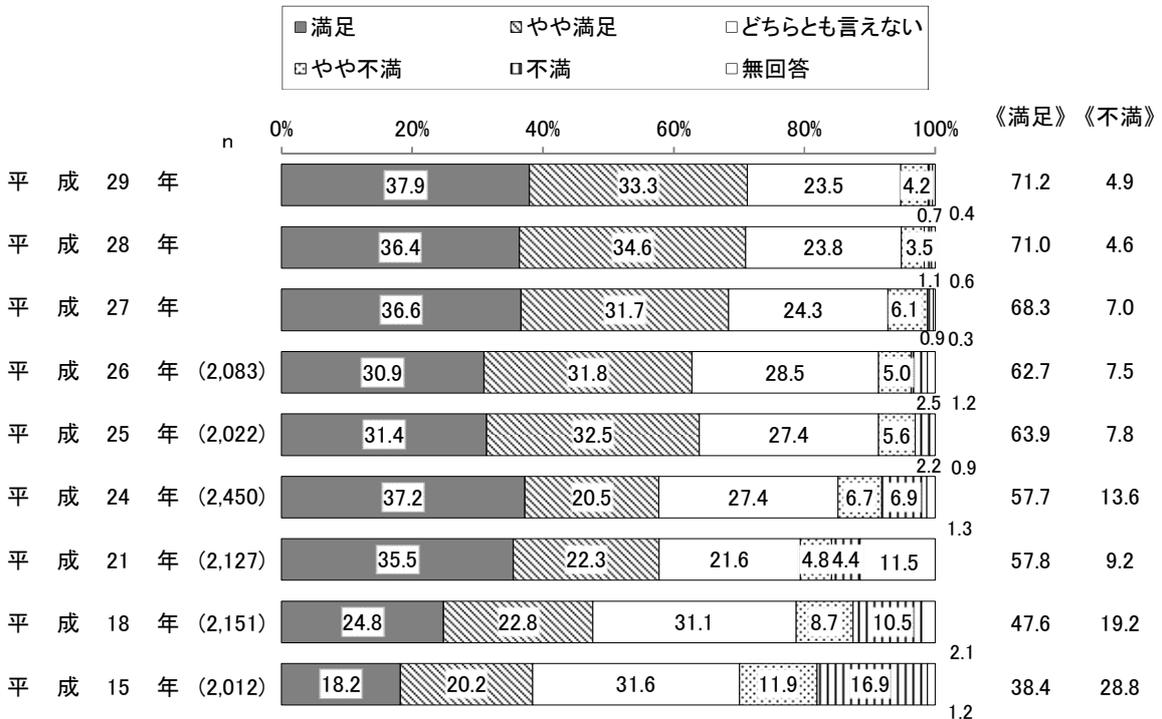
○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が7割台半ばを超え、「どちらとも言えない」が2割近くで推移している。

参考

安全性の満足度（時系列：「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計）

〈図表2-2-79〉



＜特徴＞

○参考までにウェイトバック集計値で、今回調査を「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計で見ると、《満足》は71.2%となっている。「どちらとも言えない」は23.5%となっている。

(9) 水道水の出具合（水量・水圧）の満足度

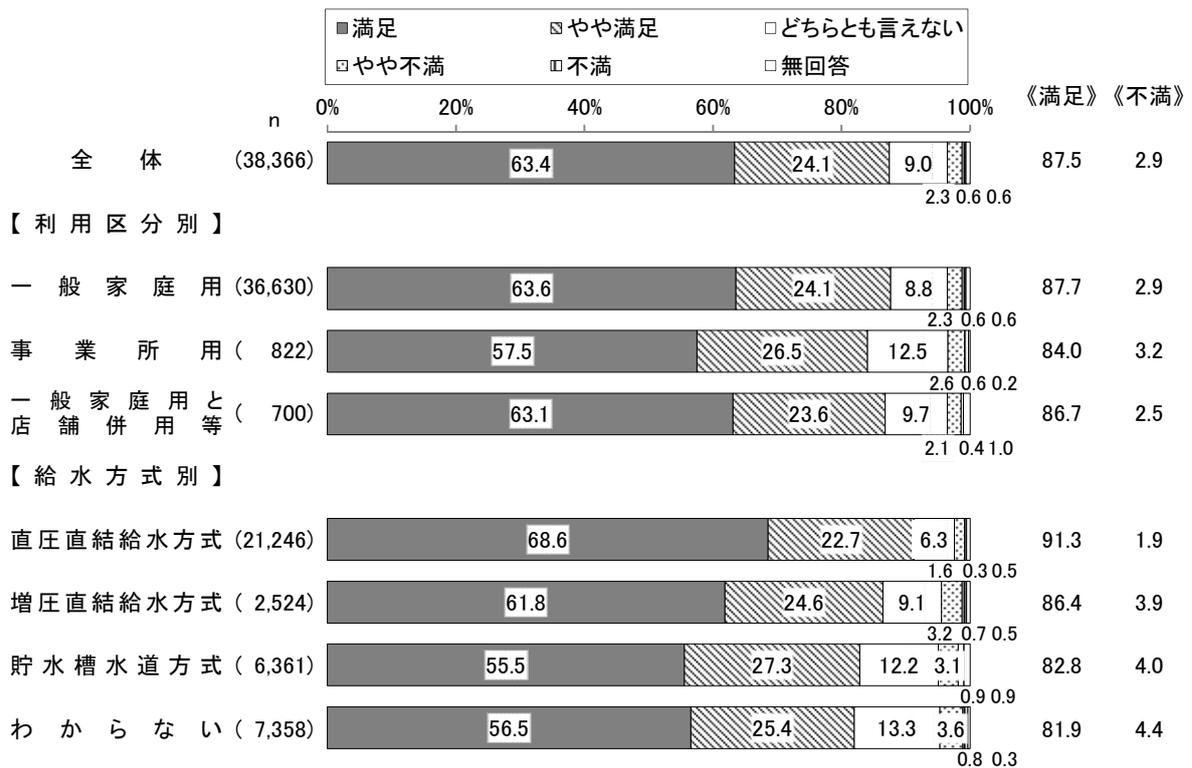
問 東京の水道水の出具合（水量・水圧）を、どのように感じますか。

- 1) 満足 2) やや満足 3) どちらとも言えない 4) やや不満 5) 不満

[C : 問 11]

[調査結果]

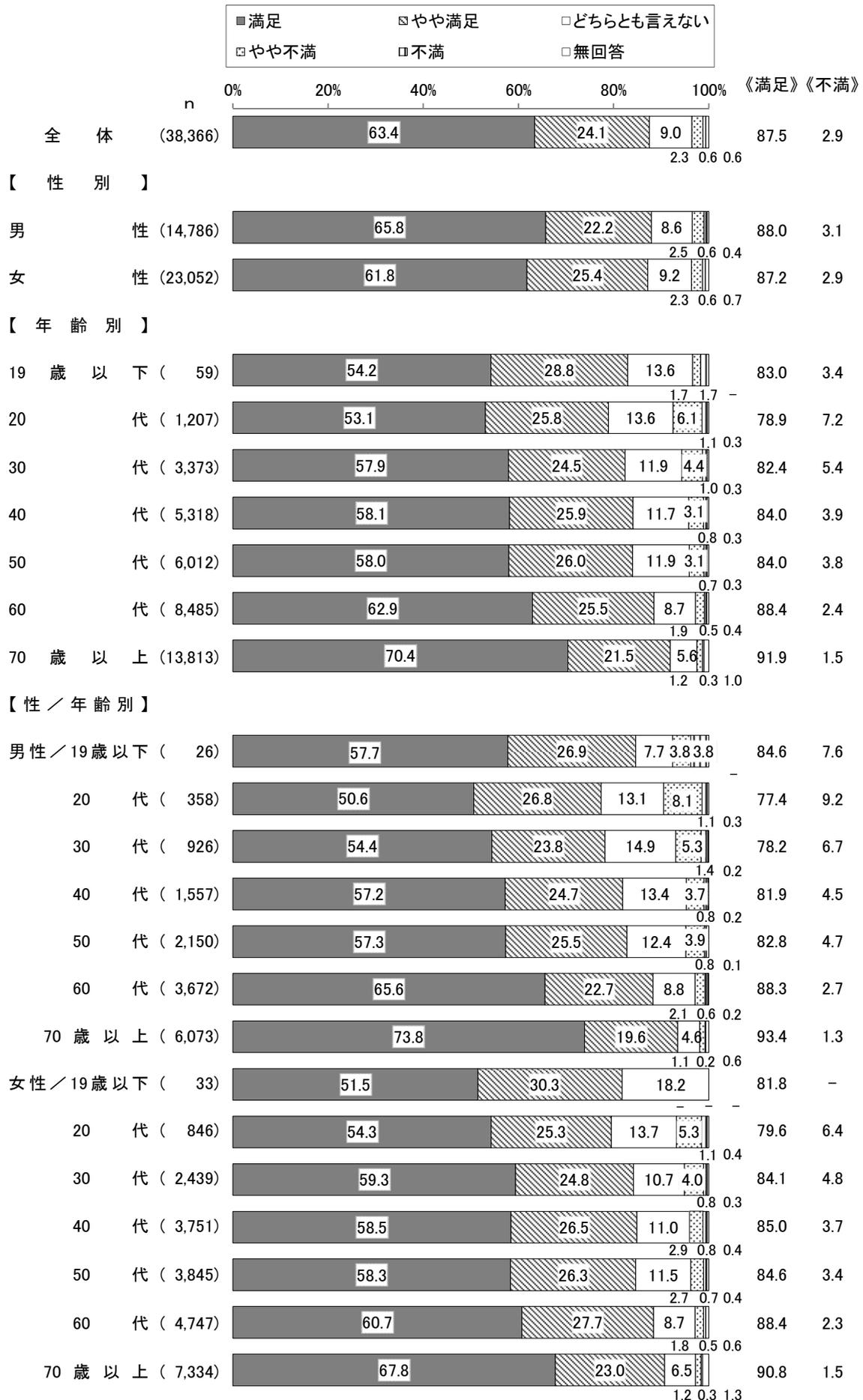
① 水道水の出具合（水量・水圧）の満足度（利用区分別、給水方式別）〈図表2-2-80〉



<特徴>

- 全体で見ると「満足」が63.4%で最も高く、「やや満足」(24.1%)を合わせた《満足》は87.5%となっている。一方、《不満》は2.9%となっている。
- 利用区分別では、《満足》は、一般家庭用で87.7%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、《満足》は、直圧直結給水方式で91.3%と最も高くなっている。

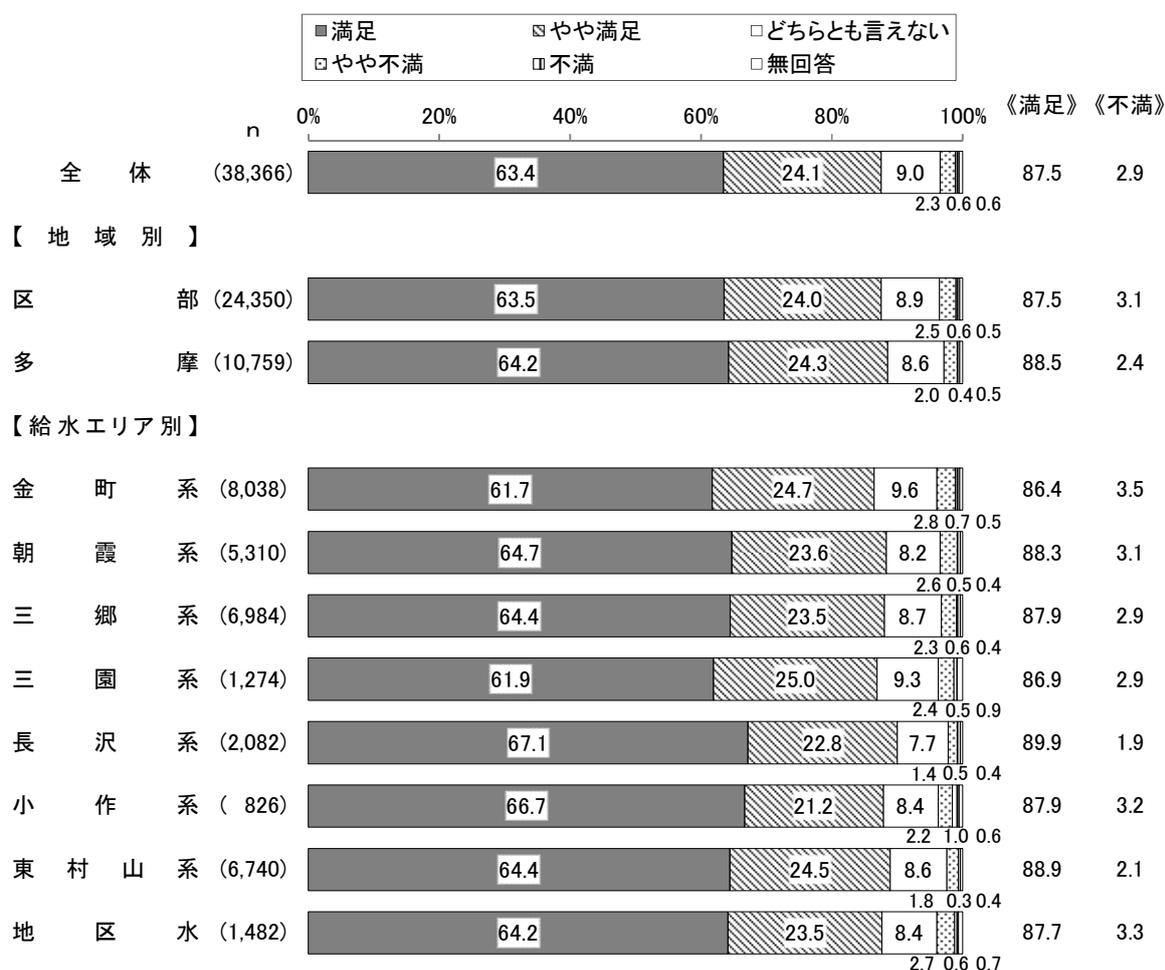
② 水道水の出具合（水量・水圧）の満足度（属性別）〈図表2-2-81〉



<特徴>

- 性別では、特に大きな違いはみられない。
- 年齢別では、《満足》は、20代（78.9%）で低く、おおむね年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（91.9%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《満足》は、男女とも70歳以上（男性：93.4% 女性：90.8%）で9割台と高くなっている。

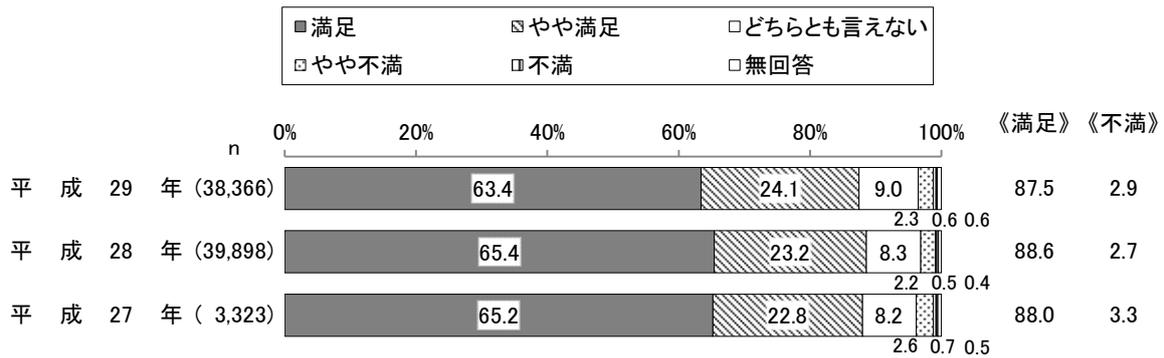
③ 水道水の出具合（水量・水圧）の満足度（地域別、給水エリア別）〈図表2-2-82〉



<特徴>

- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、《満足》は、長沢系（89.9%）で最も高く、東村山系（88.9%）、朝霞系（88.3%）と続く。

④ 水道水の出具合（水量・水圧）の満足度（時系列：全体）〈図表 2-2-83〉

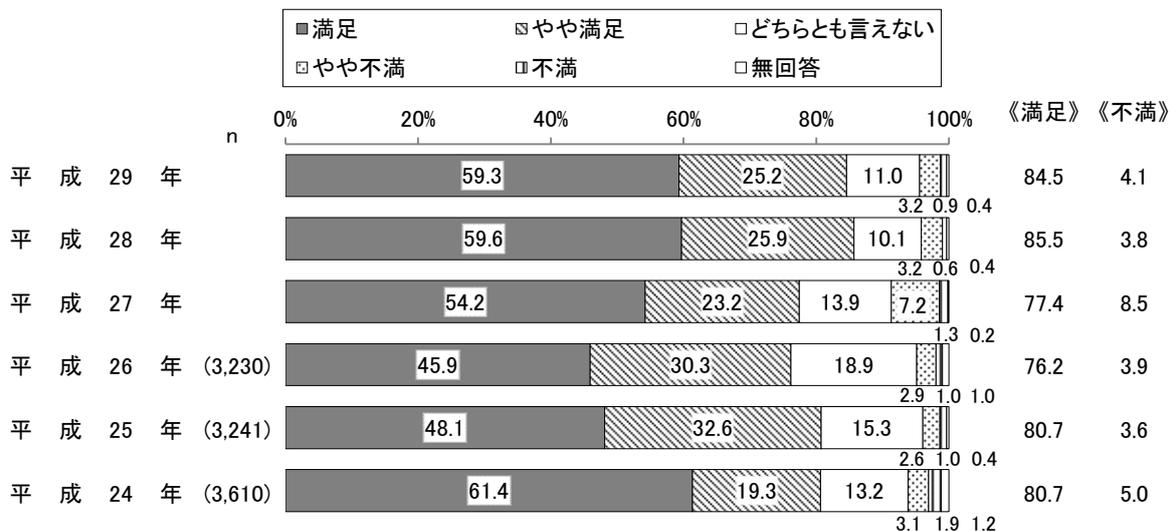


<特徴>

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、「満足」が9割近く、「どちらとも言えない」が1割近くで推移している。

参考 水道水の出具合（水量・水圧）の満足度（時系列：全体）〈図表 2-2-84〉

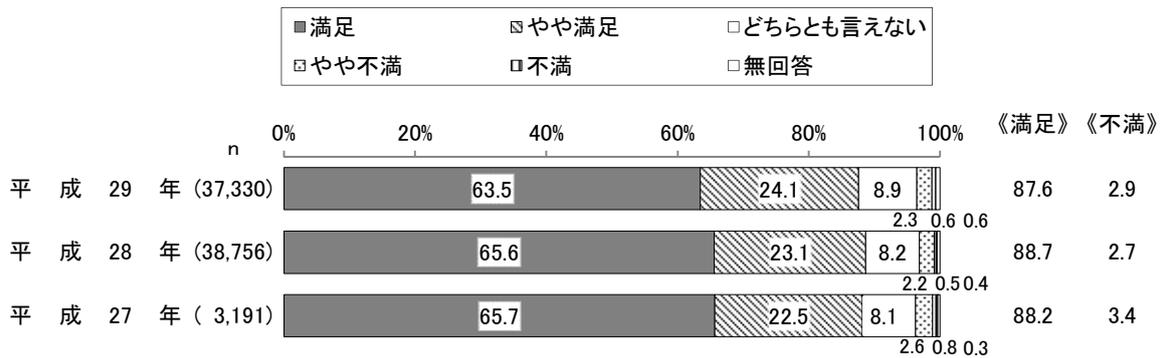


<特徴>

○参考までにウェイトバック集計値で、今回調査を全体で見ると、「満足」は84.5%となっている。「どちらとも言えない」は11.0%となっている。

⑤ 水道水の出具合（水量・水圧）の満足度

（時系列：「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計）〈図表2-2-85〉



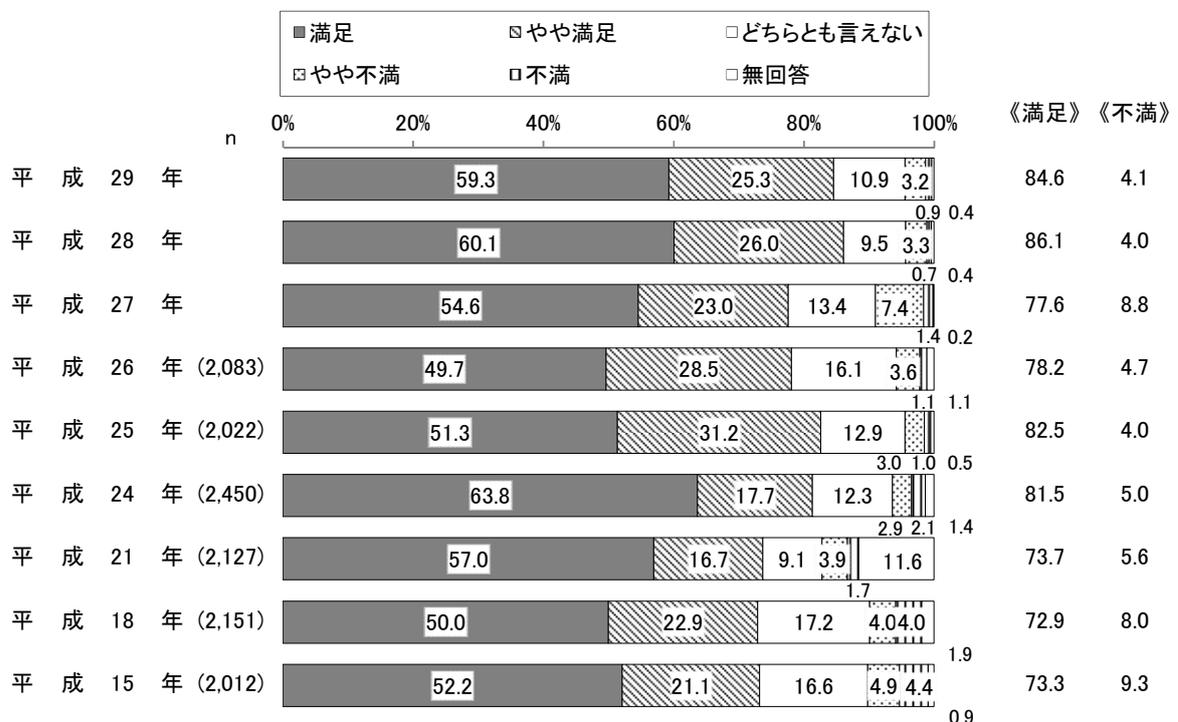
<特徴>

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が9割近く、「どちらとも言えない」が1割近くで推移している。

参考 水道水の出具合（水量・水圧）の満足度

（時系列：「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計）〈図表2-2-86〉



<特徴>

○参考までにウェイトバック集計値で、今回調査を「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計で見ると、《満足》は84.6%となっている。「どちらとも言えない」は10.9%となっている。

(10) 水質に対する満足度に関する詳細分析

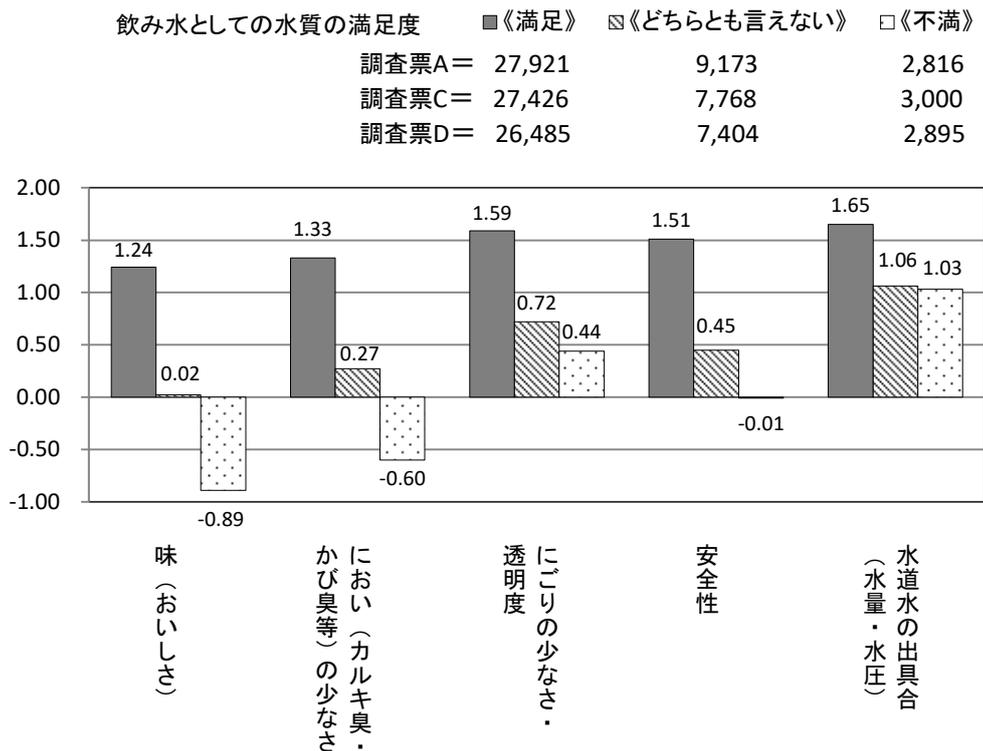
① 飲み水としての水質の満足度と味やにおいなどの満足度との関係

- 味やにおいなどの満足度とは、「味（おいしさ）」、「におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさ」、「にごりの少なさ・透明度」、「安全性」、「水道水の出具合（水量・水圧）」の5項目での満足度をいう。
- 飲み水としての水質の満足度と、味やにおいなどの満足度の関係性をみるに当たって、味やにおいなどの比較を簡単にするため、下式のように5段階評価を与えて、平均点を算出した。

$$\text{平均点} = \frac{[\text{「満足」} \times 2 \text{点}] + [\text{「やや満足」} \times 1 \text{点}] + [\text{「どちらとも言えない」} \times 0 \text{点}] + [\text{「やや不満」} \times (-1 \text{点})] + [\text{「不満」} \times (-2 \text{点})]}{\text{回答者数} - \text{無回答}}$$

この算出方法では、平均点は-2.00点から2.00点の間に分布し、0.00点が中間点であり、2.00点に近いほど満足度は高く、逆に-2.00点に近いほど満足度が低いということを表す。

〈図表 2-2-87〉



〈特徴〉

- 味やにおいなどの満足度について、飲み水としての水質に《満足》と回答した人では、5項目全てが1.00点以上の満足度となっているが、「味（おいしさ）」と「におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさ」が、他の3項目に比べるとやや低い。一方、水質に《不満》と回答した人では、「味（おいしさ）」と「におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさ」での満足度が低くなっており、「味」と「におい」とが飲み水としての水質の評価を左右しているといえる。

(11) 水道水の水質検査項目がミネラルウォーターより多いことの認知度

問 水道水に関して、法令で安全のため水質検査項目が定められており、その項目数はミネラルウォーターより多いことを知っていますか。

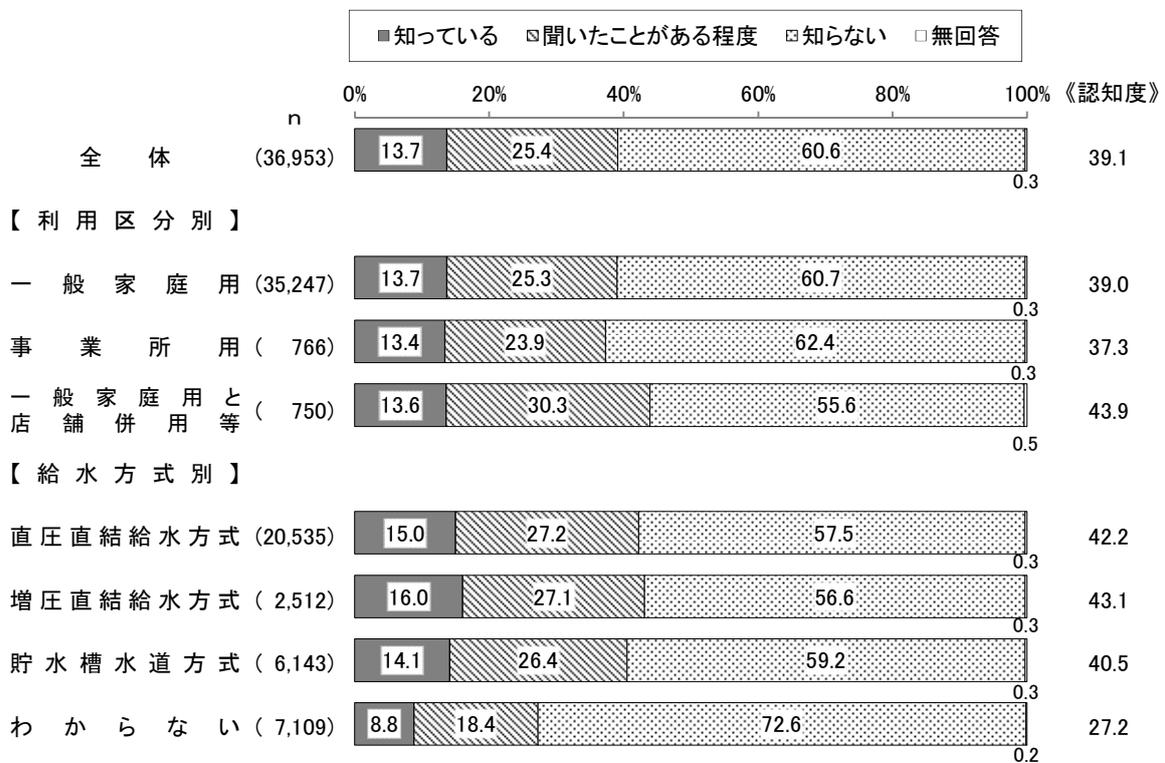
- 1) 知っている 2) 聞いたことがある程度 3) 知らない

[D : 問 10]

[調査結果]

① 水道水の水質検査項目がミネラルウォーターより多いことの認知度（利用区分別、給水方式別）

〈図表 2-2-88〉

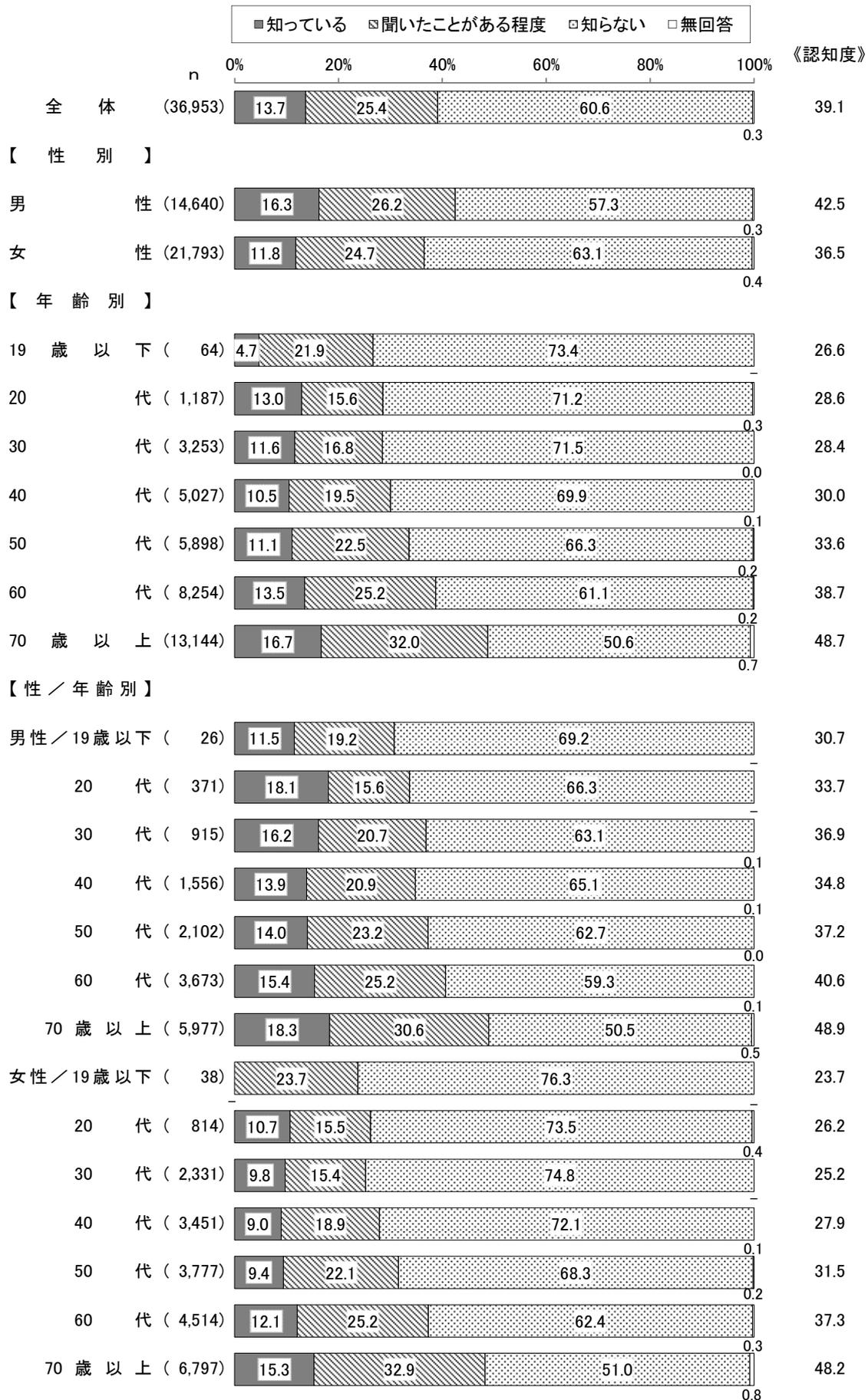


<特徴>

- 全体で見ると、「知らない」が60.6%で最も高くなっている。次いで「聞いたことがある程度」が25.4%で、「聞いたことのある程度」と「知っている」(13.7%)を合わせた《認知度》は39.1%となっている。
- 利用区分別では、《認知度》は、一般家庭用と店舗併用等で43.9%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、《認知度》は、増圧直結給水方式で43.1%と最も高く、直圧直結給水方式で42.2%と続く。

② 水道水の水質検査項目がミネラルウォーターより多いことの認知度（属性別）

〈図表2-2-89〉

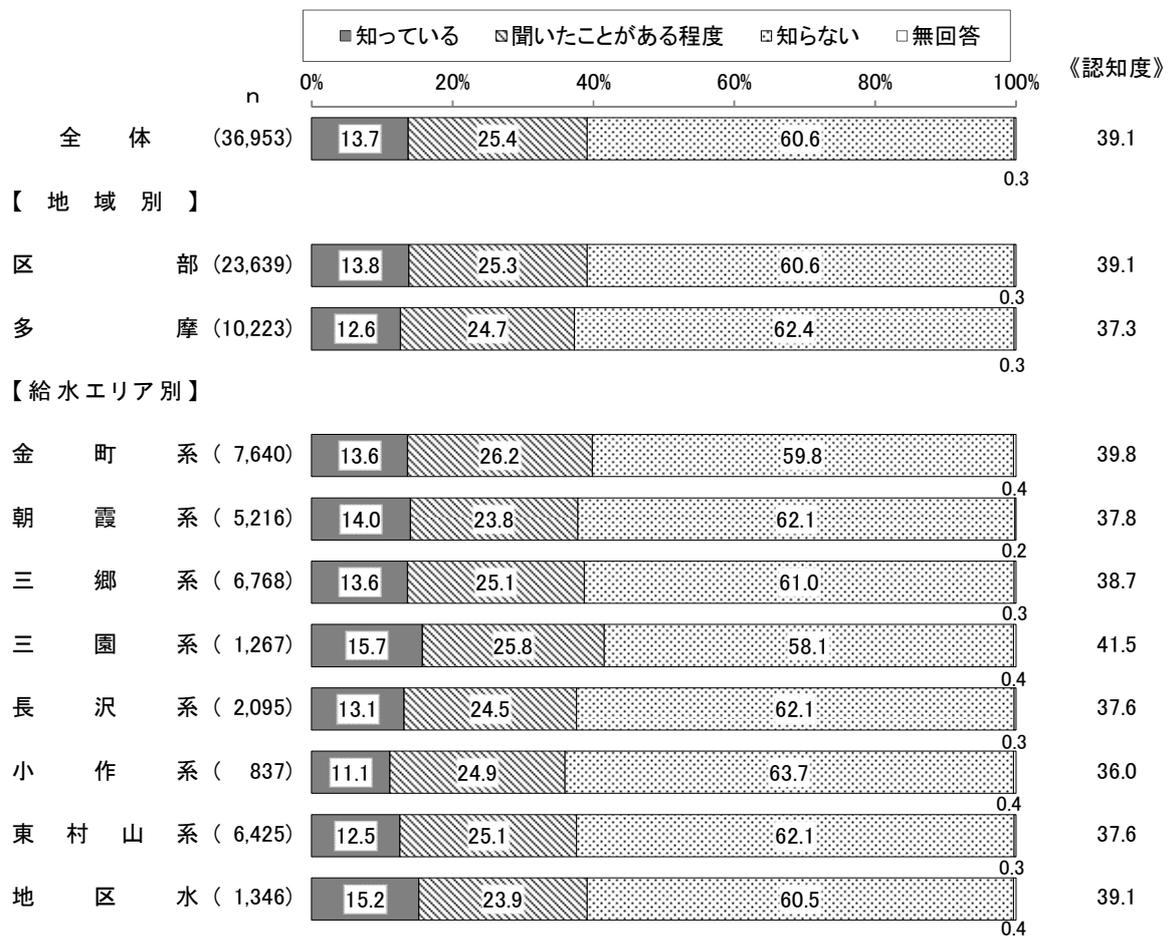


<特徴>

- 性別では、《認知度》は、男性（42.5%）の方が女性（36.5%）より6.0ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《認知度》は、おおむね年齢が上がるにつれ高くなり、70歳以上（48.7%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《認知度》は、男女ともおおむね年齢が上がるにつれ高くなり、男女とも70歳以上（男性：48.9% 女性：48.2%）で5割近くと高くなっている。

③ 水道水の水質検査項目がミネラルウォーターより多いことの認知度（地域別、給水エリア別）

〈図表2-2-90〉

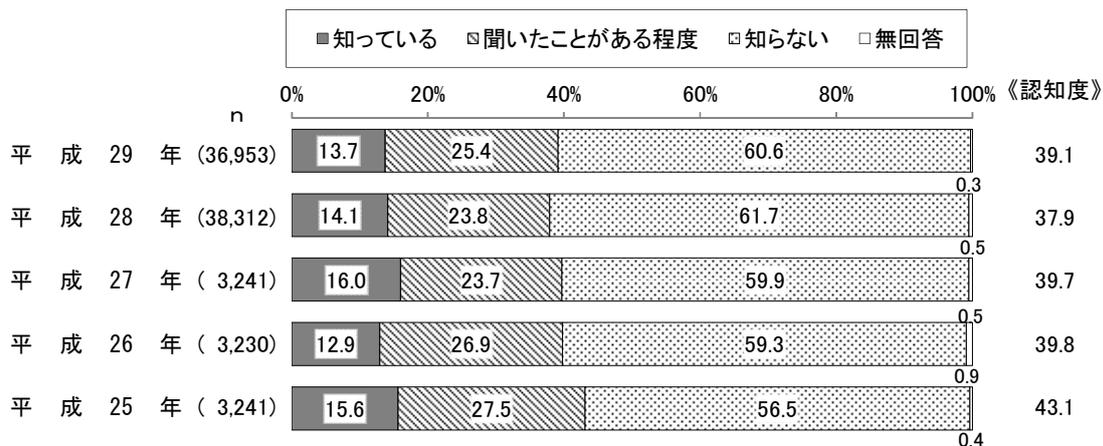


<特徴>

- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、《認知度》は、三園系（41.5%）で最も高くなっている。

④ 水道水の水質検査項目がミネラルウォーターより多いことの認知度（時系列：全体）

〈図表 2-2-91〉



〈特徴〉

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《認知度》は4割弱で推移している。